

第七條 特許辨理士試験ヲ受ケムトスル者ハ試験手数料トシテ金五圓ヲ納ムヘシ  
前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ願書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ  
納付シタル手数料ハ願書ヲ取下ケ又ハ試験ヲ受ケサルトキト雖モ之ヲ還付セス

第八條 特許辨理士試験ハ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

- 一 特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル法令並條約類
- 二 民法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法及國際私法
- 三 數學(代數、幾何、三角術)、物理學及化學

特許辨理士試験委員ハ前項第一號及第二號ノ科目又ハ第一號及第三號ノ科目ニ限り試験ヲ行フコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ第四條ノ公告中ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第九條 特許辨理士試験ハ筆記トス  
試験委員必要ト認ムルトキハ筆記試験ニ合格シタル者ニ對シテ口述試験ヲ行フコトヲ得

第十條 不正ノ方法ニ依リ試験ニ合格シタル者ニ對シテ口述試験ヲ行フコトヲ得

第十一條 試験合格者ヲ定ムル方法ハ試験委員ノ議定スル所ニ依ル

第十二條 試験合格者ノ氏名ハ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第十三條 試験合格者ニハ合格證書ヲ授與ス

附則

第十四條 本則ハ特許辨理士令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

特許代理業者試験規則ハ之ヲ廢止ス

(書式)

第一號書式

試験願書(用紙美濃紙)

族籍

氏

名  
生年月日

私儀特許辨理士試験相受度別紙履歴書相添此段相願候也

現住所

年 月 日

氏

名  
印

特許辨理士試験委員長氏名殿

第二號書式

履歴書(用紙美濃紙)

族籍

氏

名  
生年月日

學事

一何年何月ヨリ何地何某ニ就キ又ハ何學校ニ於テ何學ヲ修メ又ハ何學科卒業

一何年何月何々ノ試験ヲ受ケ及第ス

其ノ證書寫別紙ノ如シ

職業

一何年何月何官職拜命或ハ何業ニ從事、現在何々、

賞罰

一何々

右ノ通相違無之候也

現住所

氏

名  
印

年 月 日

第二章 意匠

●韓國意匠令

四十二年十月  
勅令第三百五號

韓國意匠令

第一條 韓國ニ於ケル意匠ニ關シテハ意匠法ニ依ル

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第二章 意匠

第二條 意匠法第四條ノ菊花御紋章ハ菊花御紋章又ハ李花御紋章ニ該當ス  
第三條 韓國特許令第一條但書、第二條及第四條ノ規定ハ第一條ノ場合ニ關シ之ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

舊令ニ依リ受ケタル意匠ノ登録ハ本令ニ依リ受ケタルモノト看做ス但シ舊令第五條及第六條ニ依ル登録意匠ニ付テハ舊令第五條第一項但書第二項及第六條但書ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有ス

(參照)

●意匠法 四十二年四月 法律第二十四號

意匠法

第一條 物品ニ應用スヘキ形狀、模様、色彩又ハ其ノ結合ニ係ル新規ナル工業的意匠ヲ突出シタル者ハ本法ニ依リ意匠ノ登録ヲ受ケルコトヲ得

第二條 職務上又ハ契約上爲シタル意匠ニ付登録ヲ受ケルノ權利ハ勤務規程又ハ契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ職務ヲ執行セシムル者又ハ使用者ニ屬ス

職務ノ執行又ハ契約ノ履行ニ依ル勤務中公務員又ハ被用者ノ爲シタル考案ニシテ職務上又ハ契約上爲シタルモノニ非サル意匠ニ付案出前ニ登録ヲ受ケルノ權利又ハ意匠權ヲ讓渡セシムルコトヲ定メタル勤務規程又ハ契約ノ條項ハ之ヲ無効トス

本條ニ於テ公務員ト稱スルハ刑法第七條第一項ノ公務員ヲ指ス

第三條 本法ニ於テ新規ト稱スルハ左ノ各號ニ該當セザルモノヲ謂フ

一 登録出願前帝國内ニ於テ公然知ラレ若ハ公然用セラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

二 登録出願前容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ帝國内ニ頒布セラレタル刊行物ニ記載セラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

同一物品ニ應用スヘキ意匠ニシテ自己ノ登録意匠ノミニ類似スルモノハ新規ト看做ス

第四條 左ニ掲ケル意匠ニ付テハ之ヲ登録セズ

一 菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ形狀又ハ模様ヲ有スルモノ

二 秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ世人ヲ欺瞞スルノ虞アルモノ

第五條 同一物品ニ應用スヘキ同一又ハ類似ノ意匠ニ付各別ニ登録ヲ受ケルノ權利ヲ有スル者二人以上アルトキハ最先ニ出願ヲ爲シタルモノニ限リ登録ス其ノ同日ノ出願ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ之ヲ登録セズ

第六條 意匠ノ登録ヲ受ケルノ權利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得但シ擔保ニ供スルコトヲ得ズ

登録ヲ受ケルノ權利ノ承継ハ登録出願前ニ在リテハ登録ヲ出願シ登録出願後ニ在リテハ出願人ノ名義變更ヲ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ同日ノ出願又ハ届出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第七條 實用新案ノ登録ノ出願ヲ爲シ登録スヘカラストノ査定ヲ受ケタル者其ノ最初ノ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ實用新案ニ係ル意匠ニ付登録ヲ出願シタルトキハ實用新案ノ登録ヲ出願シタル日ニ於テ出願シタルモノト看做ス

第八條 意匠權ハ登録ニ依リ發生ス

意匠權者ハ登録出願ノ際指定シタル物品ニ付業トシテ其ノ意匠ヲ應用シ又ハ之ヲ應用シタル物品ヲ販賣若ハ頒布スルノ權利ヲ專有ス

同一物品ニ應用スヘキ互ニ類似スル意匠ノ意匠權ハ最先ニ發生シタル意匠權ト合體スルモノトス

同一又ハ類似ノ意匠ニ關シテハ意匠權ハ其ノ出願前ノ出願ニ係ル實用新案權ニ依リ制限ヲ受ケルモノトス

第九條 意匠權ノ存續期間ハ十年トス

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ原權利ノ範圍内ニ於テ登録意匠ヲ實施スルノ權利ヲ有ス

一 同一又ハ類似ノ意匠ニ對スル二以上ノ登録中其ノ一カ無効ト爲リタル場合ニ於テ善意ナル原意匠權者

二 前號ノ原意匠權ニ付善意ニ實施ノ權利ヲ得テ登録ヲ受ケタル者

特許法第三十六條及第三十七條ノ規定ハ前項ノ權利ニ之ヲ準用ス

第十一條 意匠權ハ其ノ意匠ヲ應用スル物品ニ依リ分割シテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第十二條 意匠ノ登録カ第一條、第二條、第四條、第五條、第六條第二項又ハ第二十三條ノ規定ニ反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ登録力登録ヲ受ケルノ權利ヲ留シタル者ニ對シ爲シタルモノナルトキ亦同シ

第十三條 登録スヘシト査定アリタルトキハ意匠原簿ニ登録シ意匠登録證ヲ下付ス

第十四條 登録スヘシトノ査定ヲ受ケタル者又ハ意匠登録證主ハ意匠料トシテ每件左ノ金額ヲ納付スヘシ  
一 第一年乃至第三年分 登録ヲ受ケルトキ一時 金三四  
二 第四年乃至第十年 毎年 金二圓

同一物品ニ應用スヘキ互ニ類似スル意匠ニ付テハ其ノ内ノ一ハ前項ノ意匠料ヲ、其ノ他ハ各意匠ニ付一時金一圓ヲ納付スヘシ

第十五條 意匠ノ登録ヲ出願スル者ハ各意匠ニ付命令ノ定ムル額別内ニ於テ其ノ意匠ヲ應用スヘキ物品ヲ指定スヘシ

第十七條 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第二章 意匠

第十六條 意匠登録ノ出願ヲ爲ス者ハ出願中及登録後三年以内其ノ意匠ヲ秘密ニセムコトヲ請求スルコトヲ得  
 第十七條 意匠登録ノ出願アリタルトキハ審査官ナシテ之ヲ査定セシム  
 第十八條 審査官ハ第四條、第五條、第六條第二項及第二十三條ノ規定ニ依リ出願ニ係ル意匠カ登録スヘキモノナリヤ否ニ付査定スヘシ但  
 シ第一條又ハ第二條ノ規定ニ該當セサルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ理由トシテ登録拒絶ノ査定ヲ爲スヘシ  
 第十九條 登録拒絶ノ査定ニ不服アル者ハ査定ノ途途ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ請求スルコトヲ得  
 前項ノ請求アリタルトキハ前審査ニ干與セサル審査官ナシテ更ニ之ヲ査定セシム  
 第二十條 審査官ハ左ニ掲ケル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得  
 一 第十二條ノ規定ニ依ル登録ノ無効  
 二 意匠權ノ範圍ノ確認  
 審査官ノ請求ハ審査官又ハ利害關係人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得但シ審査官ハ前項第二號ノ審判及第二條、第五條又ハ第六條第二項ノ規定ニ  
 反ストノ理由ニ依ル前項第一號ノ審判ヲ請求スルコトヲ得  
 審査官ノ請求ニ依ル審判ニ關シテハ其ノ手續ヲ省略スルコトヲ得  
 第二十一條 審判ノ審決ニ不服アル者ハ審決ノ途途ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得  
 第二十二條 特許法第八條、第十二條乃至第十五條、第十六條第一項、第十七條乃至第二十五條、第二十九條、第三十二條、第三十三條、  
 第四十條、第四十一條、第四十三條、第四十五條、第四十九條第二項、第五十條、第五十一條、第五十三條、第五十六條、第五十八條第  
 一項、第五十九條乃至第六十一條、第六十六條乃至第六十八條、第七十條乃至第七十九條、第八十二條、第八十三條第二項、第八十四條  
 第八十五條及第八十七條乃至第九十一條ノ規定ハ意匠ニ關シ之ヲ準用ス  
 第二十三條 外國人ニシテ帝國内ニ住所又ハ營業所ヲ有セサル者ハ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ規定アル場合ノ外意匠權又ハ意匠ニ關スル  
 權利ヲ享有スルコトヲ得ス  
 意匠ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ  
 第二十四條 他人ノ登録意匠ト同一若ハ類似ノ意匠ヲ業トシテ同一ノ物品ニ應用シタル者又ハ其ノ物品ヲ業トシテ販賣若ハ擴布シタル者ハ  
 三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 他人ノ登録意匠ト同一若ハ類似ノ意匠ヲ應用シタル同一ノ物品ヲ業トシテ輸入シタル者又ハ其ノ物品ヲ業トシテ販賣若ハ擴布シタル者ハ罰  
 前項ニ同シ

前二項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス  
 第二十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 一 詐偽ノ所爲ヲ以テ意匠ノ登録ヲ受ケタル者  
 二 登録意匠ヲ應用セサル物品又ハ其ノ容器、包裝等ニ意匠登録ノ標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ其ノ物品ヲ販賣若  
 ハ擴布シタル者  
 三 登録意匠ヲ應用セサル物品ヲ販賣又ハ擴布スル爲廣告、看板、引札等ニ其ノ物品カ登録意匠ヲ應用シタルモノナルコトヲ表示シ又ハ  
 之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者  
 第二十六條 第二十四條ノ犯罪ニ因リ沒收スルコトヲ得ヘキ物ニ付判決官前被告者ヨリ請求アリタルトキハ之ヲ相當ノ代價ニ見替リ被告  
 者ニ交付スル旨渡ヲ爲スヘシ  
 損害ノ額カ交付ヲ受ケタル物ノ見積代價ニ超過スルトキハ被告者ハ其ノ差額ニ限り賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得  
 第二十七條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事ニシテ特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虚偽ノ陳述ヲ爲シ  
 タルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得  
 第二十八條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ四十  
 圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第二十九條 特許辦理士ニ非スシテ意匠ニ關スル代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 附 則 (四十二年勅令第二百九十三號ヲ以テ四十二年十一月一日ヨリ施行ス)  
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
 第十條ノ規定ハ本法施行前無効ト爲リタル意匠ノ登録ニ關シテハ之ヲ適用セス  
 特許法第九十九條、第一百零二條第二項、第一百零五條及第一百零六條ノ規定ハ意匠ニ關シ之ヲ準用ス

●韓國意匠令施行規則 四十二年十一月 統令第五十七號

韓國意匠令施行規則左ノ通改正ス

韓國意匠令施行規則

第十七輯

特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權

第二章 意匠

第一條 韓國意匠令ノ施行ニ關シテハ意匠法施行細則ニ依ル  
 第二條 意匠ノ登録ニ關シテハ明治四十二年勅令第二百九十五號及同年農商務省令第四十七號ニ依ル  
 第三條 韓國特許令施行規則第一條但書、第三條第一項但書及第四條ノ規定ハ意匠ニ關シ之ヲ準用ス  
 附則  
 本令ハ韓國意匠令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 舊韓國意匠令第五條ノ意匠ニ付テハ韓國特許令施行規則附則第二項ノ規定ヲ準用ス  
 (參照)

●意匠法施行細則 四十二年十月 勅令第四十三號

意匠法施行細則

第一條 意匠ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ一意匠ニ付第十三條ニ定メタル類別毎ニ一通ノ願書ヲ作り之ヲ特許局ニ差出スヘシ  
 願書ニハ圖面三通ヲ添附スヘシ  
 第二條 雜形又ハ見本カ貼附シ得ヘキモノナルトキハ之ヲ紙面ニ貼附シタルモノ三箇ヲ差出シ圖面ノ差出ニ代ユルコトヲ得寫眞ヲ紙面ニ貼附シタルモノ三箇ヲ差出ストキ亦同シ  
 前項ニ依リ差出ス寫眞ニハ蓋紙ヲ附スヘカラス  
 第三條 同一物品ニ應用スヘキ自己ノ登録意匠又ハ出願中ノ意匠ニ類似スル意匠ニ付登録ヲ受ケムトスル者ハ類似意匠トシテ登録ヲ出願スヘシ  
 同一物品ニ應用スヘキ登録意匠ニ類似スル類似意匠ノ登録ヲ出願スル者ハ願書ニ其ノ登録意匠ノ登録證ヲ添附シ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ  
 前項ノ場合ニ於テ出願ニ係ル意匠ヲ登録シタルトキハ願書ニ添附シタル登録證ニ其ノ登録番號ヲ記載シ特許局長署名捺印シテ之ヲ送付スヘシ  
 第四條 意匠法第十六條ノ規定ニ依リ其ノ意匠ヲ秘密ニセムコトヲ請求スル者ハ圖面其ノ他其ノ意匠ヲ表示スル物件ヲ密封シ「秘密意匠」ト朱書シ之ヲ願書ニ添附スヘシ  
 第五條 秘密ニスヘキ意匠ハ意匠權者ノ承諾ヲ得タル者若ハ裁判所ノ請求アリタル場合又ハ其ノ意匠ニ關スル審査、再審査、審判若ハ抗告審判ニ付利害關係ヲ有スル者ヨリ請求アリタル場合ノ外之ヲ意匠權者以外ノ者ニ示スコトヲ得ス  
 第六條 秘密ニスヘキ登録意匠ニ付利害關係人カ登録證記ヲ附シタル意匠又ハ之ヲ認識スルニ足ルモノヲ差出シ其ノ登録ノ存否、登録番號、登録ノ年月日、意匠ヲ應用スヘキ物品又ハ意匠權者ノ氏名、住所、居所若ハ營業所ノ通知ヲ受ケムコトヲ請求スルトキハ特許局長ハ之ヲ許可スルコトヲ得  
 第七條 意匠法第七條ノ規定ニ依ル登録願書ニハ實用新案ノ登録ノ出願ニ對スル最初ノ査定ノ謄本ヲ添附スヘシ  
 第八條 特許法施行細則第五十三條ノ規定ハ意匠法第五條及第六條第二項但書ノ規定ニ依リ關係人ノ協議ヲ必要トスル場合ニ之ヲ準用ス  
 第九條 登録出願ニ係ル意匠ヲ應用スヘキ物品カ第十三條ニ定メタル二以上ノ類別ニ互ルニ依リ願書ヲ訂正セムトスルトキハ他類ニ屬スル物品ニ付前願書ト同一ノ願書ヲ差出シ同時ニ前出願ヲ訂正スヘシ  
 第十條 第三條ノ規定ニ依リテ出願シタル意匠ニ付登録スヘシトノ査定ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ類似意匠ノ登録番號、願書番號又ハ符號ヲ査定ノ主文中ニ記載スヘシ  
 第十一條 登録證ハ第四號乃至第七號ノ書式ニ依リ之ヲ作り特許局長之ニ署名捺印スヘシ  
 登録證ニハ圖面ヲ添附スヘシ  
 第十二條 意匠登録ノ標記ハ「登録意匠」ノ文字及其ノ登録番號ヲ表示スヘシ  
 意匠法第二十二條ニ基ク特許法第五十六條第四項ノ場合ニ於ケル意匠登録ノ標記ハ前項ニ依リ記載シ「一部」ノ文字ヲ附加スヘシ  
 第十三條 出願人ハ左ノ類別ニ從ヒ意匠ヲ應用セムトスル物品ヲ指定スヘシ  
 第一類 被服、被服地  
 衣服、袴、帶、襪、肩掛、領卷等  
 第二類 頭飾、服飾、裝身具  
 櫛、簪、根掛、胸飾、領飾、胸環、指環、釦鈕、襟針、徽章等  
 第三類 時計及其ノ附屬品  
 表時計、置時計、掛時計、鎖、下ケ物等  
 第四類 傘、杖、鞭  
 第五類 携帶品  
 紙入、貨幣入、名刺入、煙草入、煙管、煙管筒、手摺鞆等  
 第六類 家具、飲食品、室内裝飾品、商品ノ容器包裝類  
 棚、篋箱、机、椅子、桌子、寢臺、額、屏風、衝立、暖爐、火鉢、花瓶、膳、椀、皿、鉢、杓、菓子器、茶器、咖啡具、壺、罎等  
 第七類 敷物  
 第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作権 第二章 意匠

緞通、油團、花莖等

第八類 文房具

硯、筆筒、筆架、硯屏、文鎮、墨葉、水滴、印材、肉池、文筆、硯箱、筆、墨、インキ、筆、ペン、軸等

第九類 燈器

燭臺、手燭、燈籠、洋燈、瓦斯燈、電燈、提燈、燈密、火屋等

第十類 建築物ノ附屬品

障子、襖、屏、欄間、欄干、引手、釘隠、柵等

第十一類 他類ニ屬セサル織物、編物、組物及其ノ製品

襪紗、手巾、卓被、レース、羽織組、帶締組、時計組、飾總等

第十二類 冠物

帽子、頭巾、笠等

第十三類 履物及其ノ附屬品

下駄、草履、靴、鼻緒、爪掛等

第十四類 扇、團扇

第十五類 樂器、玩具、遊戯具

第十六類 菓子及其ノ他ノ食用品

第十七類 紙、皮革及他類ニ屬セサル其ノ製品  
紋紙、紋革、擬革紙、襖紙、壁紙、表紙、包紙、短冊、書簡箋、書簡筒等

第十八類 他類ニ屬セサル陶器、磁器、土器、玻璃器、七寶製品、煉瓦、瓦

第十九類 他類ニ屬セサル漆器、假漆器、油漆塗器ノ類

第二十類 他類ニ屬セサル金屬又ハ石材ノ製品

第二十一類 他類ニ屬セサル木、竹、甲、角、牙、介類ノ製品

第二十二類 他類ニ屬セサル物品

第十四條 第一年乃至第三年分ノ意匠料又ハ類似意匠ノ意匠料ハ登録スヘシトノ査定ノ途途ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ  
第十五條 特許法施行細則第一條乃至第三十九條、第四十四條、第四十五條、第四十八條乃至第五十二條、第五十七條、第六十條、第六

十七條、第六十八條、第七十條乃至第八十五條、第八十七條乃至第九十條及第九十三條ノ規定ハ意匠ニ關シ之ヲ準用ス

附則

第十六條 本則ハ意匠法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 第十二條ノ規定ハ本則施行前ニ附シタル意匠登録ノ標記ニ之ヲ適用セス

第十八條 特許法施行細則第九十七條ノ規定ハ意匠ニ關シ之ヲ準用ス

第十九條 本則施行前登録シタル意匠又ハ登録スヘシトノ査定アリタル意匠ヲ應用スヘキ物品ノ類別ハ本則施行後仍從前ノ例ニ依ル

(書式)

第一號書式

意匠登録願

一 意匠ノ名稱

一 登録請求ノ範圍

一 意匠ヲ應用スヘキ物品

一 案出者ノ氏名、住所(居所又ハ營業所)及職業

(本項ハ出願人カ案出者ナルトキハ記載スルコトヲ要セス)

私(私共)儀前記意匠ニ付登録相受度此段相願候也

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

職業

年 月 日

出願人(案出者)

氏

名 印

(法人ナルトキハ  
ノ代表者氏名印)

特許局長 氏

名 殿

添附書類目録

一 何々

何通

一 何々

何通

第十七條 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作権 第二章 意匠

第二號書式

印紙

類似意匠登錄願

一意匠ノ名稱

一登錄請求ノ範圍

一意匠ヲ應用スヘキ物品

一案出者ノ氏名、住所(居所又ハ營業所)及職業

(本項ハ出願人カ案出者ナルトキハ記載スルコトヲ要セス)

一同一ノ物品ニ應用スヘキ互ニ相類似スル意匠ノ登錄番號

(願書番號又ハ符號)

私(私共)儀前記意匠ニ付登錄相受度此段相願候也

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

職業

年 月 日

出願人(案出者)

氏

名

印 (法人ナルトキハ  
法人ノ名稱及其  
ノ代表者氏名印)

特許局長 氏

名殿

添附書類目錄

一何々 何通

一何々 何通

第三號書式

印紙

意匠品(意匠圖案)出品届

一意匠ノ名稱

一案出者ノ氏名及住所(居所又ハ營業所)

(本項ハ届出人カ案出者ナルトキハ記載スルコトヲ要セス)

私(私共)儀別紙説明書及圖面ニ記載スル意匠品(意匠圖案)ヲ何年何月何日ヨリ何所ニ於テ政府(何道、何府、何縣)ノ開設スル博覽會(共進會)(萬國博覽會)ニ出品可致候ニ付此段及御願候也

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

職業

年 月 日

氏

名

印 (法人ナルトキハ  
法人ノ名稱及其  
ノ代表者氏名印)

特許局長 氏

名殿

添附書類目錄

一何々 何通

一何々 何通

第四號書式

第何號

意匠登錄證

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

氏

名(名稱)

案出者 何縣何誰

一意匠ノ名稱

一意匠ヲ應用スヘキ物品

一(同一ノ物品ニ應用スヘキ互ニ相類似スル意匠ノ意匠權登錄第何號)

前記意匠ハ特許局審査官ニ於テ登錄スヘキモノト査定シタリ仍テ意匠原簿ニ登錄シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年 月 日

特許局長

氏

名 印

第五號書式

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第二章 意匠

類似意匠第何號

類似意匠登錄證

本籍(國籍)  
住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

案出者 何縣何誰

一意匠ノ名稱

一意匠ヲ應用スヘキ物品

一合體スヘキ意匠權登錄第何號

前記意匠ハ特許局審査官ニ於テ登錄スヘキモノト査定シタリ仍テ意匠原簿ニ登錄シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年 月 日

特許局長 氏 名印

第六號書式

復第何號

意匠登錄證複本(類似意匠登錄證複本)

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

一案出者 何縣何誰

一登錄番號(類似意匠第何號)

一意匠ノ名稱

一意匠ヲ應用スヘキ物品

一意匠權存續期間 自明治何年何月何日(合體スヘキ意匠) 至明治何年何月何日(權登錄第何號)

一(同一ノ物品ニ應用スヘキ互ニ相類似スル意匠ノ意匠權登錄第何號)

前記意匠ノ意匠權ニ付意匠登錄證(類似意匠登錄證)複本ヲ請求シタルニ因リ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年 月 日

特許局長 氏 名印

第七號書式

第何號

意匠登錄證(類似意匠登錄證)

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

案出者 何縣何誰

一意匠ノ名稱

一意匠ヲ應用スヘキ物品

一意匠權存續期間 自明治何年何月何日(合體スヘキ意匠) 至明治何年何月何日(權登錄第何號)

一(同一ノ物品ニ應用スヘキ互ニ相類似スル意匠ノ意匠權登錄第何號)

前記意匠ノ意匠登錄證(類似意匠登錄證)何々ノ旨ヲ以テ再下付ヲ請求シタルニ因リ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年 月 日

特許局長 氏 名印

第八號書式

納付書

登録番號又ハ願書番號

意匠ノ名稱

一金何圓也 第何年分意匠料

右納付候也

住所(居所又ハ營業所)

年 月 日

氏 名 印(法人ナルトキハ 法人ノ名稱及其ノ代表者氏名印)

特許局長 氏 名 殿

(參照)

● 意匠ノ登録ニ關スル制 四十二年十月 勅令第二百九十五號

朕意匠ノ登録ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

意匠ノ登録ニ關シテハ特許登録令ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ特許登録令ヲ準用スル場合ニ於テ同令中ニ引用シタル特許法ノ條項ハ意匠法第十條第二項及第二十二條ノ規定ニ依リ準用

シタル特許法ノ條項ニ該當ス

意匠權ヲ分割シテ移轉ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ其ノ移轉スル意匠ヲ應用スル物品ヲ申請書ニ記載スヘシ

附則

本令ハ意匠法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ノ意匠權ノ設定ニ係ル願書申請範圍及案出者ニ關スル部分、圖面及圖面ニ代ルモノハ之ヲ舊意匠原簿ノ一部ト看做ス

(參照)

● 同上勅令施行規則 四十二年十月 農令第四十七號

明治四十二年勅令第二百九十五號意匠ノ登録ニ關スル件施行規則左ノ通相定ム

第一條 意匠ノ登録ニ關シテハ本則ニ定アルモノヲ除クノ外特許登録令施行規則ノ規定ヲ準用ス

第二條 前條ノ規定ニ依リ特許登録令施行規則ヲ準用シタル場合ニ於テ同則中ニ引用シタル特許法又ハ特許登録令ノ條項ハ意匠法又ハ意匠ノ登録ニ關スル件ニ依リ準用シタル特許法又ハ特許登録令ノ條項ニ該當ス

第三條 意匠原簿ハ別記様式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第四條 意匠原簿ノ表題部ハ之ヲ分チテ第一區及第二區トシ第一區ニハ意匠權、第二區ニハ類似意匠ノ意匠權ニ關シ表示欄ニ記載スヘキ事項ヲ記載スヘシ

第五條 意匠權設定ノ登録ヲ爲スニハ第一條ノ規定ニ依リ記載スヘキ事項ノ外表示欄ニ意匠ヲ應用スル物品ノ類別及物品ヲ記載スヘシ

第六條 類似意匠ノ意匠權設定ノ登録ヲ爲スニハ最先ニ發生シタル意匠權ノ登録用紙中表示欄ニ類似意匠ナル旨及其ノ番號ヲ記載シ前條ノ規定ニ準シ登録ヲ爲スヘシ

第七條 類似意匠ノ意匠權カ消滅シ又ハ無効トナリタルトキハ最先ニ發生シタル意匠權ノ登録用紙中表示欄ニ其ノ原因ヲ記載シ消滅又ハ無効トナリタル意匠權ノ表示及表示番號ヲ抹消スヘシ但シ最先ニ發生シタル意匠權カ消滅シ又ハ無効トナリタルトキハ特許登録令施行規則第四十四條乃至第四十六條ニ準シ其ノ登録ヲ爲スヘシ

第八條 意匠ヲ應用スル物品ニ依リ意匠權分割移轉ノ登録ハ料金納付ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ  
前項ノ登録ノ申請アリタル場合ニ於テ登録ヲ爲スニハ特許權分割ノ許可ニ依リ登録ニ準シ其ノ登録ヲ爲スヘシ但シ各登録用紙中表示欄ニ意匠權ノ表示ヲ爲ス場合ニ於テハ第五條ノ規定ニ準シ尙移轉シタル意匠權ノ登録用紙中甲區事項欄ニ取得者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

附則  
第九條 本則ハ明治四十二年勅令第二百九十五號意匠ノ登録ニ關スル件施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
(別記様式)

登録 番號	表 題 部		甲 區		乙 區		丙 區		丁 區		代理人欄
	第一 表示欄	第二 表示欄	番號 順位	事項欄	番號 順位	事項欄	番號 順位	事項欄	番號 順位	事項欄	



●統監府特許局圖書閱覽規程

四十一年九月  
統監第四百二十二號

統監府特許局圖書閱覽規程左ノ通定ム

統監府特許局圖書閱覽規程

第一條 統監府特許局所藏ノ書籍、圖書其ノ他ノ刊行物ハ執務時間内何人ト雖無料ニテ之カ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

第二條 圖書ヲ閱覽セムトスル者ハ閱覽證ヲ差入レ閱覽室内ニ於テ靜肅ニ閱覽スヘシ

第三條 閱覽ヲ終リタル圖書ハ直ニ之ヲ返納スヘシ

第四條 閱覽ノ圖書ハ之ヲ轉貸スルコトヲ得ス

第五條 統監府特許局ニ於テ事務上必要アルトキハ圖書ノ閱覽ヲ拒絕シ又ハ閱覽中ノモノト雖之ヲ返納セシムルコトアルヘシ

第六條 閱覽者故意又ハ怠慢ニ因リ圖書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ之カ賠償ノ責ニ任スヘシ

第三章 實用新案

●韓國實用新案令

四十二年十月  
勅令第三百七號

朕韓國實用新案令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

韓國實用新案令

第一條 韓國ニ於ケル實用新案ニ關シテハ實用新案法ニ依ル

第二條 實用新案法第四條ノ菊花御紋章ハ菊花御紋章又ハ李花御紋章ニ該當ス

第三條 韓國特許令第一條但書、第二條及第四條ノ規定ハ第一條ノ場合ニ關シ之ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前日本國臣民、韓國臣民又ハ米國人民カ日本國ニ於テ受ケタル實用新案ノ登録ハ本令ニ依リ受ケタルモノト看做ス但シ其ノ實用新案權ノ存續期間ハ日本國ニ於ケル存續期間ニ從フ

前項ノ實用新案權者ハ本令施行ノ際現ニ韓國ニ於テ該實用新案ヲ用ウル者及其ノ承繼人ニ對抗スルコトヲ得ス

本令施行前米國ニ於テ特許又ハ意匠ノ登録ヲ受ケタル日本國臣民、韓國臣民又ハ米國人民ニシテ其ノ發明又ハ意匠ニ付本令施行ノ日ヨリ一年內ニ統監府特許局ニ實用新案ノ登録ヲ出願スル場合ニ於テハ無料ニテ登録ヲ受クルコトヲ得

(參照)

●實用新案法

四十二年二月  
法律第二十六號

實用新案法

第一條 物品ニ關シ其ノ形狀、構造又ハ組合ハセニ係リ實用アル新規ノ工業的考案ヲ爲シタル者ハ本法ニ依リ實用新案ノ登録ヲ受クルコトヲ得

第二條 職務上又ハ契約上爲シタル實用新案ニ付登録ヲ受クルノ權利ハ勤務規程又ハ契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ職務ヲ執行セシムル者又ハ使用者ニ屬ス

職務ノ執行又ハ契約ノ履行ニ依リ勤務中公務員又ハ被用者ノ爲シタル考案ニシテ職務上又ハ契約上爲シタルモノニ非サル實用新案ニ付案出願豫メ登録ヲ受クルノ權利又ハ實用新案權ヲ讓渡セシムルコトヲ定メタル勤務規程又ハ契約ノ條項ハ之ヲ無効トス

本條ニ於テ公務員ト稱スルハ刑法第七條第一項ノ公務員ヲ謂フ

第三條 本法ニ於テ新規ト稱スルハ左ノ各號ニ該當セサルモノヲ謂フ  
一 登録出願前同一又ハ類似ノ物品ニ關シ帝國内ニ於テ公然知ラレ若ハ公然用キラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ  
二 登録出願前同一又ハ類似ノ物品ニ關シ容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ帝國内ニ頒布セラレタル刊行物ニ記載セラレタルモノ

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第三章 實用新案

又ハ之ニ類似スルモノ  
第四條 左ニ掲ケル實用新案ニ付テハ之ヲ登録セス

一 菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ形状ヲ有スルモノ  
二 秩序若ハ風俗ヲ案リ又ハ衛生ヲ害スルノ虞アルモノ

第五條 同一又ハ類似ノ實用新案ニ付各別ニ登録ヲ受ケルノ権利ヲ有スル者二人以上アルトキハ最先ニ出願ヲ爲シタルモノニ限り登録ス其ノ同日ノ出願ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ之ヲ登録セス

第六條 實用新案ノ登録ヲ受ケルノ権利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得但シ擔保ニ供スルコトヲ得ス  
登録ヲ受ケルノ権利ノ承継ハ登録出願前ニ在リテハ登録ヲ出願シ登録出願後ニ在リテハ出願人ノ名義變更ヲ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ  
第三者ニ對抗スルコトヲ得但シ同日ノ出願又ハ届出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七條 發明特許又ハ意匠登録ノ出願ヲ爲シ特許又ハ登録スヘカラストノ査定ヲ受ケタル者其ノ最初ノ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ發明又ハ意匠ニ係ル實用新案ニ付登録ヲ出願シタルトキハ發明特許又ハ意匠登録ヲ出願シタル日ニ於テ出願シタルモノト看做ス

第八條 實用新案權ハ登録ニ依リ發生ス  
實用新案權者ハ其ノ登録ヲ受ケタル物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス  
同一又ハ類似ノ考案ニ關シテハ實用新案權ハ其ノ出願前ノ出願ニ係ル特許權又ハ意匠權ニ依リ制限ヲ受ケルモノトス

第九條 實用新案權ノ存続期間ハ三年トス  
前項ノ期間ハ三年間之ヲ延長スルコトヲ得

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ原權利ノ範圍内ニ於テ登録實用新案ヲ實施スルノ權利ヲ有ス  
一 同一又ハ類似ノ實用新案ニ對スル二以上ノ登録中其ノ一カ無効ト爲リタル場合ニ於テ善意ナル原實用新案權者  
二 前號ノ原實用新案權ニ付善意ニ實施ノ權利ヲ得テ登録ヲ受ケタル者

特許法第三十六條及第三十七條ノ規定ハ前項ノ權利ニ之ヲ準用ス

第十一條 實用新案ノ登録カ第一條、第二條、第四條、第五條、第六條第二項又ハ第二十一條ノ規定ニ反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ登録カ登録ヲ受ケルノ權利ヲ專有シタル者ニ對シ爲シタルモノナルトキ亦同シ

第十二條 登録スヘシトノ査定アリタルトキ又ハ實用新案權存続期間延長ノ請求アリタルトキハ實用新案原簿ニ登録シ實用新案登録證ヲ下付ス

第十三條 特許局ハ實用新案公報ヲ發行シ登録實用新案及之ニ關スル必要ナル事項ヲ記載スヘシ但シ秘密ヲ要スル實用新案ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 登録スヘシトノ査定ヲ受ケタル者ハ其ノ登録ヲ受ケル際每件登録料金十五圓ヲ納付スヘシ  
實用新案權存続期間ノ延長ヲ請求スル者ハ每件登録料金三十圓ヲ納付スヘシ

第十五條 實用新案登録ノ出願アリタルトキハ審査官ハ其ノ査定セシム

第十六條 審査官ハ第四條、第五條、第六條第二項及第二十一條ノ規定ニ依リ出願ニ係ル實用新案カ登録スヘキモノナルヤ否ニ付査定スヘシ但シ第一條又ハ第二條ノ規定ニ該當セサルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ理由トシテ登録拒絶ノ査定ヲ爲スヘシ

第十七條 登録拒絶ノ査定ニ不服アル者ハ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ請求スルコトヲ得  
前項ノ請求アリタルトキハ前審査ニ干與セサル審査官ヲシテ更ニ之ヲ査定セシム

第十八條 審判ハ左ニ掲ケル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得  
一 第十一條ノ規定ニ依リ登録ノ無効  
二 實用新案權ノ範圍ノ確認

審判ノ請求ハ審査官又ハ利害關係人ニ限り之ヲ爲スコトヲ得但シ審査官ハ前項第二號ノ審判及第二條、第五條又ハ第六條第二項ノ規定ニ反ストノ理由ニ依リ前項第一號ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第十九條 審査官ノ請求ニ依リ審判ニ關シテハ其ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第二十條 特許法第八條、第十一條第一項及第三項、第十二條乃至第十五條、第十六條第一項、第十七條乃至第二十六條、第二十九條、第三十二條、第三十三條、第四十條、第四十一條、第四十三條乃至第四十六條、第四十九條第二項、第五十條、第五十一條、第五十三條、第五十六條、第五十七條第五項、第六十條、第六十六條乃至第六十八條、第七十條乃至第七十九條、第八十二條、第八十三條第一項及第八十四條乃至第九十一條ノ規定ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

第二十一條 外國人ニシテ帝國内ニ住所又ハ營業所ヲ有セサル者ハ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ規定アル場合ノ外實用新案權又ハ實用新案ニ關スル權利ヲ享有スルコトヲ得ス

實用新案ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第二十二條 實用新案ノ登録ヲ受ケタル物品ヲ業トシテ偽造、模造シタル者又ハ偽造品、模造品ヲ業トシテ販賣、擴布若ハ使用シタル者ハ三

第十七條 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第三章 實用新案 九一一

年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

實用新案ノ登録ヲ受ケタル物品ト同一又ハ類似ノモノヲ業トシテ輸入シタル者又ハ其ノ物品ヲ業トシテ販賣、擴布若ハ使用シタル者ハ同前項ニ同シ

前二項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐偽ノ所爲ヲ以テ實用新案ノ登録ヲ受ケタル者

二 實用新案ノ登録ヲ受ケサル物品又ハ其ノ容器、包裝等ニ實用新案登録ノ標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ其ノ物品ヲ販賣若ハ擴布シタル者

三 實用新案ノ登録ヲ受ケサル物品ヲ販賣又ハ擴布スル爲廣告、看板、引札等ニ其ノ物品カ實用新案ノ登録ニ係ルコトヲ表示セ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

第二十四條 第二十二條ノ犯罪ニ因リ沒收スルコトヲ得ヘキ物ニ付判決言渡前被害者ヨリ請求アリタルトキハ之ヲ相當ノ代價ニ見積リ被害者ニ交付スル旨官渡ヲ爲スヘシ

損害ノ額カ交付ヲ受ケタル物ノ見積代價ニ超過スルトキハ被害者ハ其ノ差額ニ限り賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事ニシテ特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

第二十六條 特許局ヨリ職人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 特許辨理士ニ非スシテ實用新案ニ關スル代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則 (四十二年勅令第二百九十三號ヲ以テ四十二年十一月一日ヨリ施行ス)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條ノ規定ハ本法施行前無効ト爲リタル實用新案ノ登録ニ關シテハ之ヲ適用セス

特許法第九十九條、第一百二條第二項、第一百五條及第一百六條ノ規定ハ實用新案ニ關シテ之ヲ準用ス

### ●韓國實用新案令施行規則

四十二年十一月 統令第五十九號

韓國實用新案令施行規則左ノ通定ム

#### 韓國實用新案令施行規則

第一條 實用新案令ノ施行ニ關シテハ實用新案法施行規則ニ依ル

第二條 實用新案ノ登録ニ關シテハ明治四十二年勅令第二百九十七號及同年農商務省令第四十九號ニ依ル

第三條 韓國特許令施行規則第一條但書、第二條、第三條第一項但書及第四條ノ規定ハ實用新案ニ關シテ之ヲ準用ス

#### 附則

本令ハ韓國實用新案令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

韓國實用新案令附則第四項ニ依ル出願ニハ其ノ發明又ハ意匠カ米國ニ於テ特許又ハ意匠ノ登録ヲ受ケタルモノナルコト及出願人カ其ノ特許權又ハ意匠權ヲ有スルコトヲ證明スヘキ書面ヲ添付スヘシ  
前項ノ出願ニ關シテハ手数料ヲ徵收セス

韓國實用新案令附則第四項ノ實用新案ニ付テハ韓國特許令施行規則附則第二項ノ規定ヲ準用ス

(參照)

### ●實用新案法施行規則

四十二年十月 農令第四十五號

#### 實用新案法施行規則

第一條 實用新案ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ一實用新案ニ付一物品毎ニ一通ノ願書ヲ作り之ヲ特許局ニ差出スヘシ  
願書ニハ圖面二通ヲ添付スヘシ

第二條 圖面ニハ實用新案ノ説明ニ必要ナル部分ヲ示シ之ニ其ノ説明及登録請求ノ範圍ヲ記載スヘシ但シ其ノ説明及登録請求ノ範圍ハ之ヲ別紙ニ記載シ圖面ノ一部トシテ差出スコトヲ得

第三條 實用新案法第七條ノ規定ニ依ル登録願書ニハ發明特許又ハ意匠登録ノ出願ニ對スル最初ノ査定ノ謄本ヲ添付スヘシ

第十七條

特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權

第三章 實用新案

第四條 審査又は再審査ニ關シ必要アルトキハ特許局長ハ出願人又ハ請求人ニ對シ解説書ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第五條 特許法施行細則第五十三條ノ規定ハ實用新案法第五條及第六條第二項但書ノ規定ニ依リ關係人ノ協議ヲ必要トスル場合ニ之ヲ準用ス

第六條 發明特許又ハ意匠登録ヲ出願シタル者ハ其ノ出願ニ對シ最初ノ査定ヲ受ケサル場合ニ限り其ノ出願ヲ實用新案登録願ニ變更ノ請求ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前出願ヲ訂正スヘシ

第七條 實用新案權存續期間延長ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ其ノ存續期間満了ノ日ヨリ一月前ニ請求書ニ登録料ニ相當スル收入印紙ヲ貼附シ登録證ヲ添附シ之ヲ特許局ニ差出スヘシ

第八條 登録證ハ第五號乃至第八號ノ書式ニ依リ之ヲ作り特許局長之ニ署名捺印スヘシ

第九條 實用新案登録ノ標記ハ「登録新案」ノ文字及其ノ登録番號ヲ表示スヘシ

第十條 實用新案法第二十條ニ基ク特許法第五十六條第四項ノ場合ニ於ケル實用新案登録ノ標記ハ前項ニ依リ記載ニ「一部」ノ文字ヲ附加スヘシ

第十一條 特許法施行細則第一條乃至第四十一條、第四十五條、第四十八條乃至第五十二條、第五十五條乃至第五十七條、第六十條、第六十七條、第六十八條、第七十條乃至第八十五條、第八十七條乃至第九十條及第九十三條ノ規定ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

第十二條 本則ハ實用新案法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 第九條ノ規定ハ本則施行前ニ附シタル實用新案登録ノ標記ニ之ヲ適用モス

第十四條 特許法施行細則第九十七條ノ規定ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

第一號書式 實用新案登録願

一 實用新案ノ名稱

一 考案者ノ氏名、住所(居所又ハ營業所)及職業

(本項ハ出願人カ考案者ナルトキハ記載スルコトヲ要セス)

私(私共)係別紙圖面ニ記載スル物品ニ付實用新案登録相受度此段相願候也

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

職業

年 月 日

特許局長 氏 名 殿

添附書類目錄

一 何々 何通

一 何々 何通

第二號書式

存續期間延長請求書

一 登録番號

一 實用新案ノ名稱

私(私共)係前記實用新案權ニ付存續期間延長致度此段請求候也

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

職業

年 月 日

特許局長 氏 名 殿

請求人 氏 名 印

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第三章 實用新案

添附書類目録

一何々 何通  
一何々 何通

第三號書式

實用新案出品届

収入  
印紙

一實用新案ノ名稱

一考案者ノ氏名及住所(居所又ハ營業所)

(本項ハ届出人カ考案者ナルトキハ記載スルコトヲ要セス)

私(私共)儀別紙圖面ニ記載スル實用新案ニ係ル物品ヲ何年何月何日ヨリ何所ニ於テ政府(何道、何府、何縣)ノ開設スル博覽會(共進會)(萬國博覽會)ニ出品可致候ニ付此段及御届候也

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

職業

年 月 日

特許局長 氏

名 殿

添附書類目録

一何々 何通

一何々 何通

第四號書式

出願變更請求書

収入  
印紙

一願書番號

一發明(意匠)ノ名稱

私(私共)儀前記發明(意匠)ノ特許願(意匠登錄願)ヲ實用新案登錄願ニ變更致度此段請求候也

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

職業

年 月 日

特許局長 氏

名 殿

添附書類目録

一何々 何通

一何々 何通

第五號書式

第何號

實用新案登錄證

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

氏

名(名稱)

考案者 何縣何職

一實用新案ノ名稱

前記實用新案ハ特許局審査官ニ於テ登錄スヘキモノト査定シタリ仍テ實用新案原簿ニ登錄シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年 月 日

特許局長

氏

名 印

第六號書式

第何號(原登錄番號)

實用新案登錄證

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

氏

名(名稱)

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第三章 實用新案

考案者 何縣何誰

一 實用新案ノ名稱

前記實用新案權ノ存續期間ノ延長ヲ實用新案原簿ニ登錄シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

第七號書式

複第何號

實用新案登錄證複本

本籍(國籍)  
住所(居所又ハ營業所)

氏

名(名稱)

一 考案者 何縣何誰

一 登錄番號

一 實用新案ノ名稱

一 實用新案權存續期間

自明治何年何月何日  
至明治何年何月何日

前記實用新案權ニ付登錄證複本ヲ請求シタルニ因リ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

第八號書式

第何號(原登錄番號)

實用新案登錄證

本籍(國籍)  
住所(居所又ハ營業所)

氏

名(名稱)

考案者 何縣何誰

一 實用新案ノ名稱

一 實用新案權存續期間

自明治何年何月何日  
至明治何年何月何日

前記實用新案ノ登錄證何々ノ旨ヲ以テ再下付ヲ請求シタルニ因リ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

第九號書式

特許局長

氏

名(名稱)

納付書

願書番號

實用新案ノ名稱

一金何圓也

右納付候也

登錄料

住所(居所又ハ營業所)

氏

名

印(法人ナルトキハ  
代表者氏名印)

(參照)

●實用新案ノ登録ニ關スル制

四十二年十月  
勅令第二百九十七號

朕實用新案ノ登録ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

實用新案ノ登録ニ關シテハ特許登錄令ヲ準用ス但シ使用權設定ノ登録ニ關シテハ同令第十條第二項及第四十二條ノ例ニ依ル

前項ノ規定ニ依リ特許登錄令ヲ準用スル場合ニ於テ同令中ニ引用シタル特許法ノ條項ハ實用新案法第二十條ノ規定ニ依リ準用シタル特許法

ノ條項ニ該當ス

附則

本令ハ實用新案法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ノ實用新案權ノ設定ニ係ル願書中請求範圍及考案者ニ關スル部分、解説書及圖面ハ之ヲ舊實用新案原簿ノ一部ト看做ス

(參照)

●同上勅令施行規則

四十二年十月  
農令第四十九號

明治四十二年勅令第二百九十七號實用新案ノ登録ニ關スル件施行規則左ノ通相定ム

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第三章 實用新案

明治四十二年勅令第二百九十七號實用新案ノ登録ニ關スル件施行規則

實用新案ノ登録ニ關シテハ特許登録令施行規則ノ規定ヲ準用ス但使用權設定ノ登録ヲ爲シタルトキハ使用ヲ要スル特許權ノ登録用紙中相當區事項ニ被使用實用新案權ノ表示ヲ爲シ其ノ實用新案權カ使用權ノ目的タル旨、使用權ノ範圍其ノ他申請書ニ記載セル事項ニシテ使用權ニ關スル事項ヲ記載シ使用ヲ要スル特許證ニ申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號、登録原因及其ノ日附及實用新案登録第何號カ使用權ノ目的タル旨及登録ノ年月日ヲ記載シ特許局ノ印ヲ捺捺シテ之ヲ登録權利者ニ還付スヘシ  
前項ノ規定ニ依リ特許登録令施行規則ヲ準用シタル場合ニ於テ同則中ニ引用シタル特許法又ハ特許登録令ノ條項ハ實用新案法又ハ實用新案ノ登録ニ關スル件ニ依リ準用シタル特許法又ハ特許登録令ノ條項ニ該當ス

附則

本則ハ明治四十二年勅令第二百九十七號實用新案ノ登録ニ關スル件施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四章 商標

●韓國商標令

四十二年十月 勅令第三百六號

韓國商標令

第一條 韓國ニ於ケル商標ニ關シテハ商標法ニ依ル

第二條 商標法第二條ノ菊花御紋章ハ菊花御紋章又ハ李花御紋章ニ、國旗、軍旗、勳章、褒章、記章ハ日本國又ハ韓國ノ國旗、軍旗、勳章、褒章、記章ニ、政府ハ日本國ノ政府又ハ韓國ノ政府ニ該當ス

第三條 韓國特許令第一條但書、第二條及第四條ノ規定ハ第一條ノ場合ニ關シ之ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

舊令ニ依リ受ケタル商標ノ登録ハ本令ニ依リ受ケタルモノト看做ス但シ舊令第五條ニ依ル登録商標ニ付テハ舊令第五條但書ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有ス

(參照)

●商標法

四十三年四月 法律第二十五號

商標法

第一條 自己ノ生産、製造、加工、選擇、證明、取扱又ハ販賣ノ營業ニ係ル商品ナルコトヲ表彰スル爲商標ヲ專用セムトスル者ハ本法ニ依リ商標ノ登録ヲ受クルコトヲ得

登録ヲ受クルコトヲ得ヘキ商標ハ文字、圖形、記號又ハ其ノ結合ニシテ特別顯著ナルモノナルコトヲ要ス

商標ハ之ニ施スヘキ色ヲ限定シテ登録ヲ受クルコトヲ得

第二條 左ニ掲ケル商標ニ付テハ之ヲ登録セズ

一 菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ

二 國旗、軍旗、勳章、褒章、記章若ハ外國ノ國旗ト同一又ハ類似ノモノ

三 秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ世人ヲ欺瞞スルノ虞アルモノ

四 同一商品ニ慣用スル標章ト同一又ハ類似ノモノ

五 世人ノ周知スル他人ノ標章ト同一又ハ類似ニシテ同一商品ニ使用スルモノ

六 白地ニ赤十字ノ記章又ハ赤十字若ハ「シエネヅア」十字ノ稱號若ハ文字ト同一又ハ類似ノモノ

七 政府、道、府縣若ハ政府ノ認可ヲ得タルモノノ開設スル博覽會、共進會又ハ外國ニ於ケル官設ノ博覽會若ハ官許ノ萬國博覽會ノ賞牌、賞狀若ハ褒狀ト同一又ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ但シ其ノ賞牌、賞狀又ハ褒狀ヲ受領シタル者カ其ノ商標ノ一部トシテ之ヲ使用セムトスルトキハ此ノ限ニ在ラス

八 他人ノ肖像、氏名、商號又ハ法人若ハ組合ノ名稱ヲ有スルモノ但シ其ノ承諾ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

九 登録失効後一年ヲ經過セサル他人ノ商標ト同一又ハ類似ノモノ但シ其ノ登録失効前一年以上使用セサリシ商標ト同一又ハ類似ノモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條 同一商品ニ使用スヘキ同一又ハ類似ノ商標ニ付各別ニ登録ヲ受クルノ權利ヲ有スル者二人以上アルトキハ最先ニ出願ヲ爲シタルモノニ限リ登録ス其ノ同日ノ出願ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ之ヲ登録セズ

明治三十二年七月一日前ヨリ同一商品ニ付同一若ハ類似ノ商標ヲ善意ニ使用シタル者其ノ商標ニ付登録ヲ出願シタル場合ニ於テハ前條第五號及前項ノ規定ニ拘ラス其ノ商標ヲ登録スルコトヲ得

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第四章 商標 九二一

同一商品ニ使用スヘキ自己ノ商標ニシテ互ニ相類似スルモノハ聯合商標トシテ出願シタル場合ニ限り之ヲ登録ス

第四條 商標ノ登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限り之ヲ移轉スルコトヲ得

前項ノ權利ノ承繼ハ出願人ノ名義變更ヲ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ同日ノ届出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五條 商標權ハ登録ニ依リ發生ス

商標權者ハ登録出願ノ際指定シタル商品ニ付其ノ商標ヲ專用スルノ權利ヲ有ス

第六條 商標權ノ效力ハ普通ニ使用セラルル方法ヲ以テ自己ノ氏名、商號、法人若ハ組合ノ名稱ヲ表示シ又ハ其ノ商品ノ普通名稱、產地、品位、品質、效能、用途、製法、時期、數量、形狀若ハ價格ヲ表示スルモノニ及ハス但シ商標登録後惡意ヲ以テ同一ノ氏名、商號、法人若ハ組合ノ名稱ヲ使用シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 商標權ノ存續期間ハ二十年トス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

外國ノ登録商標トシテ登録ヲ受ケタルモノハ其ノ本國ニ於ケル商標權ト共ニ消滅ス但シ其ノ存續期間ハ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第八條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限り之ヲ移轉スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ商標權ハ其ノ商標ヲ使用スル商品ニ依リ分割シテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ特許局長ハ職權ヲ以テ又ハ利害關係人ノ請求ニ依リ商標ノ登録ヲ取消スコトヲ得

一 商標權者其ノ登録商標ニ世人ヲ欺瞞スヘキ附記又ハ變更ヲ爲シテ之ヲ使用シタルトキ

二 商標權者正當ノ事故ナクシテ帝國内ニ於テ登録後其ノ商標ヲ使用セスシテ一年ヲ經過シ又ハ其ノ使用ヲ中止シテ三年ヲ經過シタルトキ但シ聯合商標ニ付テハ其ノ一ヲ使用シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

三 商標權ノ移轉アリタル場合ニ於テ其ノ相續ニ依ルモノヲ除クノ外一年以内ニ商標權移轉ノ登録ヲ請求セサルトキ

外國ノ登録商標トシテ登録ヲ受ケタルモノニ付テハ前項第二號ノ規定ヲ適用セス

第十條 商標權者其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ商標權ハ消滅スルモノトス

第十一條 商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録カ第一條乃至第三條、第四條第二項又ハ第二十二條ノ規定ニ反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第十二條

登録スヘシトノ査定又ハ審決アリタルトキハ之ヲ商標原簿ニ登録シ商標登録證ヲ下付ス

第十三條 特許局ハ商標公報ヲ發行シ登録商標及之ニ關スル必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第十四條 商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録ヲ受ケル者ハ其ノ登録ヲ受ケル際每件商標料金二十四ナ、聯合商標ニ在リテハ每件金十四ナヲ納付スヘシ

第十五條 商標ノ登録ヲ出願スル者ハ各商標ニ付命令ノ定ムル類別内ニ於テ其ノ商標ヲ使用スヘキ商品ヲ指定スヘシ

第十六條 商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録ノ出願アリタルトキハ審査官ハ之ヲ査定セシム

第十七條 登録スヘカラストノ査定ニ不服アル者ハ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ不服理由書ヲ提出シ更ニ審査ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ前審査ニ干與セサル審査官ヲシテ更ニ之ヲ査定セシム

第十八條 審判ハ左ニ掲グル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得

一 第十一條ノ規定ニ依リ登録ノ無効

二 商標權ノ範圍ノ確認

審判ノ請求ハ審査官又ハ利害關係人ニ限り之ヲ爲スコトヲ得但シ審査官ハ前項第二號ノ審判及第二條第八號若ハ第九號、第三條又ハ第四條第二項ノ規定ニ反ストノ理由ニ依ル前項第一號ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

登録商標カ第二條第八號若ハ第九號、第三條又ハ第四條第二項ノ規定ニ反シタル場合ニ於テ商標公報ニ掲載シタル日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十九條 審判ノ審決又ハ再審査ノ査定ニ不服アル者ハ審決又ハ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 審判ノ目的トセサル業務ニ係ル商品ニ使用スル商標ヲ專用セムトスルトキハ本法ニ依リ登録ヲ受ケルコトヲ得

前項ノ商標ニ付テハ商標ニ關スル規定ヲ適用ス

第二十一條 特許法第八條、第十二條乃至第十五條、第十六條第一項、第十七條乃至第二十五條、第三十三條、第四十九條第二項、第五十條、第五十三條、第六十條、第六十六條乃至第六十八條、第七十條乃至第七十九條、第八十二條、第八十三條第一項第二項、第八十四條、第八十五條及第八十七條乃至第九十一條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ適用ス

第二十二條 外國人ニシテ帝國内ニ住所又ハ營業所ヲ有セサル者ハ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ規定アル場合ノ外商標權又ハ之ニ關スル權利ヲ享有スルコトヲ得

商標ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第四章 商標

九三三



- 第二十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
  - 一 他人ノ登録商標若ハ之ヲ付シタル容器、包装等ヲ同一商品ニ使用シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付、販賣シ若ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スル者
  - 二 他人ノ登録商標若ハ之ヲ付シタル容器、包装等ヲ同一商品ニ使用セシムルノ目的ヲ以テ交付、販賣シ又ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スル者
  - 三 同一商品ニ使用シ又ハ使用セシムルノ目的ヲ以テ他人ノ登録商標ヲ偽造又ハ模造シタル者
  - 四 同一商品ニ使用セシムルノ目的ヲ以テ偽造若ハ模造ノ商標ヲ交付、販賣シ又ハ之ヲ同一商品ニ使用シタル者
  - 五 偽造若ハ模造ノ商標ヲ使用シタル同一商品ヲ交付、販賣シ又ハ交付若ハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スル者
  - 六 他人ノ登録商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ使用シタル商品ヲ交付若ハ販賣ノ目的ヲ以テ輸入シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付、販賣シ若ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スル者
  - 七 他人ノ登録商標ヲ偽造又ハ模造スル爲其ノ用具ヲ製作、交付、販賣若ハ所持スル者
  - 八 同一商品ニ關シ他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ノモノヲ營業ニ用ヰル廣告、看板、引札、物價表又ハ其ノ他ノ取引書類ニ使用シタル者
- 前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス
- 第二十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
  - 一 詐偽ノ所爲ヲ以テ商標ノ登録ヲ受ケタル者
  - 二 登録ヲ受ケサル商標ニ登録標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シ之ヲ商品ニ使用シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付若ハ販賣シ又ハ交付若ハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スル者
  - 三 登録ヲ受ケスシテ登録標記又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル商標ヲ廣告、看板、引札等ニ使用シタル者
- 第二十五條 第二十三條ノ犯罪ニ因リ没收スルコトヲ得ヘキ物ニ付判決言渡前被害者ヨリ請求アリタルトキハ之ヲ相當ノ代價ニ見積リ被害者ニ交付スル旨言渡スヘシ
- 損害ノ額カ交付ヲ受ケタル物ノ見積代價ニ超過スルトキハ被害者ハ其ノ差額ニ限り賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得
- 第二十六條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事ニシテ特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得
- 第二十七條 證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

金ニ處ス

第二十八條 特許辨理士ニ非スシテ商標ニ關スル代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則 (四十二年勅令第二百九十三號ヲ以テ四十二年十一月一日ヨリ施行ス)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

舊法ニ依リ登録ヲ受ケタル商標ニ付テハ其ノ存続期間内ハ本法第二條第六號乃至第八號ノ規定ヲ適用セシ第九條ニ定ムル期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

特許法第九十九條、第百五條及第百六條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス

●韓國商標令施行規則

四十二年十一月 統令第五十八號

韓國商標令施行規則左ノ通改正ス

韓國商標令施行規則

第一條 韓國商標令ノ施行ニ關シテハ商標法施行細則ニ依ル但シ同則中外國トアルハ日本國及韓國以外ノ國ニ該當ス

第二條 商標ノ登録ニ關シテハ明治四十二年勅令第二百九十六號及同年農商務省令第四十八號ニ依ル

第三條 韓國特許令施行規則第一條但書、第三條第一項但書及第四條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス

附則

本令ハ韓國商標令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

舊韓國商標令第五條ノ商標ニ付テハ韓國特許令施行規則附則第二項ノ規定ヲ準用ス

(參照)

●商標法施行細則

四十二年十月 農令第四十四號

商標法施行細則

第一條 商標ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ一商標ニ付第二十條ニ定メタル類別毎ニ一通ノ願書ヲ作り之ヲ特許局ニ差出スヘシ

第十七條 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第四章 商標

願書ニハ商標見本ヲ添付スヘシ

第二條 商標ニ施スヘキ色ヲ限定シテ登録ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ其ノ色ヲ指定シ著色シタル見本ヲ添付スヘシ

第三條 登録商標ト互ニ相類似スル商標ヲ聯合商標トシテ登録ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ其ノ登録商標ノ登録證ヲ添付シ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ出願ニ係ル商標ヲ登録シタルトキハ願書ニ添付シタル登録證ニ其ノ登録證號ヲ記載シ特許局長署名捺印シテ之ヲ還付スヘシ

第四條 商標法第三條第三項ノ規定ニ依リテ出願シタル聯合商標ニ付登録スヘシトシテ査定ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ聯合商標ノ登録證號、願書番號又ハ符號ヲ査定ノ主文中ニ記載スヘシ

第五條 商標ノ見本ハ強靱ナル紙料ヲ以テ之ヲ作ルヘシ見本ハ五通之ヲ差出スヘシ但シ特許局長ニ於テ必要ト認ムルトキハ更ニ其ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第六條 商標ノ登録出願ヨリ生シタル權利ヲ承繼シタル者ノ差出ス出願人ノ名義變更ノ届書ニハ其ノ承繼人タルコト及營業ヲ讓受ケタルコトヲ證明スルニ足ル書面ヲ添付スヘシ

第七條 特許法施行細則第五十三條ノ規定ハ商標法第四條第二項但書ノ規定ニ依リ關係者ノ協議ヲ必要トスル場合ニ之ヲ準用ス

第八條 商標法第三條第二項ノ規定ニ依リ商標ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ善意ニ其ノ商標ヲ使用シタル事實ヲ證明スヘシ

第九條 共同シテ使用スル商標ノ登録ヲ受ケムトスルトキハ願書ニ營業ヲ共ニスル事實ヲ證明スルニ足ル書面ヲ添付スヘシ

第十條 商標法第二條第七號乃至第九號ニ該當スル商標ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ其ノ各號ノ但書ノ規定ニ依リ登録ヲ受ケルコトヲ得ヘキ事實ヲ證明スヘシ

第十一條 外國ノ登録商標トシテ帝國ニ於テ其ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ其ノ本國ノ登録證其ノ他本國ノ登録ニ係ル商標及其ノ登録ノ年月日ヲ證明スルニ足ル書面ヲ添付スヘシ

外國ノ登録商標トシテ登録ヲ受ケタル商標ニ付其ノ本國ニ於テ商標權存續期間更新ノ登録出願カ許可セラレタル後帝國ニ於テ其ノ商標權存續期間更新ノ登録ヲ出願セムトスル者ハ願書ニ其ノ本國ニ於テ許可ヲ得タル旨ヲ證明スルニ足ル書面ヲ添付スヘシ

第十二條 特許局長必要ト認ムルトキハ商標ノ登録出願人ニ對シ商標ニ關スル說明書ヲ差出テ命スルコトヲ得

第十三條 登録出願ニ係ル商標ヲ使用スヘキ商品カ第二十條ニ定メタルニ以上ノ類別ニ互ルニ依リ願書ヲ訂正セムトスルトキハ他類ニ屬スル商品ニ付前願書ト同一ノ願書ヲ差出シ同時ニ前出願ヲ訂正スヘシ

第十四條 商標權存續期間更新ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ其ノ期間満了ノ日ヨリ三月前ニ願書ニ登録證ヲ添付シ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ

前項ノ期限後ト雖モ商標權存續期間満了以前ニ在リテハ別ニ定ムル手数料ヲ納付シ前項ノ願書ヲ差出スコトヲ得

第十五條 登録スヘシトシテ査定又ハ審決アリタルトキハ出願人又ハ請求人ハ其ノ査定又ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ商標料ヲ納付シ且商標ノ印版一箇ヲ特許局長ニ差出スヘシ

第十六條 商標ノ印版ハ木版、銅網版其ノ他活版印刷ニ適スルモノヲ用キ長サ及幅各曲尺三寸三分(十「センチメートル」)以内、厚サ七分九厘二毛(二「センチメートル」)四「トシ」文字ヨリ成ル商標ノ印版ノ長サ及幅ハ各二寸二分四厘五毛(六「センチメートル」)五「トシ」以内トスヘシ

印版ハ一箇ノ直角四邊形ノ版面ニ彫刻シテ之ヲ作ルヘシ

第十七條 特許法施行細則第二十條及第二十一條ノ規定ハ商標ノ印版ニ之ヲ準用ス

第十八條 登録證ハ第四號乃至第八號ノ書式ニ依リ之ヲ作り特許局長之ニ署名捺印スヘシ

第十九條 商標法第二十條ノ規定ニ依リ標章ノ登録ヲ受ケムトスル者カ主務官廳ノ認可ヲ得テ設立シタルモノナルトキハ願書ニ其ノ認可ヲ得タル旨ヲ證明スルニ足ル書面ヲ添付スヘシ

第二十條 出願人ハ左ノ類別ニ從ヒ商標ヲ使用セムトスル商品ヲ指定スヘシ

第一類 化學品、藥劑及醫藥補助品

第二類 染料、顏料、媒染料及塗料

第三類 香料、燻料及他類ニ屬セサル化粧品

第四類 石鹼

第五類 他類ニ屬セサル洗料、磨料

第六類 洗粉、齒磨、洗液、磨液等

第七類 洗粉、齒磨、洗液、磨液等

第十八條 特許、漁匠、實用新案、商標、商號、著作權 第四章 商標

- 第六類 他類ニ屬セサル金屬及其ノ半加工品  
鉄鐵、假鐵、鋼鐵、條鐵、鐵葉、軌條、鐵板、鐵線、銅、銅板、銅線、鉛、鉛板、亞鉛、亞鉛板、錫、アルミニウム、ニッケル、水銀、合金等
- 第七類 他類ニ屬セサル金屬製品  
鑄物、打物、彫鑿品、編物等
- 第八類 利器及尖刃器  
鎌、鋸、鋤、錐、鑿、斧、鋏、小刀、剃刀、庖丁、鉋、鑿、針、釘、鋸嘴等
- 第九類 貴金屬、其ノ模造物、「アルミニウム」金、「ニッケル」銀、「ブリタニヤ、メタル」及他類ニ屬セサル其ノ製品並彫鑿品  
金、銀、四分一、紫銅其ノ他貴金屬ノ合金、鍍品、「モール」等
- 第十類 寶石類、其ノ模造物及他類ニ屬セサル其ノ製品並彫鑿品  
金剛石、珊瑚、真珠、瑪瑙、水晶、黃玉、碧玉等
- 第十一類 礦物類
- 第十二類 石材、其ノ模造物及他類ニ屬セサル其ノ製品  
漆喰、「セメント」、石膏、土瀝青、土砂、火山灰等
- 第十三類 漆喰及土砂類
- 第十四類 他類ニ屬セサル陶器、磁器、七寶製品、土器、瓦、煉瓦類
- 第十五類 玻璃及他類ニ屬セサル其ノ製品並珪瑯製品  
玻璃板、玻璃管、玻璃球、玻璃珠等
- 第十六類 陶器及他類ニ屬セサル其ノ製品  
陶器、磁器、土器、瓦、煉瓦等
- 第十七類 他類ニ屬セサル機械、器具及其ノ各部  
汽機、汽機、發電機、電動機、變壓器、織機、紡績機、裁縫機、印刷機、揚水機、消火器、潛水器、調帶等
- 第十八類 理化學、醫術、測定、寫真、教育用ノ器械器具、蓄音機、眼鏡、算數器類及其ノ各部  
電信機、電話機、電氣開閉器、電池、試驗管、外科用器械、度量衡器、感光膜、製圖器、操作用器具、望遠鏡、顯微鏡、被覆電線
- 第十九類 農工器具

- 犁、鋤、鋸、稻拔、唐箕、耙、釘拔、鐵鏈、繩器、鋤廻シ、「スコップ」、「ショベル」、鋤嘴等
- 第二十類 運搬用機械、器具及其ノ各部  
荷車、馬車、人力車、自動車、自轉車、小兒用車、船舶、鐵道用車輛、車輪、「タイヤ」等
- 第二十一類 時計、其ノ附屬品及其ノ各部
- 第二十二類 樂器
- 第二十三類 銃砲、彈丸及爆發物類  
大砲、小銃、獵銃、短銃、火藥、結火藥、「ダイナマイト」、雷管、煙火、水雷等
- 第二十四類 蠶種、野蠶種及繭
- 第二十五類 眞綿、木棉綿、麻、苧、羽毛ノ類及其ノ粗製品
- 第二十六類 生絲、絹絲、野蠶絲、天蠶絲、琴絲、金絲及銀絲
- 第二十七類 綿絲
- 第二十八類 毛絲
- 第二十九類 麻絲及第二十六類乃至第二十八類ニ屬セサル絲類
- 第三十類 絹織物
- 第三十一類 木綿織物
- 第三十二類 毛織物
- 第三十三類 麻織物
- 第三十四類 第三十類乃至第三十三類ニ屬セサル織物
- 第三十五類 他類ニ屬セサル絲類ノ編物、組物、撚物、「レース」、「リボン」類、他類ニ屬セサル刺繍品及各種ノ組類
- 第三十六類 被服、手巾、釦釦及裝身用「ピン」類  
衣服、冠、帽子、「カラ」、「カフス」、領飾、襟、襪衣、「ゾボン」下、手袋、足袋、「ハンカチーフ」、手拭、「タオル」、襪紗、風呂敷等
- 第三十七類 寢具及他類ニ屬セサル室内裝置品  
寢臺、蒲團、枕、蚊帳、座蒲團、屏風、額、卓被、窓掛、敷物等
- 第三十八類 清酒
- 第三十九類 他類ニ屬セサル各種ノ酒類

葡萄酒、麥酒、「コフランテイ」「メルモット」、「ウヰスキー」、味淋、白酒、燒酎、濁酒、龜ノ藻直シ等  
第四十類 冰及清涼飲料  
曹達水、蜜桃水、「ラムネ」、「サイダー」等

第四十一類 醬油、「ソース」及酢類

第四十二類 砂糖、蜜類

白砂糖、黑砂糖、「ザラメ」、氷砂糖、糖蜜、蜂蜜等

第四十三類 菓子及麵類

干菓子、菓子、掛物、餅、砂糖漬等

第四十四類 茶、咖啡、「ココロコロート」、咖啡入角砂糖ノ類

第四十五類 他類ニ屬セラル食品及加味品

肉類、越前類、卵、鰹節、海苔、昆布、荒布、佃煮、罐詰、味噌、醬油、漬物、胡椒等

第四十六類 獸乳、ノ製品及其ノ模造品

凝乳、乳油、乳餅、乳粉等

第四十七類 穀類、種子、果物、穀粉、澱粉及其ノ製品

米、麥、粟、黍、稗、豆、粟、乾瓢、球根、麴、麵粉、「モヤシ」、「ベークینگ」、「パウダー」、「イースト」、「パウダー」、麥粉、葛粉、麩類  
湯菜、蒟蒻、凍豆腐、凍蒟蒻等

第四十八類 煙草類

第四十九類 煙具及發物

煙管、煙袋、煙筒、薄荷、「パイプ」、煙中物等

第五十類 紙、他類ニ屬セラル其ノ製品、各種ノ元結及水引

日本紙、西洋紙、板紙、襪紙、壁紙、油紙、澁紙、香筒筒、張文匣、一開張、帳簿等

第五十一類 文具

筆、墨、印肉、印材、「インキ」、印刷用「インキ」、石筆、鉛筆、「ペン」、「ペン」軸、硯、「インキ」壺、文鎮、筆筒、筆架、石盤、紙製具、鉛筆削等

第五十二類 皮革及他類ニ屬セラル其ノ製品並各種ノ鞣類

毛皮、皮革、馬具、文匣、革帶、唐弓絃等

第五十三類 燃料類

石炭、「コールス」、薪、炭、附木、樹燼灰等

第五十四類 摺附木

第五十五類 油、蠟類

石油、種油、魚油、蠟、燭、脂肪等

第五十六類 肥料

干鰯、鮮粕、油粕、肉粉、骨粉、血粉、糞、磷酸肥料、調合肥料、硫酸安母尼亞等

第五十七類 木竹材、木皮、竹皮及經木類

第五十八類 他類ニ屬セラル木、竹、藤、木皮、竹皮ノ類ノ製品及其ノ漆塗品、蒔繪品ノ類

指物、挽物、曲物、編物、組物、桶、經木真田等

第五十九類 甲、角、牙、介類、他類ニ屬セラル其ノ製品及其ノ模造品並「セルロイド」及他類ニ屬セラル其ノ製品

第六十類 藻、草及他類ニ屬セラル其ノ製品

麥稈、蘆葉、蔴、藤、笠、繩、麥稈真田等

第六十一類 傘、杖、履物及其ノ附屬品

傘、蝙蝠傘、杖、靴、下駄、草履、雪駄、鼻緒、爪掛等

第六十二類 扇子及團扇類

第六十三類 燈器及其ノ各部

洋燈、燭臺、提燈、電燈球、燈蓋、電燈承口、電燈線條、「瓦斯」「バーナー」瓦斯「マントル」、弧光燈用炭棒、檯中電燈、燭心等

第六十四類 刷子及髹類

第六十五類 玩具、遊戲具、造花及花簪ノ類

鞠、碁、將棋、人形、獨樂、弓、球器具、押絵、骨牌等

第六十六類 圖畫、寫真、「ブック」、書籍、新聞紙、雜誌類

第六十七類 他類ニ屬セラル商品

第二十一條 特許法施行細則第一條乃至第三條、第五條乃至第三十九條、第四十八條乃至第五十二條、第五十七條、第六十條、第六十七條

第十七條 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第四章 商標

第六十八條、第七十條乃至第八十五條、第八十七條乃至第九十條及第九十三條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス

第二十二條 本則ノ規定ハ標章ニ關シ之ヲ準用ス

附則 第二十三條 本則ハ商標法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十四條 特許法施行細則第九十七條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス

第二十五條 本則施行前登錄シタル商標又ハ登錄スヘシトノ査定アリタル商標ヲ使用スヘキ商品ノ類別ハ本則施行後仍從前ノ例ニ依ル

(書式)

第一號書式 商標(標章)登錄願(外國登錄商標登錄願)

印收入 見 本

商標(標章)ヲ附スヘキ商品

私(私共)儀前掲商標(標章)ニ付登錄相受度此段相願候也

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

職業

年月日

出願人

氏

名

印(法人ナルトキハ  
法人ノ名稱及其  
代表者氏名印)

特許局長 氏 名 殿

添附書類目錄

一何々 何通

一何々 何通

第二號書式

印收入 聯合商標(聯合標章)登錄願

印收入 見 本

一商標(標章)ヲ附スヘキ商品

一聯合商標(聯合標章)登錄番號(願書番號又ハ符號)

私(私共)儀前掲商標(標章)ヲ聯合商標(聯合標章)トシテ登錄相受度此段相願候也

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

職業

年月日

出願人

氏

名

印(法人ナルトキハ  
法人ノ名稱及其  
代表者氏名印)

特許局長 氏 名 殿

添附書類目錄

一何々 何通

一何々 何通

第三號書式

印收入 商標權(標章權)存續期間更新登錄願

印收入 見 本

一登錄番號

一商標(標章)ヲ附スヘキ商品

(一)聯合商標(聯合標章)登錄第何號

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第四章 商標

私(私共)儀前記商標權(標章權)ニ付存續期間更新ノ登録相受度此段相願候也

本籍(國籍)  
住所(居所又ハ營業所)

出願人 氏

名印(法人ナルトキハ  
ノ代表者氏名印)

年月日

特許局長 氏 名 殿

添附書類目錄

一何々 何通

一何々 何通

第四號書式

第何號

商標登錄証(標章登錄証)

見 本

本籍(國籍)  
住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

一商標(標章)ヲ附スヘキ商品

(一聯合商標(聯合標章)登錄第何號)

前掲商標(標章)ハ特許局審查官ニ於テ登錄スヘキモノト査定シタリ仍テ商標原簿ニ登錄シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

特許局長 氏 名 印

第五號書式

第何號(原登錄番號)

商標登錄証(標章登錄証)

見 本

本籍(國籍)  
住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

一商標(標章)ヲ附スヘキ商品

(一聯合商標(聯合標章)登錄第何號)

前掲商標(標章)ハ明治何年何月何日第何號登錄商標(標章)ノ商標權(標章權)存續期間ノ更新ニ係ルモノニシテ特許局審查官ニ於テ

登錄スヘキモノト査定シタリ仍テ商標原簿ニ登錄シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

特許局長 氏 名 印

第六號書式

第何號

外國商標登錄証

見 本

國籍(本籍)  
住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

一商標ヲ附スヘキ商品

一商標權存續期間 自明治何年何月何日 至明治何年何月何日

(一聯合商標登錄第何號)

前掲商標ハ何國ノ登錄商標ニシテ特許局審查官ニ於テ登錄スヘキモノト査定シタリ仍テ商標原簿ニ登錄シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

特許局長 氏 名 印

第七號書式

複第何號

商標登錄証複本(標章登錄証複本)

見 本

本籍(國籍)  
住所(居所又ハ營業所)

氏 名(名稱)

一登錄番號

一商標(標章)ヲ附スヘキ商品

一商標權(標章權)存續期間 自明治何年何月何日 至明治何年何月何日

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第四章 商標

(一)聯合商標(聯合標章)登録第何號

前記商標權(標章權)ニ付商標登録證(標章登録證)複本ヲ請求シタルニ因リ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

第八號書式

第何號

商標登録證(標章登録證)

見本

印

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

氏

名(名稱)

一商標(標章)ヲ附スヘキ商品

一商標權(標章權)存續期間 自明治何年何月何日 至明治何年何月何日

(一)聯合商標(聯合標章)登録第何號

前記商標(標章)ノ登録證何々ノ行ヲ以テ再下付ヲ請求シタルニ因リ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

第九號書式

特許局長 氏

名 印

収入印紙

納付書

願書番號

一金何圓也

商標料(標章料)

右納付候也

住所(居所又ハ營業所)

年 月 日

氏

名

印

(法人ナルトキハ) 法人ノ名稱及其代表者氏名印

特許局長 氏 名 殿

●商標ノ登録ニ關スル件 四十二年十月 勅令第二百九十六號

朕商標ノ登録ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 商標ノ登録ニ關シテハ特許登録令ヲ準用ス

第二條 前條ノ規定ニ依リ特許登録令ヲ準用スル場合ニ於テ同令中ニ引用シタル特許法ノ條項ハ商標法第二十一條ノ規定ニ依リ準用シタル特許法ノ條項ニ該當ス

第三條 商標權設定ノ登録アリタルトキハ登録願書ニ貼付シタル商標ノ見本ハ之ヲ商標原簿ノ一部ト看做ス

第四條 商標權移轉ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ營業ヲ共ニスルコトヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

第五條 聯合商標ノ一商標權移轉ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ同時ニ他ノ商標權移轉ノ登録ヲ申請スヘシ

第六條 商標權ヲ分割シテ移轉ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ其ノ移轉スル商標ヲ使用スル商品ヲ申請書ニ記載スヘシ

第七條 營業ノ廢止ニ依ル商標權ノ登録ノ抹消ハ登録名義人ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

登録ノ一部抹消ノ場合ニ於テハ申請書ニ營業ヲ廢止シタル商品ヲ記載スヘシ

第八條 本令ハ商標法第二十條ノ規定ニ依ル標章ニ關スル登録ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ商標法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ノ商標權ノ設定ニ係ル願書ニ貼付シタル見本及明細書ハ之ヲ舊商標原簿ノ一部ト看做ス

●同上勅令施行規則 四十二年十月 農令第四十八號

明治四十二年勅令第二百九十六號商標ノ登録ニ關スル件施行規則左ノ通相定ム

明治四十二年勅令第二百九十六號商標ノ登録ニ關スル件施行規則

第一條 商標ノ登録ニ關シテハ本則ニ定アルモノヲ除ク外特許登録令施行規則ノ規定ヲ準用ス

第二條 前條ノ規定ニ依リ特許登録令施行規則ヲ準用シタル場合ニ於テ同則中ニ引用シタル特許法又ハ特許登録令ノ條項ハ商標法又ハ商標ノ登録ニ關スル件ニ依リ準用シタル特許法又ハ特許登録令ノ條項ニ該當ス

第三條 商標原簿ハ別記様式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第四條 聯合商標登録番號欄ニハ其ノ登録商標ト類似スル聯合商標ノ登録番號ヲ記載スヘシ

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第四章 商標

第五條 商標權設定ノ登録ヲ爲スニハ第一條ノ規定ニ依リ記載スヘキ事項ノ外表示欄ニ商標ヲ使用スル商品ノ類別及商品ヲ記載スヘシ  
 外國ノ登録商標トシテ登録ヲ出願シタル商標ノ商標權設定ノ登録ヲ爲スニハ表示欄ニ其ノ商標權ノ存続期間、外國登録商標タル旨及其ノ  
 外國ニ於テ登録ヲ受ケタル年月日ヲ記載スヘシ  
 第六條 聯合商標ノ商標權設定ノ登録ヲ爲スニハ登録番號欄ニ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ聯合商標ナル旨ヲ記載シタル上前條ノ規定ニ依  
 リ商標權設定ノ登録ヲ爲シタル後其ノ登録用紙中聯合商標登録番號欄ニ他ノ聯合商標ノ商標權ノ登録番號ヲ記載シ他ノ聯合商標ノ商標權  
 ノ登録用紙中聯合商標登録番號欄ニ其ノ登録番號ヲ記載スヘシ  
 第七條 商標權ノ設定後當該登録商標カ聯合商標トナリタルトキハ表示欄ノ商標權設定ノ登録ニ聯合商標トナリタル旨ヲ附記スヘシ  
 第八條 聯合商標中ノ一箇若ハ數箇ノ商標權カ消滅シ又ハ無効トナリタル爲テ特許登録令施行規則第四十四條又ハ第四十五條ノ規定ニ準シ登  
 録ヲ爲シタルトキハ他ノ聯合商標ノ商標權ノ登録用紙中聯合商標登録番號欄ニ於ケル其ノ登録番號ヲ抹消スヘシ  
 第九條 商標ヲ使用スル商品ニ依ル商標權分割移轉ノ登録ノ申請アリタル場合ニ於テ登録ヲ爲スニハ特許權分割許可ノ登録ニ準シ其ノ登録  
 ヲ爲スヘシ但シ各登録用紙ノ表示欄ニ商標權ノ表示ヲ爲ス場合ニ於テハ第五條ノ規定ニ準シ尙移轉シタル商標權ノ登録用紙中甲區事項欄  
 ニ取得者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ  
 第十條 明治四十二年勅令第二百九十六號商標ノ登録ニ關スル件第七條第二項ノ規定ニ依ル登録ノ申請アリタル場合ニ於テ登録ヲ爲スニハ  
 表示欄ニ變更ノ登録ヲ爲シタル後營業ヲ廢止シタル商品ヲ抹消スヘシ  
 第十一條 本則ノ規定ハ標章ニ關スル登録ニ之ヲ準用ス  
 附則  
 第十二條 本則ハ明治四十二年勅令第二百九十六號商標ノ登録ニ關スル件施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 (別記様式)

番號	表示欄			番號位	事項	代理人欄	聯合商標
	表示	表示	表示				


第五章 商號

●韓國商號令 四十一年八月 勅令第九十九號

朕韓國商號令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

韓國商號令

第一條 韓國ニ於ケル商號ニ關シテハ商法及非訟事件手續法ニ依ル但シ同法中市町村トアルハ府郡ニ、府縣  
 トアルハ道ニ、裁判所トアルハ「理事廳及統監府法務院」ニ、日本トアルハ韓國ニ、司法大臣トアルハ統監ニ  
 該當ス  
 第二條 本令ハ日韓兩國臣民ノ商號ニ關シ同様ノ保護ヲ與ヘ且韓國ニ於テ商號ノ保護ニ關シ治外法權ヲ行使  
 セサル國ノ臣民又ハ人民ニモ之ヲ適用ス  
 附則

第三條 本令ハ明治四十一年八月十六日ヨリ之ヲ施行ス  
 第四條 商法第十八條ノ規定ハ本令施行前ヨリ韓國國內ニ於テ使用スル商號ニハ之ヲ適用セス

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第五章 商號



●韓國商號令施行規則 四十一年八月 統令第二十九號

韓國商號令施行規則左ノ通定ム

韓國商號令施行規則

第一條 韓國ニ於ケル商號登記ニ關シテハ明治三十二年司法省令第十三號ニ依ル但シ同令中地方裁判所トアルハ「統監府法務院」ニ、區裁判所トアルハ「理事廳」ニ、市町村トアルハ府郡ニ該當ス

第二條 韓國ニ於ケル商號登記ニ關スル登録稅及手数料ニ付テハ登録稅法及明治三十二年司法省令第十四號ニ依ル  
附則

本令ハ韓國商號令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六章 著作權

●韓國著作權令 四十一年八月 勅令第二百號

朕韓國著作權令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

韓國著作權令

第一條 韓國ニ於ケル著作權ニ關シテハ著作權法ニ依ル但シ同法中帝國トアルハ韓國ニ、裁判所トアルハ「理事廳及統監府法務院」ニ該當ス

第二條 本令ハ日韓兩國ノ臣民ニ對シ著作權ニ付同様ノ保護ヲ與ヘ且韓國ニ於テ著作權ノ保護ニ關シ治外法權ヲ行使セサル國ノ臣民及人民ニモ之ヲ適用ス  
附則

第三條 本令ハ明治四十一年八月十六日ヨリ之ヲ施行ス

第四條 本令施行前日本國臣民、韓國臣民又ハ米國人民ノ日本國ニ於テ享有スル著作權ハ本令ニ依リ保護セラルモノトス

第五條 本令施行前米國ニ於テ著作權ノ登録ヲ受ケタル日本國臣民、韓國臣民又ハ米國人民ハ本令施行ノ日ヨリ一年ヲ限リ統監府特許局ニ其ノ著作權ノ無料登録ヲ出願スルコトヲ得

第六條 日本國又ハ米國ニ於テ保護セラルル日本國臣民、韓國臣民又ハ米國人民ノ著作權ヲ本令施行前韓國ニ於テ著作權者ノ承諾ナクシテ複製シタル者、翻譯シタル者若ハ興行シタル者又ハ複製、翻譯、興行ニ著手シタル者ハ本令施行後一年間ハ之ヲ完成シテ發賣頒布シ又ハ興行スルコトヲ得

第七條 前條ノ場合ニ於テハ統監府令ノ定ムル手續ヲ履行スルニ非サレハ其ノ複製物ヲ發賣頒布シ又ハ興行スルコトヲ得ス  
(參照)

●著作權法 三十二年 法律第三十九號

第一章 著作權ノ權利

第一條 文藝演述圖畫彫刻模型寫真其他ノ文藝學術若ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作權ハ其ノ著作物ヲ複製スルノ權利ヲ專有ス  
文藝學術ノ著作物ノ著作權ハ翻譯權ヲ包含シ各種ノ脚本及樂譜ノ著作權ハ興行權ヲ包含ス

第二條 著作權ハ之ヲ讓渡スコトヲ得  
第三條 發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ著作權者ノ生存間及其ノ死後三十年間繼續ス

第四條 數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權ハ最終ニ死亡シタル者ノ死後三十年間繼續ス  
第五條 著作權者ノ死後發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス  
第六條 無名又ハ變名著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス但シ其ノ期間内ニ著作權者其ノ實名ヲ登録ヲ受ケタルトキハ  
第三條ノ規定ニ從フ

第六條 官公衙學校社協會其ノ他團體ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行ノトキヨリ三十年間繼續ス

第七條 著作權者原著作物發行ノトキヨリ十年内ニ其翻譯物ヲ發行セサルトキハ其ノ翻譯權ハ消滅ス

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第六章 著作權

前項ノ期間内ニ著作権者其ノ保護ヲ受ケントスル國語ノ翻譯物ヲ發行シタルトキハ其ノ國語ノ翻譯權ハ消滅セス

第八條 冊號ヲ逐ヒ順次ニ發行スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ每冊若ハ每號發行ノトキヨリ起算ス

第九條 前六條ノ場合ニ於テ著作權ノ期間ヲ計算スルニハ著作者死亡ノ年又ハ著作物ヲ發行又ハ興行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

第十條 相續人ナキ場合ニ於テ著作權ハ消滅ス

第十一條 左ニ記載シタルモノハ著作權ノ目的物ト爲ルコトヲ得ス

一 法律命令及官公文書

二 新聞紙及定期刊行物ニ記載シタル雜報及政治上ノ論說若ハ時事ノ記事

三 公開セル裁判所、議會並政談集會ニ於テ爲シタル演說

第十三條 數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作權ハ各著作者ノ共有ニ屬ス

第十四條 數多ノ著作物ヲ適法ニ編輯シタル者ハ著作者ト看做シ其ノ編輯物全部ニ付テノ著作權ヲ有ス但シ各部ノ著作權ハ其ノ著作者ニ屬ス

第十五條 著作權者ハ著作權ヲ登錄ヲ受クルコトヲ得

第十六條 登錄ハ行政廳之ヲ行フ

第十七條 未タ發行又ハ興行セサル著作物ノ原本及其ノ著作權ハ債權者ノ爲ニ差押ヲ受クルコトヲ得

第十八條 著作權ヲ承繼シタル者ハ著作者ノ同意ナクシテ其ノ著作者ノ氏名稱號ヲ變更シ若ハ其ノ題號ヲ改メ又ハ其ノ著作物ヲ改竄スルコトヲ得

第十九條 原著物ニ註記、傍註、句讀、批評、註解、附録、圖畫ヲ加ヘ又ハ其ノ他ノ修正増減ヲ爲シ若ハ翻案シタルカ爲新ニ著作権ヲ生スルコトナシ但シ新著作物ト看做サルヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 新聞紙及定期刊行物ニ掲載シタル記事ニ關シテハ小説ヲ除ク外著作權者カ特ニ轉載ヲ禁スル旨ヲ明記セサルトキハ其ノ出所ヲ明示シテ轉載スルコトヲ得

第二十一條 適法ニ翻譯ヲ爲シタル者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス

第二十二條 原著物ト異リタル技術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス

第二十三條 寫眞著作權ハ十年間繼續ス

第二十四條 文藝學術ノ著作物中ニ挿入シタル寫眞ニシテ特ニ其ノ著作物ノ爲ニ著作シ又ハ著作セシメタルモノナルトキハ其ノ著作權ハ文藝學術ノ著作物ノ著作者ニ屬シ其ノ著作權ト同一ノ期間内繼續ス

第二十五條 他人ノ囑託ニ依リ著作シタル寫眞肖像ノ著作權ハ其ノ囑託者ニ屬ス

第二十六條 寫眞ニ關スル規定ハ寫眞術ト類似ノ方法ニ依リ製作シタル著作物ニ準用ス

第二十七條 著作權者ノ不明ナル著作物ニシテ未タ發行又ハ興行セサルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得

第二十八條 外國人ノ著作權ニ付テハ條約ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外本法ノ規定ヲ適要ス但シ著作權保護ニ關シ條約ニ規定ナキ場合ニハ帝國ニ於テ始メテ其ノ著作物ヲ發行シタル者ニ限リ本法ノ保護ヲ享有ス

第二章 偽作

第二十九條 著作權ヲ侵害シタル者ハ偽作者トシ本法ニ規定シタルモノノ外民法第三編第五章ノ規程ニ從ヒ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第六章 著作權

スルノ責ニ任ス

第三十條 既に發行シタル著作物ヲ左ノ方法ニ依リ複製スルハ偽作ト其做サス

第一 發行スルノ意思ナク且器械的又ハ化學的方法ニ依ラズシテ複製スルコト

第二 自己ノ著作物中ニ正當ノ範圍内ニ於テ節録引用スルコト

第三 普通教育上ノ修身書及讀本ノ目的ニ供スル爲ニ正當ノ範圍内ニ於テ抜萃蒐輯スルコト

第四 文藝學術ノ著作物ノ文句ヲ自己ノ著作シタル脚本ニ挿入シ又ハ樂譜ニ充用スルコト

第五 文藝學術ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ美術上ノ著作物ヲ挿入シ又ハ美術上ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ文藝學術ノ著作物ヲ挿入スルコト

第六 圖畫ヲ彫刻物模型ニ作り又ハ彫刻物模型ヲ圖畫ニ作ルコト

本條ノ場合ニ於テハ其出所ヲ明示スルコトヲ要ス

第三十一條 帝國ニ於テ發賣頒布スルノ目的ヲ以テ偽作物ヲ輸入スル者ハ偽作者ト看做ス

第三十二條 練習用ノ爲ニ著作シタル問題ノ解答書ヲ發行スル者ハ偽作者ト看做ス

第三十三條 善意ニシテ且過失ナク偽作ヲ爲シテ利益ヲ受ケ之カ爲ニ他人ニ損失ヲ及ホシタル者ハ其ノ利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ

第三十四條 數人ノ合著作ニ係ル著作物ノ著作権者ハ偽作ニ對シ他ノ著作権者ノ同意ナクシテ告訴ヲ爲シ及自己ノ持分ニ對スル損害ノ賠償ヲ請求シ又ハ自己ノ持分ニ應ジテ前條ノ利益ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第三十五條 偽作ニ對シ民事ノ訴訟ヲ提起スル場合ニ於テハ既に發行シタル著作物ニ於テ其ノ著作者トシテ氏名ヲ掲ケタル者ヲ以テ其ノ著作者ト推定ス

無名又ハ變名著作物ニ於テハ其ノ著作物ニ發行者トシテ氏名ヲ掲ケタル者ヲ以テ其ノ發行者ト推定ス未タ發行セサル脚本及樂譜ノ興行ニ關シテハ其ノ興行ニ著作者トシテ氏名ヲ顯シタル者ヲ以テ其ノ著作者ト推定ス

著作者ノ氏名ヲ顯ササルトキハ其ノ興行者ヲ以テ其ノ著作者ト推定ス

第三十六條 偽作ニ關シ民事ノ出訴又ハ刑事ノ起訴アリタルトキハ裁判所ハ原告又ハ告訴人ノ申請ニ依リ保證ヲ立テシメ又ハ立テシメヌシテ假ニ偽作ノ疑アル著作物ノ發賣頒布ヲ差止メ若ハ之ヲ差押ヘ又ハ其ノ興行ヲ差止ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ偽作ニ非サル旨ノ判決確定シタルトキハ申請者ハ差止又ハ差押ヨリ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第三章 罰則

第三十七條 偽作ヲ爲シタル者及情ヲ知テ偽作物ヲ發賣シ又ハ頒布シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 第十八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第二十條及第三十條第二項ノ規定ニ違反シ出所ヲ明示セスシテ複製シタル者並第十三條第四項ノ規定ニ違反シタル者ハ四十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 著作者ニ非サル者ノ氏名稱號ヲ附シテ著作物ヲ發行シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 著作權ノ消滅シタル著作物ト雖之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其ノ題號ヲ改メ若ハ著作者ノ氏名稱號ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作物ト詐稱シテ發行シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條 虛偽ノ登録ヲ受ケタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 偽作物及専ラ偽作ノ用ニ供シタル器械器具ハ偽作者、印刷者、發賣者及頒布者ノ所有ニ在ル場合ニ限り之ヲ沒收ス

第四十四條 本章ニ規定シタル罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス但シ第三十八條ノ場合ニ於テ著作者ノ死亡シタルトキ並第四十條乃至第四十二條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條 本章ノ罪ニ對スル公訴ノ時效ハ二年ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第四十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十七條 明治二十六年法律第十六號版權法明治二十年勅令第七十八號脚本樂譜條例明治二十年勅令第七十九號寫眞版權條例ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十八條 本法施行前既ニ發行シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

第四十九條 本法施行前既ニ發行シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

第五十條 本法施行前既ニ發行シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

第五十一條 第四十八條乃至第五十條ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル手續ヲ履行スルニ非サレハ其ノ複製物ヲ發賣頒布シ又ハ發行スルコトヲ得

第五十二條 本法施行前既ニ發行シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

第五十三條 本法施行前既ニ發行シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

第五十四條 本法施行前既ニ發行シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

第五十五條 本法施行前既ニ發行シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

第五十六條 本法施行前既ニ發行シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

第五十七條 本法施行前既ニ發行シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

第五十八條 本法施行前既ニ發行シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

第五十九條 本法施行前既ニ發行シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

第六十條 本法施行前既ニ發行シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

第六十一條 本法施行前既ニ發行シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

第六十二條 本法施行前既ニ發行シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

第六十三條 本法施行前既ニ發行シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

第六十四條 本法施行前既ニ發行シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

第六十五條 本法施行前既ニ發行シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

第六十六條 本法施行前既ニ發行シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

第六十七條 本法施行前既ニ發行シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

第六十八條 本法施行前既ニ發行シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

第六十九條 本法施行前既ニ發行シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

第七十條 本法施行前既ニ發行シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

第七十一條 本法施行前既ニ發行シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

第七十二條 本法施行前既ニ發行シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレサリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

得ス  
第五十二條 本法ハ建築物ニ適用セス

● 韓國著作權令施行規則

四十一年八月  
統令第二十八號

韓國著作權令施行規則左ノ通定ム

韓國著作權令施行規則

第一條 韓國ニ於ケル著作權登録ニ關シテハ明治三十二年內務省令第二十八號ニ依ル但シ同令中內務省トアルハ統監府特許局ニ、內務大臣トアルハ統監府特許局長ニ該當ス

第二條 韓國ニ於ケル著作權ノ登録税ニ付テハ登録税法ノ規定ニ依ル

第三條 著作權者不明ノ著作物ノ發行又ハ興行ニ付テハ明治三十二年內務省令第二十七號ノ規定ニ依ル但シ同令中官報トアルハ京城日報ニ、東京トアルハ京城ニ該當ス

第四條 韓國著作權令第五條ニ依ル出願ニハ其ノ著作物カ米國ニ於テ登録ヲ受ケタルモノナルコト及出願人カ其ノ著作權ヲ有スルコトヲ證明スヘキ書面ヲ添附スヘシ

第五條 韓國著作權令第六條ニ依リ複製物ヲ發賣頒布シ又ハ興行セムトスル者ハ左ノ手續ヲ履行スヘシ

一 既ニ複製シタルモノニ付テハ明治四十一年十一月二十日迄ニ第一書式(甲)ニ依リ檢印ヲ申請スヘシ

二 複製ニ著手シタルモノニ付テハ著手ノ事實ヲ前號期間内ニ第一書式(乙)ニ依リ届出テ複製物發行前其ノ複製物ニ付第一書式(甲)ニ依リ檢印ヲ申請スヘシ

三 既ニ翻譯シタルモノ又ハ翻譯ニ著手シタルモノニ付テハ其ノ事實ヲ本條第一號ノ期間内ニ第二書式(乙)ニ依リ届出テ複製物發行以前其ノ複製物ニ付第二書式(甲)ニ依リ檢印ヲ申請スヘシ

四 既ニ興行シ又ハ興行ニ著手シタルモノニ付テハ其ノ事實ヲ本條第一號ノ期間内ニ第三書式ニ依リ届出

第六條 檢印ノ申請及届出ハ管轄理事廳ニ之ヲ爲スヘシ

第七條 理事廳ハ檢印ヲ爲シ又ハ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ目錄簿ヲ備置クヘシ

目錄簿ハ第一雜形ニ檢印ハ第二雜形ニ依ルヘシ

第八條 理事廳ニ於テ前條ノ手續ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ統監府特許局ニ報告スヘシ

第九條 何人ト雖手續料金三十錢ヲ納メ目錄簿ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

第十條 虚偽ノ届出ヲ爲シ又ハ虚偽ニ因リ檢印ヲ受ケタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

虚偽ノ届出又ハ虚偽ニ因リテ受ケタル檢印ハ無効トス

第十一條 理事廳ハ届出ヲ受ケ若ハ檢印ヲ爲シタルトキ又ハ届出若ハ檢印ノ無効ト爲リタルトキハ京城日報

ヲ以テ告示スヘシ

附則

本令ハ韓國著作權令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一書式(甲)

檢印願

一 複製物ノ題號 部(箇)數

一 著作物發行ノ土地並其ノ年月日

一 著作物ノ氏名稱號

一 複製物發行ノ氏名住所

一同發行ノ年月日(發行シタルモノハ)

右ハ 年 月

日複製シ(複製著手届出)タルモノニ付明治四十一年統監府令第二十八號第五條第一號(第二號)ニ依リ檢印相受度此段申請候也

住所

年 月 日  
理事官宛

發賣頒布者

氏

九四八

名

印

第一書式(乙)

複製著手届

一 複製物ノ題號

一 著作物發行ノ土地並其ノ年月日

一 著作者ノ氏名稱號

右ハ 年 月

日複製ニ著手シタルモノニ付明治四十一年統監府令第二十八號第五條第二號ニ依

リ此段御届申上候也

住所

年 月 日

發行者

氏

名

印

理事官宛

第二書式(甲)

翻譯物檢印願

一 翻譯物ノ題號

部數

一 原著作者ノ氏名稱號

一 原書ノ題號

一 原書發行ノ年月日

一 原書發行ノ土地

一 翻譯發行ノ年月日

右ハ 年 月

日翻譯(翻譯著手)届出タルモノニ付明治四十一年統監府令第二十八號第五條第三

號ニ依リ檢印相受度此段申請候也

年 月 日

住所

翻譯(發行頒布)者

氏

名 印

第二書式(乙)

翻譯 届

一 翻譯物ノ題號

一 原著者ノ氏名稱號

一 原書ノ題號

一 原書發行ノ年月日

一 原書發行ノ土地

右ハ 年 月 日 翻譯(翻譯著手)シタルモノニ付明治四十一年統監府令第二十八號第五條第三號ニ依リ此段御届申上候也

日 翻譯(翻譯著手)シタルモノニ付明治四十一年統監府令第二十八號第五條第三號

住所

翻譯者 氏

名 印

年 月 日

理事官宛

第三書式

興行 届

一 著作者ノ氏名稱號

一 脚本又ハ樂譜ノ名稱及其ノ發行ノ土地並其ノ年月日

一 興行(興行ニ著手)シタル場所

第十七輯 特許、意匠、實用新案、商標、商號、著作權 第六章 著作權



右ハ 年 月 日興行(興行ニ著手)シタルモノニ付明治四十一年統監府令第二十八號第五條第四號ニ依リ此段御届申上候也

九五〇

年 月 日  
 理事官宛  
 住所  
 興行者 氏 名 圖

第一雛形

(甲)檢印申請及届出目録簿(複製物ノ部)  
紙澤物ノ部  
 之ニ準ス

檢印番號	日檢	印	複製物ノ題號	部	數	著作者ノ氏名稱號	發行者ノ住所氏名	申請者ノ住所氏名	届出ノ年月日	申請ノ年月日

(乙)興行届出目録簿

脚本又ハ樂譜ノ名稱	著作者ノ氏名稱號	興行者ノ住所氏名	届出年月日

第二雛形

理 事 廳 名
檢 査 之 證
印

第十八輯 通信

# 第十八輯 通信

## 第一章 郵便

### ● 郵便法

三十三年三月  
法律第五十四號

改正

四〇年  
法律七號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル郵便法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 郵便法

- 第一條 郵便ハ政府之ヲ管掌ス
- 第二條 何人ト雖信書ノ送達ヲ營業ト爲スコトヲ得ス  
運送營業者及其ノ使用人ハ其ノ運送方法ニ依リ他人ノ爲ニ信書ノ送達ヲ爲スコトヲ得ス但シ貨物ニ添附スル無封ノ添狀又ハ送狀ハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 運送營業者ハ郵便官署ノ要求アルトキハ其ノ運送方法ニ依リ郵便物ノ運送ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ相當ノ運送料金ヲ支給ス
- 第四條 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便専用車馬等ハ道路ニ障礙アリテ通行シ難キ場合ニ於テ墻壁又ハ欄柵ナキ宅地田畑其ノ他ノ場所ヲ通行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ被害者ノ請求ニ因リ其ノ損害ノ賠償ヲ爲スヘシ
- 第五條 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便専用舟車馬等事故ニ遭遇シタル場合ニ於テ郵便遞送人郵便集配人又ハ郵便吏員ヨリ助力ヲ求メラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ助力者ノ請求ニ因リ相當ノ報酬ヲ爲スヘシ
- 第六條 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便専用舟車馬等ニ對シテハ渡津、運河、道路、橋梁其ノ他

ノ場所ニ於ケル通行錢ヲ請求スルコトヲ得ス

職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人ハ何時ニテモ渡津ノ出船ヲ求ムルコトヲ得

第七條 郵便専用ノ物件及現ニ郵便ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

郵便専用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受クルコトナシ

郵便物及其ノ取扱ニ必要ナル物件ハ海損ヲ分擔セス

第八條 郵便官署ハ郵便物ノ遞送中又ハ其ノ發送ノ準備完了ノ後ニ限リ其ノ差押ヲ拒ムコトヲ得

第九條 郵便物検査ヲ受クヘキ場合ニ於テハ他ノ物件ニ先テテ直ニ検査ヲ受ク

第十條 郵便取扱ニ關シ無能力者ノ郵便官署ニ對シテ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第十一條 郵便官署ハ郵便物又ハ郵便ニ依ル取立金ノ受取人ノ眞偽ヲ調査スル爲受取人ヲシテ必要ナル證明ヲ爲サシムルコトヲ得

第十二條 郵便物ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ宛所ニ配達ス

第十三條 郵便物ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限リ差出人ノ請求ニ因リ之ヲ還付スルコトヲ得

第十四條 宛所ニ配達シ又ハ受取人ニ交付スルコト能ハサル郵便物ハ差出人ニ還付ス其ノ差出人ニ還付スルコト能ハサルモノハ主務大臣ノ指定シタル郵便官署ニ於テ之ヲ開披スルコトヲ得

第十五條 前條ニ依リ開披シタル郵便物ニシテ尙配達還付ヲ爲スコト能ハサルモノ及郵便ニ依ル取立金ニシテ拂渡ヲ爲スコト能ハサルモノハ之ヲ公示ス

郵便物ニ封入シタル物件ニシテ有價物ニ非サルモノハ其公示ノ日ヨリ六箇月内ニ交付ヲ請求スル者ナキトキハ之ヲ棄却シ其ノ有價物ニシテ滅失若ハ毀損ノ虞アルモノ又ハ其ノ保管ニ過分ノ費用ヲ要スルモノナルトキハ之ヲ賣却シ其ノ代金ヲ保管ス但賣却ニ要スル經費ハ直ニ賣却代金ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

有價物賣却代金及郵便ニ依ル取立金ハ公示ノ日ヨリ二箇年間交付ヲ請求スル者ナキトキハ國庫ノ所有ニ歸ス

第十六條 郵便官署ハ郵便物ニ郵便禁制品ヲ封入シ又ハ成規ニ違反シテ差出シタル物件アリト認ムルトキハ

差出人ニ其開示ヲ求ムルコトヲ得

差出人其ノ開示ヲ拒ミタルトキハ其ノ取扱ヲ拒絕ス

第十七條 郵便物ハ通常郵便物及小包郵便物トス

第十八條 通常郵便物ノ種類及料金ハ左ノ如シ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ料金ヲ低減スルコトヲ得

第一種 書 狀 重量四匁又ハ其ノ端數毎ニ 金 三 錢

第二種 郵 便 葉 書 重量一錢五厘 金 一 錢 五 厘

第三種 每月一回以上刊行スル定期刊行物重量二十匁又ハ其端數毎ニ 金 五 厘

第四種 書籍、印刷物、業務用書類、寫眞、書、畫、圖、商品見本及雛形、博物學上ノ標本 重量三十匁又ハ其ノ端數毎ニ 金 二 錢

第五種 農 產 物 種 子 重量三十匁又ハ其ノ端數毎ニ 金 一 錢

前項各種ニ該當セサル物件及該當スルモ封緘シタルモノハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

異種ノ郵便物ヲ合裝シタルモノハ其ノ種類中ノ最高料金ヲ納付スヘキ郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス但シ第二種郵便物ヲ他種ノ郵便物ト合裝スルトキハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

郵便葉書ノ表面又ハ第三種乃至第五種ノ郵便物ニ通信文ヲ記載シタルモノハ特ニ命令ヲ以テ規定シタル場合ヲ除クノ外第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

第十九條 小包郵便物ノ料金並郵便物ノ特殊取扱ニ關スル料金ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第二十條 書狀ハ小包郵便物ト爲シ又ハ小包郵便物ニ合裝スルコトヲ得ス但シ無封ノ添狀又ハ送狀ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 第三種郵便物ト爲スヘキ定期刊行物ハ主務官署ノ認可ヲ受ケタルモノニ限ル

第二十二條 郵便禁制品ノ種類及郵便物ノ容積、重量、包裝等ニ關スル制限ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十八輯 通信 第一章 郵便

九五五

- 第二十三條 受取人ハ郵便料ヲ完納シタル郵便物ノ受取ヲ拒ムコトヲ得ス
- 差出人ハ還付郵便物ノ受取ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第二十四條 郵便ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ還付セス
- 第二十五條 命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便料未納又ハ不足ノ郵便物ハ受取人其ノ不納額二倍ノ料金ヲ納付シテ之ヲ受取ルコトヲ得其ノ納付ヲ拒ミタルトキハ差出人ニ還付シ差出人ヨリ之ヲ徵收ス
- 第二十六條 郵便ニ關スル料金納付ノ義務ハ其ノ納付スヘキ日ヨリ六箇月内ニ納付ノ告知ヲ受ケサルニ因リテ消滅ス
- 第二十七條 郵便ニ關スル料金ノ不納金額ハ郵便官署ニ於テ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス
- 前項ノ不納金額ニ付郵便官署ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス
- 第二十八條 郵便ノ郵便爲替、郵便貯金、電信、電話ノ事務ニ關スル郵便物ハ無料ト爲スコトヲ得
- 第二十九條 郵便ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ヲ以テ納付スヘシ
- 第三十條 郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ハ政府之ヲ發行ス
- 第三十一條 郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ノ汚損毀損シタルモノハ其ノ效用ヲ失フ
- 第三十二條 成規ノ手續ヲ經テ郵便物又ハ郵便ニ依ル取立金ヲ交付シタルトキハ正當ノ交付ヲ爲シタルモノト看做ス
- 第三十三條 成規ニ依リ差出シタル郵便物ノ取扱ニ關シ郵便官署ハ左ノ場合ニ限り其ノ損害ヲ賠償ス
  - 一 書留通常郵便物ヲ亡失シタルトキ
  - 二 書留小包郵便若ハ價格表記郵便物ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ
  - 三 郵便ニ依ル取立金ノ證券ヲ亡失シ又ハ其ノ效力ヲ失ハシメタルトキ
 賠償金額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

- 四 代金引換郵便物ノ取立金ノ取立ヲ爲サシテ之ヲ交付シタルトキ
- 第二十四條 郵便物交付ノ際外部ニ破損ノ痕跡ナク且重量ニ變易ナキトキハ損害ヲキモノト看做ス
- 第二十五條 第二十三條ノ場合ト雖左ノ事項ニ該當スルトキハ損害賠償ノ限ニ在ラス
  - 一 差出人又ハ受取人ノ過失ニ因リタルトキ
  - 二 不可抗力ニ因リタルトキ
  - 三 其ノ郵便物ノ性質又ハ瑕疵ニ因リタルトキ
- 第二十六條 郵便物ノ差出人又ハ受取人ハ其ノ郵便物ニ損害アリト認ムルトキハ其ノ受取ヲ拒ムコトヲ得但シ郵便物受取ノ後ハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス
- 第二十七條 第三十三條ニ依ル損害賠償ハ差出人又ハ其ノ承諾ヲ得タル受取人之ヲ請求スルコトヲ得
- 第二十八條 本法ニ依ル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ハ主務大臣ノ指定シタル郵便官署ニ對シ左ノ期間内之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス
  - 一 第四條ニ依ル賠償及第五條ニ依ル報酬ハ其ノ事實アリタル日ヨリ三箇月
  - 二 第三十三條ニ依ル賠償ハ郵便物差出ノ日ヨリ二箇年
- 第三十九條 郵便官署ノ損害賠償又ハ報酬ニ關スル決定ニ對シ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得
- 第四十條 郵便官署ニ於テ損害賠償ヲ爲シタル後其ノ郵便物ヲ發見シタルトキハ之ヲ其ノ賠償受領者ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テ賠償受領者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六箇月以内ニ賠償金ノ全部又ハ一部ヲ返付シテ其ノ郵便物ノ交付ヲ請求スルニトヲ得
- 第四十一條 第二條ニ違反シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス前項ノ場合ニ於テ收得シタル金錢物品ハ之ヲ沒收シ既ニ消費又ハ讓渡シタルモノハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徵ス

第四十二條 第三條ニ違反シタル者ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 第四條ノ場合ニ於テ通行ヲ拒ミ又ハ第五條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ助力ヲ拒ミ又ハ第六條ノ場合ニ於テ通行錢ヲ強要シ若ハ正當ノ事由ナクシテ渡津ノ出船ヲ拒ミ又ハ第二十三條ニ違反シテ郵便物ノ受取ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處ス

第四十四條 郵便官署ノ取扱中ニ係ル信書ノ秘密ヲ侵シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ニ従事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ  
本條ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第四十五條 第二十條ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 郵便禁制品ヲ郵便物トシテ差出シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處シ其物件ヲ沒收ス

第四十七條 不正ノ手段ヲ以テ郵便ニ關スル料金ヲ免レ又ハ免レントシタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス  
郵便事務ニ従事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第四十八條 帝國政府及郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ヲ偽造變造シ又ハ其ノ情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
前項ノ郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ハ之ヲ沒收ス

第四十九條 帝國政府及郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ヲ再ヒ使用シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十條 郵便事務ニ従事スル者郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ニ使用シタル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ヲ剝脱切取シタルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ未タ消印ヲ爲ササルモノニ關シテハ刑法竊盜ノ罪ニ照シテ處斷ス

第五十一條 郵便事務ニ従事スル者郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ竊取シタルトキハ刑法竊盜ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第五十二條 郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、毀損、隱匿若ハ拋棄シタル者又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シ若ハ情ヲ知テ之ヲ受取リタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ニ従事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ  
第五十三條 正當ノ事由ナクシテ郵便物ノ取扱ヲ拒絕シ若ハ其ノ送達ヲ遲延セシメタル者又ハ重大ナル過失ニ因リ郵便物ヲ失ヒタル者ハ四十圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 郵便專用ノ物件其ノ他現ニ郵便ノ用ニ供スル物件ヲ破壞損傷シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十五條 第四十七條ヲ除クノ外前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第五十六條 郵便物ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルモノハ各其ノ規定ニ依ル

附則

第五十七條 本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

郵便條例中第二章及第二百四十二條以外ノ條項小包郵便法及郵便聯合國郵便切手類保護法ハ之ヲ廢止ス  
第五十八條 本法施行前ニ差出シタル郵便物ニ關シテハ郵便條例及小包郵便法ヲ適用ス

●統監府通信管理局ニ於テ通信事務ニ使用スル日附印ノ形式

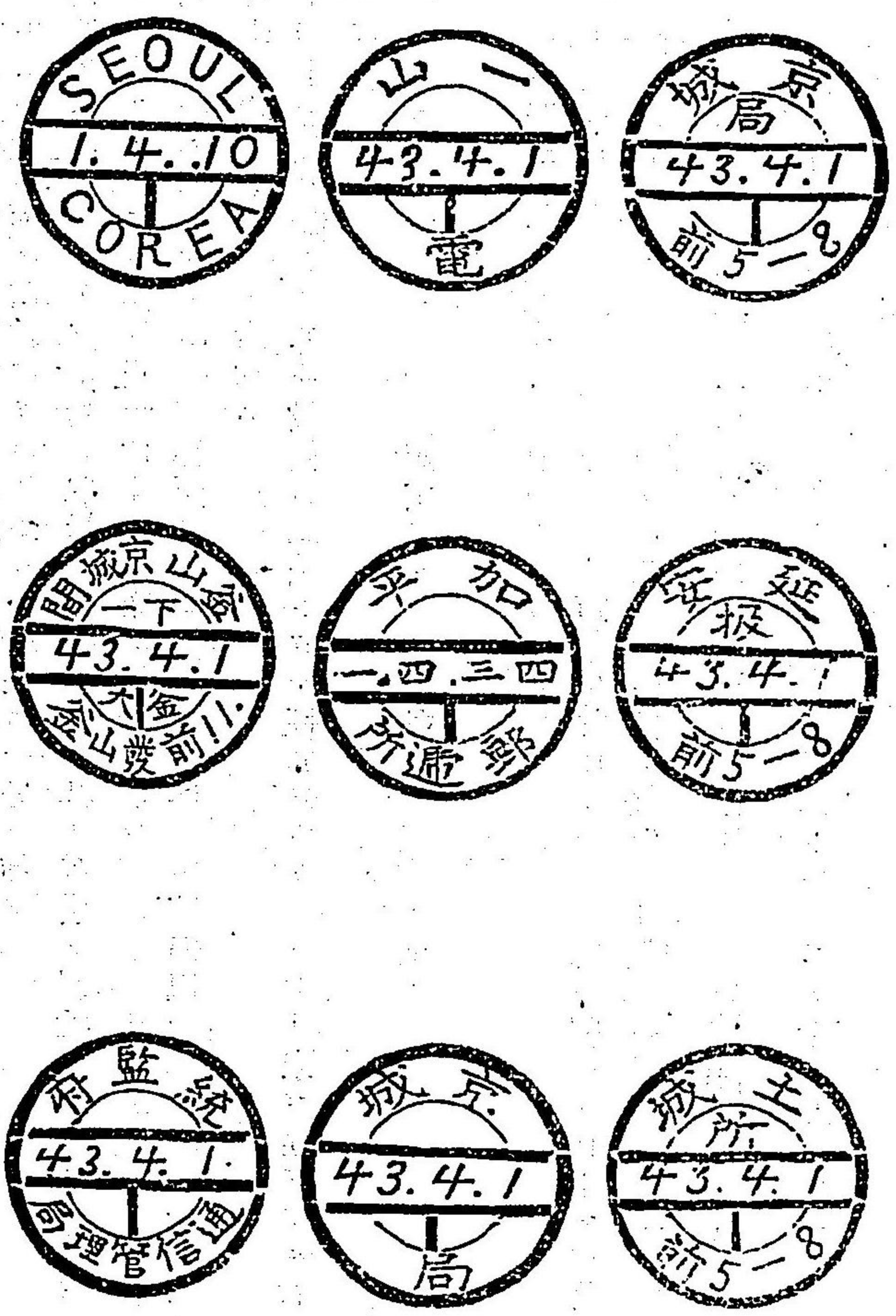
四十三年一月 統監第十二號

統監府通信官署ニ於テ通信事務ニ使用スル日附印ハ通信日附印ト稱シ其ノ形式左ノ通相定ム但シ特殊通信日附印ノ形式ハ別ニ定メ隨時之ヲ告示ス

局所名ハ其ノ局所ニ依リ年月日及時刻ハ其ノ使用日時ニ依リ孰モ變更スルモノトス

●鐵道船舶郵便法 三十三年三月 法律第五十六號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル鐵道船舶郵便法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
鐵道船舶郵便法



第一條 本法ニ於テ鐵道運送業者ト稱スルハ(私設鐵道條例)ニ依リ鐵道ヲ以テ運送營業ヲ爲ス者ヲ謂ヒ船舶

運送業者ト稱スルハ商法ニ依リ船舶ヲ以テ運送營業ヲ爲ス者ヲ謂フ

第二條 鐵道運送業者ハ郵便取扱ノ爲郵便官署ノ要求アルトキハ鐵道用地及停車場建物ノ一部ヲ供シ又ハ建

物ノ建築若ハ改築ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ土地建物ノ使用料及建築改築ノ費用ハ郵便官署之ヲ支給ス

第三條 鐵道運送業者ハ郵便官署ノ要求アルトキハ定期列車毎ニ郵便車トシテ列車定數ノ總容積ノ五分ノ一

迄ハ其ノ列車ノ一部ヲ供給シ又ハ郵便官署ノ交付ニ係ル同一容積以内ノ郵便車ヲ聯結スヘシ

船舶運送業者ハ郵便官署ノ要求アルトキハ其ノ船舶ニ相當ノ郵便船室ヲ供給スヘシ

第四條 郵便車ノ構造ハ通常客車ト同一ナルコトヲ要ス

第五條 郵便車又ハ郵便船室ニハ郵便物郵便取扱員及其ノ監視員ノ外搭載スルコトヲ得ス

第六條 鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ハ郵便官署ノ要求ニ應ジ郵便車又ハ郵便船室ニ郵便物ノ取扱ニ必要

ナル設備及維持ヲ爲スヘシ

鐵道運送業者ハ郵便官署ノ交付ニ係ル郵便車ヲ保管スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ設備維持及保管ニ要スル費用ハ郵便官署之ヲ支給ス

第七條 鐵道運送業者ハ列車仕立驛ニ於テ指定ノ郵便車ノ外臨時容積ノ増加ヲ要シ又ハ臨時郵便車ヲ聯結ヲ

要スル爲其ノ列車出發時刻三十分前迄ニ郵便官署ノ要求アルトキハ他ノ郵便車ヲ聯結シ又ハ通常客車ヲ其

ノ代用ニ供スヘシ

第八條 鐵道運送業者ハ郵便官署ニ於テ郵便車ニ依ラサル郵便物ノ運送ヲ要求シタルトキハ旅客列車ニ依リ

運送スル貨物ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ運送スヘシ

第九條 鐵道運送業者列車ノ發着時刻ヲ變更スルトキハ七日以前ニ之ヲ郵便官署ニ報告スヘシ但シ天災其ノ

他避クヘカラサル事故ノ爲發着時刻ノ變更ヲ決定シタルトキハ直ニ報告スヘシ

第十條 郵便車ノ使用料金ハ左ノ割合ニ依ル

- 三百立方尺迄 一哩毎ニ 金一錢八厘以内
- 五百立方尺迄 一哩毎ニ 金三錢五厘以内
- 七百立方尺迄 一哩毎ニ 金五錢六厘以内
- 千立方尺迄 一哩毎ニ 金九錢以内

千立方尺ヲ超過シタルトキハ其ノ全容積ニ對シ百立方尺迄ニ付一哩毎ニ金一錢以内

郵便車ノ容積ハ各列車ニ於ケル郵便車總容積ヲ以テ之ヲ算定ス其ノ容積ノ算定方法ハ命令ノ定ムル所ニ依ル  
郵便物ヲ旅客列車ニ依リ運送スル貨物ト同一ノ方法ヲ以テ運送セシムルトキハ其ノ運送料金ハ其ノ鐵道運送業者ノ定メタル普通貨物運賃ノ最低額ノ半額以内トス

第十一條 船舶運送業者ハ船舶ニ搭載シタル郵便物ヲ其ノ目的地ニ於テ他ノ貨物ニ先チ陸揚スヘシ天災事變ノ爲航海ノ途中ニ於テ積替若ハ陸揚スルトキ亦同シ

第十二條 船舶運送業者ニ交付スヘキ運送料金ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 郵便物搭載列車天災事變ノ爲其ノ進行ヲ停止シタルトキ又ハ郵便物搭載船舶航行中天災事變ニ因リ郵便物ヲ陸揚シタルトキハ鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ハ郵便取扱員ノ在ラサル場合ニ限リ直ニ該郵便物ヲ附近郵便官署ニ送達スヘシ其ノ送達ニ要スル費用ハ之ヲ支給ス

第十四條 第三條ノ要求ニ應セサル者又ハ正當ノ理由ナクシテ第二條若ハ第七條ノ要求ニ應セサル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第六條第一項及第二項ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ第八條ノ要求ニ應セサル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス第五條ニ違反シタル鐵道運送業者及船舶運送業者亦同シ

第十六條 第十三條ニ依ル送達ヲ爲ササル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 過失ニ依リ運送中ニ係ル郵便物ヲ亡失シ又ハ之ヲ毀損シタルトキハ鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第九條又ハ第十一條ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 法人ノ業務ニ關シ其ノ代表者又ハ雇人其ノ他ノ從業者前數條ノ罪ヲ犯シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以内科料ニ關シテハ十日以内ニ之ヲ納完セサルトキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其ノ執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力アルモノトス

前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第二十條 軌道條例ニ依リ運送營業ヲ爲ス者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第二十一條 鐵道又ハ航路若ハ船舶ニ關シ政府ヨリ補助ヲ受ケ若ハ受ケタル鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ニ對シ特別ノ命令アルトキハ其ノ命令ニ依ル

附則

本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 第二種郵便物認可規則 四十一年九月 統令第三十五號

第三種郵便物認可規則左ノ通定ム

第三種郵便物認可規則

第一條 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ本規則ノ定ムル所ニ依リ發行地所在郵便局所經由當該管理

第十八輯 通信 第一章 郵便



事務分掌郵便局(以下單ニ分掌郵便局トス、發行地所在郵便局分掌郵便局ナルトキハ直ニ其ノ郵便局トス以下之ニ同シ)ニ申請スヘシ

第二條 第三種郵便物ト爲スヘキ定期刊行物ハ左ノ條件ヲ具備スルモノニ限ル

一 毎月一回以上逐號定期ニ發行スルコト

二 記載事項ノ性質終期ヲ豫定スヘカラサルコト

三 書籍ノ性質ヲ有セサルコト

四 政事、時事、農事、工事、商事、學術、技藝、統計等公共ノ性質ヲ有スル事項ヲ報道論議スルヲ以テ

發行ノ目的ト爲シ且汎ク公衆ニ發賣スルコト

第三條 本規則ニ依リ認可ヲ受ケムトスル定期刊行物ノ發行人ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ニ見本二部ヲ添へ差出スヘシ

一 題號

二 記載事項ノ種類

三 發行人

四 發行所

五 發行人ノ住所

六 發行ノ定日

第四條 本規則ニ依リ認可ノ效力ハ認可ヲ受ケタル號ヨリ發生スルモノトス最後發行ノ次ノ定日ヨリ起算シ三十日ヲ過キテ發行セサルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第五條 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタル定期刊行物ノ發行人ハ其ノ發行毎ニ先ツ分掌郵便局及其ノ指定シタル郵便局所ニ見本各一部ヲ差出スヘシ

第六條 第三條第一號乃至第三號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ發行人ヨリ發行地所在郵便局所經由分掌郵便局ニ申請シ其ノ認可ヲ受ケヘシ此ノ場合ニ於テ發行人ヲ變更セムトスルニ新舊發行人連署スヘシ

シ若舊發行人連署スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ申請書ニ證明スヘシ

第三條第四號乃至第六號ノ事項ヲ變更シタルトキ又ハ廢刊、休刊、發行停止若ハ禁止ノトキハ其ノ發行人ヨリ三日以内ニ發行地所在郵便局所經由分掌郵便局ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ發行所ヲ他ノ分掌郵便局受持區内ニ移轉セムトスルトキハ認可ヲ受ケタル分掌郵便局經由移轉地受持分掌郵便局ニ申請シ其ノ認可ヲ受ケヘシ

第七條 第三條及前條第二項及第三項ノ申請人ハ左記ニ依リ手数料ヲ納ムヘシ

一 新ニ第三種郵便物ノ認可ヲ受ケムトスルトキ又ハ第三條中ノ二事項以上變更ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ金十圓

二 第三條中ノ二事項ニ對シ變更ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ金五圓

前項ノ手数料ハ郵便切手ヲ用キ申請書ニ貼付スヘシ若認可セサルトキハ之ヲ還付ス

第八條 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタル定期刊行物及其ノ臨時増刊ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ認可ヲ取消スヘシ

一 第二條各號ノ條件ヲ缺キタルトキ

二 第五條見本ノ差出ヲ怠リタルトキ

三 第六條ノ手續ヲ怠リタルトキ

四 届出ノ事項ト其ノ事實ト相違アルトキ

第九條 第四條第三項ニ依リ認可ノ效力ヲ失ヒタルモノ及前條ニ依リ認可ヲ取消サレタルモノ又ハ之ヲ繼承シタリト認めタル定期刊行物ニ對シテハ情狀ニ依リ再認可ヲ與ヘサルコトアルヘシ

第十條 本規則ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 本規則施行前ヨリ第三種郵便物ノ認可ヲ受ケ現ニ發行スル定期刊行物ハ本規則ニ依リ認可シタル

●約束郵便取扱規則

四十一年九月 改正

統令第三十六號 四二一年 統令七〇號

約束郵便取扱規則左ノ通定ム

約束郵便取扱規則

- 第一條 約束郵便ノ取扱ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申込書ヲ差出郵便局所經由當該管理事務分掌郵便局(以下單ニ分掌郵便局トス、又差出地ノ郵便局分掌郵便局トス)トキハ直ニ其ノ郵便局トス以下之ニ同シ)ニ差出シ其ノ承認ヲ受クヘシ
- 一 定期刊行物、書籍又ハ印刷物ノ區別、名稱若ハ其ノ題號
- 二 差出回数(定期刊行物ナルトキハ其ノ發行ノ定日ヲ記載ヲ要ス)
- 三 毎回差出箇數(名稱、種別ヲ異ニスルモノハ其ノ異ナル毎ニ又同一名稱ノモノト雖、料金ヲ異ニスルモノハ其ノ異ナル毎ニ箇數ヲ計算シテ記載ヲ要ス)
- 四 差出郵便局所名
- 五 申込人ノ住所氏名

約束郵便ノ取扱ヲ受ケムトスル印刷物ニシテ郵便規則第二十四條ノ一ノ適用ヲ受クヘキモノナルトキハ前項各號ノ外申込書ニ其ノ旨附記スヘシ

第二條 本規則ニ依リ約束郵便ノ承認ヲ受ケタル後之ヲ廢止シ若ハ前條第一項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ差出郵便局所經由分掌郵便局ニ届出ツヘシ

第三條 約束郵便物ノ差出人ハ後納郵便料ノ擔保トシテ當該分掌郵便局長ノ指示ニ依リ現金又ハ有價證券ヲ提供スヘシ但シ差出人官廳ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條 約束郵便物郵送料ノ納付方ハ當該分掌郵便局長ノ指示ニ依ルヘシ

第五條 約束郵便物ハ特殊ノ包裝ヲ要スルモノノ外強質ナル白紙ヲ以テ包裝シ帶紙ヲ用ウルトキハ其ノ幅二寸五分以上ト爲スヘシ又宛所ハ成ルヘク明瞭ニ縦書スヘシ

第六條 約束郵便物ハ差出人ニ於テ左記雜形ノ印章ヲ其ノ表面ニ押捺スヘシ



直徑八分乃至一寸 上部ニ雜形ノ如ク差出郵便局所在地名ヲ記入ス

第七條 約束郵便物ヲ差出サムトスルトキハ名稱、種別及料金ヲ異ニスルモノ毎ニ其ノ箇數ヲ記載シタル郵送簿ニ依リ之ヲ所定ノ郵便局所ニ差出スヘシ但シ郵便局所ニ於テ必要ト認メタルトキハ其ノ差出場所ヲ指定スルコトアルヘシ

第八條 約束郵便物ハ引受郵便局所ニ於テ發送上ノ必要ニ依リ一定ノ區域ヲ指定シ其ノ區域毎ニ結束シテ差出サシムルコトアルヘシ

第九條 約束郵便物ノ差出人左記各號ノ一ニ該當スルトキハ約束郵便ノ取扱ヲ停止スヘシ

一 第三條ノ擔保ヲ提供セザルトキ

二 第四條ノ郵便料金ヲ指定ノ期間内ニ納付セザルトキ

三 以上各號ノ外本規則ニ依ル届出ヲ怠リ又ハ郵便局所ノ指示ニ從ハザルトキ

第九條ノ二 約束郵便物ノ差出人左記各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ承認ヲ取消スヘシ

一 前條各號ノ一ニ該當シ約束郵便ノ取扱ヲ停止シタル後十日以内ニ猶其ノ履行ヲ爲サザルトキ

二 郵便規則第二十四條ノ一ノ適用ヲ受クヘキ郵便物ニシテ三箇月以上引續キ差出サザルトキ

第十條 前條ニ依リ約束郵便ノ承認ヲ取消シタルモノニ對シテハ其ノ情狀ニ依リ再約束郵便ノ承認ヲ與ヘサルコトアルヘシ

第十一條 第二條及第九條ニ依リ約束郵便ノ取扱ヲ廢止シタルトキハ第三條ニ依リ提供シタル擔保物件ハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ此ノ場合ニ於テ差出人未納ノ料金ヲ納付セザルトキハ擔保物件(有價證券ハ之ヲ賣却シ其ノ金額ヨリ賣却ニ要シタ

ル費用ヲ差引)ヲ以テ不納料金ニ充テ過剩額ハ之ヲ還付シ不足額ハ追徴スヘシ  
キタル場額)

附 則

第十二條 本規則ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 本規則施行前ヨリ約束郵便ノ取扱ヲ受ケタルモノニ付テハ新ニ承認ヲ受クルヲ要セス

●郵便私書函使用規則

四十一年八月 改正 四十二年 統令第三十三號 統令六五號

郵便私書函使用規則左ノ通定ム

郵便私書函使用規則

第一條 郵便私書函(以下單ニ私書函トス)ヲ使用セムトスル者ハ住所、氏名又ハ官公署、會社、團體名ヲ記載シタル申請書ヲ當該郵便局所ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

第二條 郵便局所ニ於テ私書函ノ使用ヲ許可シタルトキハ私書函番號ヲ通告シ之カ開閉ニ供スル鍵ヲ貸與ス

第三條 私書函使用者ニシテ自己ニ宛テタル書留、價格表記、配達證明及料金不納ノ通常郵便物又ハ小包郵便物ヲ郵便局所ニ於テ受取ラムトスルトキハ通常郵便物ト小包郵便物トヲ區別シ左記ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ當該郵便局所ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

一 私書函番號

二 住所氏名又ハ官公署、會社、團體名

三 局渡ヲ要スル郵便物種別

第四條 郵便局所ニ於テ郵便物ノ局渡ヲ許可シタルトキハ別記雛形ノ局渡證票ヲ交付スヘシ

第五條 郵便局所ニ於テ局渡ヲ許可シタル私書函使用者宛書留、價格表記、配達證明及料金不納ノ通常郵便物又ハ小包郵便物到著スルトキハ別ニ之ヲ保管シ其ノ配達證又ハ郵便料金取立書ハ私書函ニ差入ルヘシ

私書函使用者ハ前項ノ配達證又ハ料金取立書ニ對シ相當手續ヲ爲シ局渡證票ト共ニ郵便局所取扱者(以下單ニ取扱者トス)ニ提示シ當該郵便物ノ交付ヲ受クヘシ

第六條 私書函使用者ニ宛テタル無料又ハ料金完納ノ普通通常郵便物及約束郵便物ニシテ私書函ニ入ルル能ハサル場合ハ別ニ之ヲ保管シ「保管郵便物アリ第何號圖」ト記シタル赤色ノ木札ヲ函内ニ差入ルヘシ

私書函使用者前項ノ木札アルヲ發見シタルトキハ之ヲ取扱者ニ提示シ郵便物ノ交付ヲ受クヘシ

第七條 私書函使用料ハ一箇年ヲ左ノ四期ニ分チ其ノ一期分ヲ前納スヘシ但シ當該會計年度ニ屬スル使用料二期分以上ヲ一時ニ前納スルコトヲ得

第一期 自四月一日 至六月三十日 第二期 自七月一日 至九月三十日 第三期 自十月一日 至十二月三十一日 第四期 自一月一日 至三月三十一日

前項ノ使用料ハ使用者官公署ナルトキハ之ヲ後納トスルコトヲ得

第八條 前條一期間ノ私書函使用料左ノ如シ  
京城、仁川、釜山、元山、平壤、木浦、群山、  
清津、馬山、鎮南浦、新義州、大邱、龍山ノ各局 一圓五十錢

其ノ他ノ局所 五十錢

第九條 期間ノ中途ニ於テ私書函ノ使用ヲ始ムルモノハ其ノ期間ニ限リ月割額ヲ以テ使用料ヲ徵收ス

使用者ノ都合ニ因リ期間ノ中途ニ於テ私書函ノ使用ヲ廢止シタルトキハ其ノ期間内既納ノ料金ヲ還付セス

第十條 私書函使用者次期ノ使用料ヲ前納セサルトキハ其ノ使用ヲ停止スヘシ

第十一條 私書函ノ使用ヲ廢止セムトスルトキハ廢止期日ヲ記載シタル書面ニ返納スヘキ鍵ヲ添ヘ當該郵便局所ニ届出ヘシ

私書函ノ使用ヲ停止セラレタルトキハ使用者ハ直ニ其ノ鍵ヲ返納スヘシ

前二項ノ鍵ヲ返納セスシテ次ノ使用期間ニ涉リタルトキハ其ノ期間開始以後ニ於ケル延滞日數ニ應シ日割ヲ以テ使用料ヲ徵收スルコトアルヘシ

第十二條 私書函使用者自己ノ過失ニ因リ私書函ヲ毀損シ又ハ鍵ヲ亡失毀損シタルトキハ相當ノ費用ヲ徴收スルコトアルヘシ

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス  
現ニ使用スル私書函ハ本令ニ依リ許可シタルモノト看做ス

(別記)

局渡證券

第 號

郵便私書函第 號	使用者住所氏 名 印
	右代理者住所氏 名 印
書留、價格表記、配達證明、料金を納通常郵便物	局渡證券
(小包郵便物局渡證券)	
明治 年 月 日	
郵便局	

五 寸

(面 裏)

- 一 此ノ證券ハ表記郵便物受取ノ爲出局ノ際必携帶シ取扱者ニ提示セラルヘシ
- 二 郵便物ノ受授ヲ正確ナラシムル爲使用者及其ノ代理者ハ表面記名ノ下郵便物受授ニ使用スル印章ヲ押捺シ置カルヘシ
- 三 郵便物ヲ受取ラルヘキ人ハ表面記載ノ者ニ限ル又郵便物受領證等ニ押捺セラルヘキ印章ハ本票表面記名ノ下ニ押捺ノモノニ限ルニ付代理者及印章變更ノ場合ハ届出書替ヲ求メラルヘシ
- 四 此ノ證券ヲ毀損シタルトキハ書替方ヲ請求シ亡失シタルトキハ其ノ旨届出交付ヲ受ケラルヘシ
- 五 此ノ證券ハ私書函ノ使用ヲ廢止シ若ハ停止セラレタルトキハ直ニ返納セラルヘシ

●年賀特別郵便規則

四十二年十二月 統令第六十七號

年賀特別郵便規則左ノ通定ム

年賀特別郵便規則

- 第一條 年賀郵便物ハ本規則ノ定ムル所ニ依リ特別取扱ト爲スコトヲ得
  - 第二條 特別取扱ヲ爲ス年賀郵便物ハ料金完納ノ普通通常郵便物ニ限ル
  - 第三條 特別取扱ヲ爲ス年賀郵便物ノ引受期間ハ毎年十二月十五日ヨリ二十九日マテトス
  - 第四條 特別取扱ヲ受ケムトスル年賀郵便物ハ之ヲ一束トシ年賀郵便ト記載シタル附札ヲ爲シ郵便局所ニ差出スヘシ但シ其ノ數量ノ少キモノハ之ヲ封筒ニ納メ年賀郵便ト表記シテ郵便函ニ投入スルコトヲ得
  - 第五條 本規則ニ依リ差出シタル年賀郵便物ハ翌年一月一日引受ノモノト看做シ當日最先便ヨリ配達ヲ開始ス
- 前項ノ郵便物ハ到着日附印ヲ押捺セス
- 第六條 本規則ニ定ムル事項ノ外一般ノ規定ニ依ル
- 附 則
- 本規則ハ明治四十二年十二月十日ヨリ之ヲ施行ス

●清韓小包郵便物ノ韓國内郵便局所ニ於ケル留置期間及關稅

納付期間 四十年十月  
統令第三十八號

明治三十三年九月遞信省令第五十六號清韓小包郵便規則ニ依ル清韓小包郵便物ノ韓國内郵便局所ニ於ケル留置期間及關稅納付期間ハ十日トス但シ交通不便ノ地ニ宛テタルモノニ限リ特ニ其ノ期間ヲ延長スルコトアルヘシ

●勸業債券購買媒介郵便規則ハ韓國ニ準用セス 四十年五月  
統令第二十五號

明治四十年五月遞信省令第二十一號勸業債券購買媒介郵便規則ハ韓國ニ於テ之ヲ準用セス

●郵便局國庫債券償還及引換取扱規則ハ韓國ニ準用セス 四十一年五月  
統令第四十四號

明治四十一年四月遞信省令第二十號郵便局國庫債券償還及引換取扱規則ハ之ヲ韓國ニ準用セス

●管理事務分掌郵便局並其ノ受持區域表 四十一年九月  
統令第四十六號

明治四十一年十月一日ヨリ管理事務ヲ分掌スル郵便局並其ノ受持區域ヲ左表ノ如ク定ム  
管理事務分掌郵便局並其ノ受持區域表

郵便局名	受持區域
京城郵便局	京畿道ハ仁川府及富平、江華、喬桐ノ各郡ヲ除ク 忠清南道ノ内〔牙山、溫陽、新昌、禮山、木川、全義、天安、平澤、稷山、愼德、忠清北道〕 江原道〔歙谷、通川、高城、杆城、襄陽、江陵、三陟、蔚珍、平海、淮陽ノ各郡ヲ除ク〕 黃海道ノ内〔延安、白川、金川、平山、瑞興、黃州、新溪、遂安、兎山、谷山、鳳山ノ各郡〕
釜山郵便局	慶尙南道 慶尙北道 全羅南道ノ内 巨文島
仁川郵便局	京畿道ノ内 仁川府及富平、江華、喬桐ノ各郡 忠清南道ノ内 於青島 黃海道ノ内〔延安、白川、金川、平山、瑞興、黃州、新溪、遂安、兎山、谷山、鳳山ノ各郡ヲ除ク〕
元山郵便局	咸鏡南道 江原道ノ内〔歙谷、通川、高城、杆城、襄陽、江陵、三陟、蔚珍、平海、淮陽ノ各郡〕
群山郵便局	全羅北道 忠清南道〔牙山、溫陽、新昌、禮山、木川、全義、天安、平澤、稷山、愼德、兼岐、公州ノ各郡及於青島ヲ除ク〕
木浦郵便局	全羅南道 巨文島ヲ除ク
平壤郵便局	平安南道
新義州郵便局	平安北道
清津郵便局	咸鏡北道 間島

●郵便法、郵便爲替法、郵便貯金法、鐵道船舶郵便法及電信法ノ

施行ニ關スル制 三十九年一月  
統令第一號

郵便法、郵便爲替法、郵便貯金法、鐵道船舶郵便法及電信法ノ施行ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外總テ遞信省令及告示ニ依ル

(參照)

●同上府令ニ依リ依據スル遞信省令及告示ノ重モナルモノ  
航海獎勵法ニ依リ保護ヲ受クル船舶郵便物運送規則(三一、遞令二〇〇)

郵便規則(三三、遞令四二)

本邦在外郵便官署所在地間並に在外官署所在地相互間通常郵便物取扱方(三三、遞令四三)  
鐵道船舶郵便規則(三三、遞令四四)

清韓小包郵便規則(三三、遞令五六)

在外郵便局外國小包郵便物取扱方(三四、遞令五二)

本邦發關東州租借地宛等小包郵便物ニ清韓小包郵便規則第四條ヲ適用セス(三九、遞令四六)

郵便切手帖發行(三九、遞令五六)

外國郵便規則(四〇、遞令四二)

郵便切手類記號規則(四一、遞令四一)

私製葉書製式規則(四二、遞令四五)

通常郵便物市内特別取扱規則(四二、遞令四六)

郵便物包裝規則(四二、遞令五〇)

郵便受付時間(四二、遞令二一四)

サルバドール宛郵便物差出方(二七、遞令三三三)

亞弗利加東海岸佛國殖民地オホツク宛書留郵便物受取方(二九、遞令一九二)

本邦韓國間及韓國相互間郵便物稅率(三〇、遞令三四四)

本邦及韓國在清國郵便局相互間郵便物手數料(三一、遞令三三三)

清國宛郵便物尺寸重量制限(三一、遞令三四六)

郵便法電信法等實施ニ付注意事項(三三、遞令三五九)

爲替、貯金、取立金受拂取扱時間(三三、遞令三六八)

第四種郵便物要件(三三、遞令五〇八)

郵便物差出方注意事項(三三、遞令五三九)

海峽殖民地並ニ聯邦州へ小包郵便ニテ金銀輸入禁止(三六、遞令八)

英國宛小包手帳差出方(三六、遞令一四〇)

清國郵便局ニ於テ本邦及韓國宛通常郵便物ノ料金(三六、遞令三八四)

露國宛小包郵便物ニ添附スヘキ稅關告知書ノ件(三七、遞令二〇八)

露語記載印刷物封入信書ニ關スル件(三七、遞令三〇八)

パナマ運河地帶發着通常郵便物取扱方(三七、遞令四二〇)

約東郵便物名宛人清國へ移轉ノトキ再發方(三八、遞令二七)

在韓國軍隊宛郵便物ニ地名記載方(三九、遞令五四)

加奈太ニューコン地方宛郵便物取扱方(三九、遞令五三一)

日淺間小包郵便物交換約定施行細則(三九、遞令五八〇)

露國宛小包郵便物包裝方(四〇、遞令一三六)

別配送料不明ノ場合郵便物引受方(四〇、遞令二二七)

露國宛郵便物運送方(四〇、遞令三四六)

日英間小包郵便物交換約定施行細則(四〇、遞令四八六)

日本香港間同上(四〇、遞令五二二)

滿州露國郵便局所在地宛郵便物發送方(四〇、遞令五四四)

萬國郵便條約施行規則(四〇、遞令五五五)

價格表記書狀及箱物交換約定施行規則(四〇、遞令五五六)

小包郵便物交換條約施行規則(四〇、遞令五五八)

同上第三條ニ引照セル規定ニ關スル件(四〇、遞令五六二)

外國宛通常郵便物ノ取戻又ハ名宛變更ヲ請求シ得ル國及該請求書ヲ發送スヘキ官署(四〇、遞令五六四)

本邦ト國際返信切手券ヲ交換スル國名(四〇、遞令五六九)

諸外國宛通常郵便物料金(四〇、遞令五七四)

本邦ト別配送郵便物ヲ交換スル國(四〇、遞令五七五)

本邦トナ金引換書留郵便物ヲ交換スル國及外國宛同郵便物ニ對スル代金引換金額ノ制限(四〇、遞令五七六)

外國宛價格表記書狀及同箱物ノ郵便料價格表記料及各國ニ於ケル隨意規定事項(四〇、通告五九三)  
 ドミニカ共和國萬國郵便條約及小包郵便物交換條約ニ加入(四〇、通告七二八)  
 毎年一月到著日附印省略ノ件(四〇、通告八六七)  
 給葉書ノ包束物ヲ印刷物トシテ輸入スルヲ許シ又ハ許ササル國(四一、通告一一六)  
 郵便電信ノ發受ニ付一般公衆ノ注意事項(四一、通告五八二)  
 希臘宛小包郵便物ノ露國經由ニテ差立ツルヲ得サル件(四一、通告九二四)  
 ソマリンド及ケーマン諸島價格表記書狀及同箱物交換條約ニ加入(四一、通告一一六二)  
 ニカラガ外三國ローマ締結條約ニ加入(四一、通告一一九六)  
 エチオピア帝國萬國郵便條約ニ加入(四一、通告一二四二)  
 煙草在中外國小包郵便物境通過ノ場合印紙稅ヲ課スル件(四一、通告一二八三)  
 シェリナム價格表記書狀及箱物交換條約ニ加入(四二、通告六一)  
 四比利亞經由指定ノ歐洲宛通常郵便物差立方(四二、通告一〇四)  
 外國宛小包郵便物料金(四二、通告六三〇)  
 小包郵便物交換條約ニ依ル外國宛小包郵便物ノ取戻等及代金引換ノ取消等ヲ許ス國及諸請求書ヲ宛ツヘキ官署(四二、通告六三三)  
 日本海峽殖民地間小包郵便物交換條約施行細則(四二、通告六四四)  
 清國宛通常郵便物ノ取戻又ハ名宛變更請求書ヲ宛ツヘキ官署(四二、通告六六三)  
 郵便ニ依リ清國宛ニ輸入シ又ハ清國ヨリ輸出スルコトヲ得サル物品(四二、通告六六四)  
 特許審判書類特別取扱郵便規則(四二、通告五一號)  
 小包郵便禁制品(四二、通告第一三〇四號)

### 第一章 郵便爲替

#### ●郵便爲替法 三十三年三月 法律第五十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル郵便爲替法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 郵便爲替法

- 第一條 郵便爲替ハ通常爲替電信爲替及小爲替ノ三種トス
- 第二條 通常爲替證書及小爲替證書ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外差出人ニ於テ之ヲ其ノ受取人ニ送達ス
- 第三條 電信爲替證書ハ郵便官署ニ於テ之ヲ其ノ受取人ニ送達ス
- 第四條 郵便官署ハ差出人ノ請求ニ因リ通常爲替證書及電信爲替證書ニ對スル郵便爲替金ノ拂渡前ニ於テ其ノ拂渡ヲ停止シ又ハ其ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得
- 第五條 郵便爲替ニ關シ無能力者ノ郵便官署ニ對シテ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス
- 第六條 郵便官署ハ受取人ノ眞偽ヲ調査スル爲受取人ヲシテ必要ナル證明ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第七條 郵便爲替ニ關スル書類ニ付テハ印紙稅ヲ課セス
- 第八條 郵便爲替金額ノ制限及郵便爲替ニ關スル料金ハ命令ノ定ムル所ニ依ル
- 第九條 郵便爲替ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便切手ヲ以テ納付スヘシ
- 第十條 郵便爲替ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ還付セス
- 第十一條 郵便爲替證書ノ有効期間ハ其ノ發行ノ日ヨリ通常爲替及電信爲替ニ在リテハ九十日小爲替ニ在リテハ六十日トス
- 第十二條 前項ノ期間ハ交通不便ノ地方ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ延長スルコトヲ得
- 第十三條 郵便官署ニ於テ郵便爲替金ノ拂渡ヲ遅延シタル爲經過シタル日數ハ前條ノ有効期間ニ算入セス
- 第十四條 郵便爲替證書ノ有効期間ヲ經過シタルトキ又ハ郵便爲替證書ヲ亡失毀損若ハ汚損シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ差出人又ハ受取人ニ於テ再度證書ノ交付又ハ爲替金ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得
- 第十五條 再度證書ヲ發行シタルトキハ原證書ハ無効トス
- 第十六條 郵便爲替證書ノ有効期間満了ノ日ヨリ三箇年間前條ノ請求ヲ爲ササルトキハ其ノ郵便爲替金ハ國

庫ノ所有ニ歸ス

第十四條 成規ノ手續ヲ經テ爲替金ヲ交付シタルトキハ正當ノ拂渡ヲ爲シタルモノト看做ス  
第十五條 郵便官署ハ郵便爲替金拂渡ノ遅延ニ因リ生シタル損害ニ付賠償ノ責ニ任セス  
第十六條 郵便爲替ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルモノハ各其ノ規定ニ依ル

附則

第十七條 本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス  
郵便條例第十二章及第二百四十二條ハ之ヲ廢止ス

第十八條 本法施行前ニ發行シタル郵便爲替證書及郵便小爲替證書ニ關シテハ本法ノ規定ヲ適用ス但シ本法施行前其ノ有効期間滿了シタルモノニ在リテハ第十三條ノ期間ハ五箇年トシ其ノ有効期間滿了セサルモノニ在リテハ第十條第一項ノ期間ハ郵便爲替證書ニ付テハ百二十日郵便小爲替證書ニ付テハ六十日トス

●電信爲替制限額

四十一年七月 改正 四十二年 統令第二十二號

官廳又ハ銀行業者韓國内ニ於テ電信爲替ニ依リ高額ノ金員ヲ送付セムトスルトキハ豫メ左記様式ノ申請書ヲ當該振出郵便局所經由統監府通信管理局長ニ差出シ其ノ認可ヲ受ケ電信爲替證書一枚ノ制限金額ヲ五千圓迄ニ高ムルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テ其ノ爲替金ハ百圓毎ニ打切り計算シ各之ニ相當スル所定ノ爲替料ヲ徴收ス  
高額電信爲替振出ノ認可ヲ受ケタル者一箇年間其ノ振出ヲ爲ササルトキハ認可ノ效力ヲ失フ  
本令ハ明治四十一年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

(様式)

高額電信爲替申請書

送金ノ目的  
證書一枚ノ最高金額  
振出郵便局所名  
送金ノ地名  
右認可相成度及申請候也  
年月日

(何地何地間ト相且送受ノ地名ヲ記載スヘシ)

官廳又ハ銀行所在地名  
官職名又ハ代表者 氏

名印

統監府通信管理局長宛

●郵便爲替規則第六十條第二項ハ韓國ニ準用セス 四十二年十二月 統令第六十八號  
明治三十三年ハ遞信省令第四十五號郵便爲替規則中第六十條第二項ノ規定ハ之ヲ韓國ニ準用セス從前ノ例ニ依ル

附則

本令ハ明治四十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●外國郵便爲替交換局

四十一年十月 統令第五十六號

明治四十一年十月一日以降管理事務分掌郵便局ヲ外國郵便爲替交換局トス

(參照)

●三十九年統監令第一號ニ依リ依據スル遞信省令及告示ノ重モナルモノ  
郵便爲替規則(三三、遞令四五)  
郵便爲替證書引渡規則(三四、遞令一三)  
同上規則ヲ郵便取立金取立濟通知書ニ準用ノ件(三四、遞令三七)  
制限外高額通常爲替ニ關スル件(三六、遞令六)

第十八輯 通信 第二章 郵便爲替



軍事郵便爲替貯金規則(三七、通告七)  
 指定局等ニ於テ軍人軍屬ノ振出ス通常爲替ノ件(三七、通告三七)  
 海外出張人ノ委託ニ依リ横濱正金銀行ヨリ差出ス通常爲替取扱方(三八、通告七二)  
 外國郵便爲替規則(四〇、通告四三)  
臺灣、樺太又ハ韓國ニ取組ム電信爲替料金及在清國各局所下取組ム郵便爲替料金(四一、通告四九)  
 非常召集者宛爲替時間外特別取扱ノ件(二七、通告一五七)  
 シアートルニ爲替交換局増設ノ件(三三、通告二〇七)  
 日本布疋間郵便爲替交換ハ日米間ノ條約ニ依ルノ件(三三、通告二二六)  
 在清國局所ニ於テハ電信爲替ノ取扱ヲ爲サス(三三、通告三五二)  
 郵便爲替取扱時間(三三、通告三六八)  
 タスマニヤ、ホバート、タツテルサル宛郵便爲替ヲ振出スコトヲ得ス(三九、通告一九)  
 牛莊局電信爲替事務開始(三九、通告四二二)  
 コーマ締結郵便爲替業務約定施行規則(四〇、通告五五七)  
 在清國郵便局等外國爲替業務取扱制限(四〇、通告五八六)  
 外國郵便爲替交換局(四〇、通告五八七)  
 北京局等電信爲替事務取扱(四一、通告一七〇)  
 ホンヂュラス共和國ローマ締結郵便爲替業務約定ニ加入(四一、通告四二三)  
 白露、サルヴアドール、セルビヤ同上ノ件(四一、通告一一九六)  
 無集配局所ニ於テハ電信爲替通報ノ別配達ヲ取扱ハス(四一、通告一二四〇)  
 日英間郵便爲替條約ニ依ル交換局(四一、通告一三六〇)  
 外國爲替交換局爲替金額表示貨幣、最高額別配達等ノ件(四一、通告一三六一)  
 組宛宛郵便爲替ヲ振出スコトヲ得ス(四二、通告六五九)  
 日白露間郵便爲替券有効期間(四二、通告一一九七)

### 第三章 郵便貯金法

#### ●郵便貯金法

三十八年二月 法律第二十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル郵便貯金法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 郵便貯金法

第一條 郵便貯金ハ政府之ヲ管掌ス

第二條 郵便貯金ノ預入ハ郵便貯金通帳ニ依リ其ノ拂戻ハ拂戻證書ニ依リ之ヲ爲ス但シ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 一人ノ郵便貯金制限額ハ左ノ如シ

- 一 一度ノ預入額 十錢以上
- 二 貯金總額 千圓以下

預入金ノ端數ハ厘位ヲ限トス

第四條 左ニ掲クル預入金ニ付テハ前條第一項第二號ノ制限ヲ適用セス

- 一 公共團體、社寺、學校又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體ノ預入金
- 二 命令ノ規定ニ依ル共同貯金ノ預入金
- 三 産業組合ノ預入金
- 四 振替計算ノ爲ニスル預入金

第五條 郵便貯金通帳ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外一人一冊ヲ限トス

前項ノ規定ニ違反シ二冊以上ノ通帳ヲ以テ貯金ノ預入ヲ爲シタル者アルトキハ最初ノ通帳、通帳ノ日附同一ナルトキハ貯金ノ最多額ナルモノニ記入シタル貯金ノ外利子ヲ付セス

前項ニ依リ利子ヲ付スヘカラサル貯金ニ付既ニ拂戻シタル利子アルトキハ現ニ存在スル貯金ヨリ之ヲ控除シ又ハ別ニ之ヲ追徴ス

第六條 郵便貯金額第三條第一項第二號ノ制限ヲ超過シタル場合ニ於テ郵便貯金預ケ人之ヲ其ノ制限以内ニ減額セサルトキハ郵便官署ハ其ノ制限以内ニ減額スルニ必要ナル限度ニ於テ貯金ノ一部ヲ以テ國債證券ヲ購入シ之ヲ保管スヘシ

第七條 郵便切手及支拂期ノ開始セル證券ハ命令ノ定ムル所ニ依リ郵便貯金ニ預入スルコトヲ得

第八條 郵便貯金ノ利子ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 郵便官署ハ郵便貯金預ケ人ノ請求ニ因リ其ノ貯金ノ一部ヲ以テ國債證券其ノ他ノ證券ヲ購入保管シ又ハ之ヲ賣却スルコトヲ得其ノ證券ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 郵便貯金拂出ニ關スル證券ノ有効期間ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 郵便貯金ニ關シ無能力者ノ郵便官署ニ對シテ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第十二條 郵便貯金及保管ニ係ル證券ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第十三條 成規ノ手續ヲ經テ郵便貯金ヲ拂出シ又ハ保管ニ係ル證券ヲ交付シタルトキハ正常ノ拂出又ハ交付ヲ爲シタルモノト看做ス

第十四條 郵便官署ハ郵便貯金ニ關スル取扱ノ遲延ニ因リ生シタル損害ニ付賠償ノ責ニ任セス

第十五條 郵便官署ハ郵便貯金預ケ人ノ眞偽ヲ調査スル爲メ預ケ人ヲシテ必要ナル證明ヲ爲サシムルコトヲ得

第十六條 郵便官署ハ必要ナル場合ニ於テ郵便貯金通帳ヲ檢閲スルコトヲ得

第十七條 郵便貯金ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

第十八條 十年間郵便貯金ノ預入及拂出ナク且利子記入又ハ檢閱ノ爲ニスル通帳ノ提出ナキ場合ニ於テハ郵便官署ハ其ノ預ケ人ニ對シ郵便貯金通帳ノ提出又ハ預入金ノ處分ヲ爲スヘキ旨ヲ催告シ其ノ催告ノ日ヨリ六十日內ニ通帳ヲ提出セス又ハ預入金ノ處分ヲ申出サルトキハ其ノ郵便貯金及保管ニ係ル證券ハ國庫ノ所

有ニ歸ス

郵便貯金拂出ニ關スル證券ノ有効期間満了ノ日ヨリ三年間再度證券交付又ハ拂出金戻入ノ請求ナキ場合ニ於テハ其ノ拂出金ハ國庫ノ所有ニ歸ス

一定ノ期間拂戻ヲ爲ササル條件ヲ以テ預入シタル郵便貯金ニ付テハ其ノ期間ハ第一項ノ期間ニ算入セス

附 則 (三十八年勅令第六十四號ヲ以テ三十八年七月二日ヨリ施行ス)

第十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郵便貯金條例ハ之ヲ廢止ス

第二十條 本法施行前ニ預入シタル郵便貯金ニ關シテハ本法ノ規定ヲ適用ス

本法施行前又ハ本法施行後一年內ニ第十八條第一項ノ期間ヲ經過シ又ハ經過スヘキ郵便貯金ニ付テハ本法施行ノ際郵便官署ニ於テ其ノ預ケ人ニ對シ郵便貯金通帳ノ提出又ハ預入金ノ處分ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スヘシ其ノ催告ノ日ヨリ一年內ニ通帳ヲ提出セス又ハ預入金ノ處分ヲ申出サルトキハ更ニ其ノ旨ヲ公告シ尙一年內ニ之ニ應スル者ナキトキハ其ノ貯金及保管ニ係ル國債證券ハ國庫ノ所有ニ歸ス  
本法施行前發行シタル拂戻證券ノ有効期間ハ本法施行ノ日ヨリ六十日トス

●郵便貯金利子割合

三十八年五月 改正三十九年 勅令第六十六號 一三號

朕郵便貯金利子割合ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便貯金ニ付スヘキ利子ノ割合ハ年五分四毛トス但シ千圓以上ノ預入金ニ對シテハ省令ヲ以テ利子ノ割合ヲ低減スルコトヲ得

振替計算ノ爲ニスル郵便貯金ニ付スヘキ利子ノ割合ハ前項ノ規定ニ拘ラス年三分六厘トス

附 則

本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●韓國人ノ郵便貯金ニ關スル制

四十二年二月  
統令第二號

韓國人ノ預入ニ係ル郵便貯金ニ對シテハ韓文ノ郵便貯金通帳ヲ交付ス但シ預ケ人ノ希望ニ依リ普通ノ郵便貯金通帳ヲ交付ス

韓文郵便貯金通帳ニ依ル郵便貯金ノ預入又ハ拂戻ハ統監府通信官署ノ外之カ取扱ヲ爲サス  
韓文郵便貯金通帳ヲ所持スル者ニシテ統監府通信官署以外ノ通信官署ニ於テ郵便貯金ノ預入又ハ拂戻ヲ爲サ  
ムトスルトキハ韓國國內ニ於テ普通ノ郵便貯金通帳トノ引換ヲ請求スヘシ  
本令ハ明治四十二年二月十六日ヨリ之ヲ施行ス

●郵便振替貯金規則

四十二年十二月  
統令第六十九號

郵便振替貯金規則左ノ通定ム

郵便振替貯金規則

第一章 總則

第一條 振替計算ノ爲ニスル郵便貯金ハ之ヲ郵便振替貯金ト稱ス

第二條 郵便振替貯金ハ左ノ取扱ヲ爲スモノトス

- 一 加入者又ハ其ノ他ノ者ヨリ現金又ハ所定ノ證券ニ依ル拂込ヲ指定加入者ノ口座ニ受入ルルコト
  - 二 加入者ノ請求ニ依リ加入者ノ口座相互間ニ於テ貯金ノ振替ヲ爲スコト
  - 三 加入者ノ請求ニ依リ其ノ口座ノ貯金ヲ拂出シ當該加入者又ハ其ノ指定人ニ現金ノ拂渡ヲ爲スコト
- 第三條 郵便振替貯金ノ振替計算ヲ爲ス爲統監府通信管理局、郵便貯金局及同大阪郵便貯金支局ニ加入者ノ口座ヲ設ク
- 郵便振替貯金ニ加入セムトスル者ハ自己ノ便宜ニ從ヒ前項所管廳ノ一箇所又ハ數箇所ニ口座ノ開設ヲ請求

スルコトヲ得

第四條 口座所管廳ニ於テハ加入者ノ口座番號、氏名、住所、職業等ヲ輯録シタル振替貯金加入者名簿ヲ發行シ加入者ノ請求ニ依リ別ニ告示スル價格ヲ以テ之ヲ賣渡スモノトス

加入者前項ノ名簿ヲ買受ケムトスルトキハ其ノ旨ヲ所屬ノ口座所管廳ニ申込ムヘシ

第五條 加入者及其ノ他ノ關係人本規則ニ依リ署名捺印スヘキ場合ニ於テハ成規ニ依リ提出シタル印鑑票ト

同一ノ形式ニ依リ署名シ同一ノ印章ヲ使用スヘシ

第六條 社寺、學校、組合又ハ團體ニシテ法人ニ非サル者振替貯金ニ加入セムトスルトキハ其ノ代表者一名

ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ代表者ヲ以テ一箇ノ加入者ト看做ス

前項ノ加入者本規則ニ依リ署名捺印スヘキ場合ニ於テハ其ノ代表者ニ於テ社寺、學校、組合又ハ團體ノ名稱ヲ肩書シ署名捺印スヘシ

第七條 加入者ハ一名ニ限リ參加署名人ヲ設定スルコトヲ得

參加署名人ヲ設定シタル加入者本規則ニ依リ署名捺印スヘキ場合ニ於テハ參加署名人モ亦其ノ肩書ヲ附シ署名捺印スヘシ

第八條 加入者ハ一名又ハ數名ノ代理署名人ヲ設定スルコトヲ得

第九條 加入者ハ一口座ニ付一箇ヲ限リ商號、屋號及其ノ他ノ稱號ヲ別名トシテ之カ登記ヲ請求スルコトヲ得

第十條 前項ノ別名登記ニ對シテハ料金一圓ヲ徵收ス

第十條 代人ニ於テ本規則ニ依ル各種ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本人ノ委任狀ヲ差出シ且代人タルノ肩書ヲ附シ署名捺印スヘシ

第十一條 前項ノ委任ハ通信官署ニ提出スヘキ書類ニ附記シテ之ヲ證明スルコトヲ得

第十二條 郵便振替貯金ニ關スル各種ノ料金及代金ハ特ニ規定シタル場合ヲ除クノ外口座所管廳ニ於テ之ヲ

當該加入者ノ貯金ヨリ控除徴收ス但シ時宜ニ因リ郵便切手ヲ以テ徴收スルコトアルヘシ  
第十二條 郵便振替貯金ノ利子ハ其ノ口座ニ於ケル月末現在高ニ對シ翌月ヨリ拂出ノ前月マテ之ヲ付ス但シ  
基本預金及一圓未満ノ端數ニ對シテハ利子ヲ付セス

郵便振替貯金ノ利子ハ毎年三月末日ヲ區切り之ヲ元金ニ加フ  
第十三條 帝國國庫金受拂ノ爲ニスル口座ノ貯金ニ對シテハ利子ヲ付セス

第二章 加入

第十四條 郵便振替貯金ニ加入セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル加入請求書ニ基本預金二十圓ヲ添ヘ且  
別名ノ登記ヲ受ケムトスル者又ハ用紙若ハ名簿ノ賣渡ヲ受ケムトスル者ニ在リテハ其ノ料金又ハ代金ニ相  
當スル郵便切手ヲ貼附シ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ但シ官公署ニ於テ加入請求ノ場合ハ基本預金ノ拂込ヲ  
要セス

一 加入者ノ住所氏名

二 加入者ノ職業

三 振替貯金ノ口座ヲ開設スヘキ場所ノ指定

四 加入ノ際振替貯金ニ關スル用紙及加入者名簿ヲ買受ケムトスルモノナルトキハ其ノ名稱及所要數量

五 代表者、參加署名人名簿ヲ設定スルモノハ其ノ住所氏名

六 商號、屋號及其ノ他ノ稱號ヲ別名トシテ登記ヲ受ケムトスルモノナルトキハ其ノ名稱

前項ノ場合ニ於テ官署又ハ官吏カ帝國國庫金受拂ノ爲ニ加入スルモノナルトキハ其ノ金額目又ハ使用ノ目  
的ヲ記載シタル當該官署ノ證明書ヲ加入請求書ニ添付スヘシ

第十五條 口座所管應ニ於テ前條ノ請求ヲ承認シタルトキハ請求人名義ノ口座ヲ開設シ其ノ口座番號ヲ請求  
人ニ通知シ且印鑑票用紙ヲ送付ス

第十六條 請求人前條印鑑票用紙ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ相當事項ヲ記載シ署名捺印ノ上無料書留通常  
郵便ニ依リ速ニ之ヲ所屬ノ口座所管應ニ送付スヘシ但シ參加署名人名簿又ハ代理署名人名簿ヲ設ケタルモノナルト  
キハ其ノ印鑑票ノ裏面ニ加入者ニ於テ其ノ旨ヲ證明スヘシ

第三章 拂込及拂出

第一節 通則

第十七條 郵便振替貯金ノ拂込、振替及拂出ハ拂込書及拂出書用紙ヲ使用スヘシ

第十八條 拂込書用紙ハ拂込ノ際郵便局所ニ於テ當該拂込人ニ無料ニテ之ヲ交付ス

第十九條 加入者ハ自己ノ口座ニ對スル拂込ニ專用スル爲メ其ノ口座番號及住所氏名ヲ印刷シタル拂込書用  
紙ノ賣渡ヲ所屬ノ口座所管應ニ請求スルコトヲ得

前項拂込書用紙ノ價格ハ五十枚綴一冊ニ付金十錢トス

第二十條 加入者ハ拂込書用紙ヲ私製スルコトヲ得

私製ノ拂込書用紙ハ附録雜形ニ適合シ且其ノ相當欄ニ加入者ノ口座番號及氏名ヲ印刷シタルモノナルコト  
ヲ要ス

第二十一條 拂込書用紙ニハ其ノ裏面餘白ニ廣告又ハ其ノ他ノ事項ヲ印刷スルコトヲ得

第二十二條 拂出書用紙ハ普通拂出書及局待拂出書ノ二種トシ所屬ノ口座所管應ニ於テ其ノ相當欄ニ加入  
者ノ口座番號及住所氏名ヲ印刷シ當該加入者ニ之ヲ賣渡スモノトス

前項拂出書用紙ノ價格ハ各五十枚綴一冊ニ付金十五錢トス

第二十三條 拂込書及普通拂出書ニハ其ノ相當欄ニ拂込人及拂出人ニ於テ相手加入者又ハ指定受取人ニ對ス  
ル通信文ヲ記載スルコトヲ得

第二十四條 拂込書及拂出書ニ表示スル金高ハ其ノ字體ヲ正確ニ記載シ一、二、三及十ノ數字ハ壹、貳、參  
及拾ノ文字ヲ使用スヘシ

拂込書及拂出書ニシテ其ノ記載事項ヲ訂正シタルモノハ通信官署ニ於テ之ヲ受理セス但シ金高ヲ除クノ外

其ノ訂正ノ箇所ニ拂込人又ハ拂出人ニ於テ相當證印ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラス  
第二十五條 口座所管應ニ於テ加入者ノ口座ニ對シ受入又ハ拂出ヲ爲シタルトキハ其ノ受拂高及現在高ヲ表  
示スル受拂通知票ヲ調製シ之ヲ當該加入者ニ發送ス  
前項ノ貯金現在高ニハ基本預金ヲ算入セス

第二十六條 加入者ハ所屬ノ口座所管應ヨリ最近ニ送付ヲ受ケタル受拂通知票ノ貯金現在高ヲ超過シテ振替  
若ハ拂出ノ請求ヲ爲シ又ハ局待拂拂出書ノ振出ヲ爲スコトヲ得ス

第二十七條 現金ヲ以テ拂渡ヲ爲スヘキ拂出書一枚ノ金額ハ千圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十八條 郵便振替貯金ノ口座ニ對シ拂込金ノ受入又ハ振替ニ依ル受拂ヲ爲シタルトキハ左ノ割合ニ依ル  
料金ヲ一箇月分ツツ取纏メ徵收ス

- 一 口座受入料 一口ニ付二錢
  - 二 口座拂出料 一口ニ付二錢
- 現金拂渡ノ爲振替貯金ヲ拂出ストキハ其ノ拂出ノ際左ノ割合ニ依ル料金ヲ徵收ス

十圓迄	五錢
五十圓迄	十錢
百圓迄	十五錢
二百圓迄	二十錢
三百圓迄	二十五錢
四百圓迄	三十錢
五百圓迄	三十五錢
六百圓迄	四十錢
八百圓迄	四十五錢

千圓迄

五十錢

帝國國庫金受拂ノ爲ニスル口座ニ對シテハ前二項ノ料金ヲ徵收セス

第二十九條 郵便振替貯金拂出證書ノ有効期間ハ其ノ發行ノ日ヨリ起算シ三十日トス

第三十條 郵便振替貯金拂出證書ハ銀行ニ對シ線引讓渡ヲ爲スコトヲ得

交換所組合銀行ハ當該交換所ニ參加セル通信官署ニ對シ手形交換ノ手續ニ準シ交換所所在地ノ郵便局所ニ  
於テ拂渡スヘキ振替貯金拂出證書ノ交換拂ヲ請求スルコトヲ得

第二節 拂込

第三十一條 郵便振替貯金ノ口座ニ對シ拂込ヲ爲サムトスル者ハ拂込書用紙ニ拂込ヲ受クヘキ加入者ノ口座  
番號、氏名、拂込金額及拂込人ノ住所氏名ヲ記載シ拂込金ト共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領票ヲ受取  
ルヘシ

第三十二條 郵便局所ニ於テ前條ノ拂込金ヲ受領シタルトキハ其ノ拂込書ヲ拂込ヲ受クヘキ口座ノ屬スル所  
管應ニ送付ス

口座所管應ニ於テハ前項ノ拂込書ニ依リ當該加入者ノ口座ニ拂込金ヲ登記シ拂込通知票ハ當日ノ受拂通知  
票ト共ニ之ヲ加入者ニ送付ス

第三十三條 左ノ證券ハ之ヲ現金ニ代用シテ振替貯金ニ拂込ムコトヲ得但シ郵便取立金取立濟通知書ニ依リ  
拂込ム場合ハ取立金送達料ニ相當スル郵便切手ヲ其ノ通知書ニ貼附スヘシ

- 一 郵便爲替證書
  - 二 郵便取立金取立濟通知書
  - 三 郵便振替貯金拂出證書
  - 四 帝國中央金庫ニ於テ拂渡スヘキ仕拂命令券
- 第三十四條 加入者ハ郵便取立金ノ拂渡ヲ受クヘキ郵便局所ニ對シ豫メ自己ノ口座ニ其ノ取立金ノ振替拂込

ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ自己ノ口座ニ専用スヘキ拂込書用紙ノ相當數量ヲ當該郵便局所ニ差出シ置クヘシ

前項ノ郵便局所ニ於テハ郵便取立金到着ノ際加入者ノ請求ヲ待タス直ニ之ヲ當該口座ニ振替拂込ノ手續ヲ爲シ其ノ取立金送達料ハ所屬ノ口座所管應ニ於テ當該加入者ノ貯金ヨリ控除徴收ス

第三十五條 拂込人ハ拂込金ノ口座登記前ニ限リ其ノ取消ヲ請求スルコトヲ得

拂込人前項ノ請求ヲ爲サントスルトキハ拂込先加入者ノ口座番號、氏名、拂込金額、拂込局所名、拂込人ノ氏名及取消ノ旨ヲ郵便又ハ電報ニ依リ當該口座所管應ニ通報スヘシ

第三十六條 拂込人前條取消ノ通報ヲ郵便局所ニ依託セムトスルトキハ相當事項ヲ記載シタル拂込取消通報請求書ニ料金トシテ郵便ニ依ルモノハ三錢電報ニ依ルモノハ三十錢ノ割合ニ依ル郵便切手ヲ添ヘ拂込郵便局所ニ差出スヘシ

第三十七條 口座所管應ニ於テ拂込金取消ノ通報ヲ受ケタルトキハ其ノ拂込金ヲ口座ニ登記セズ拂込郵便局所ヲ經テ之ヲ拂込人ニ還付ス

前項ノ場合ニ於テ當該拂込金既ニ口座登記後ナルトキハ單ニ其ノ旨ヲ拂込人ニ通知ス

第三節 振替

第三十八條 加入者ハ相手加入者ノ口座所管應ノ如何ニ拘ハラズ其ノ口座ニ對シ貯金ノ振替ヲ請求スルコトヲ得

第三十九條 加入者自己ノ口座ノ貯金ヲ拂出シ之ヲ他ノ加入者ノ口座ニ振替ヘムトスルトキハ普通拂出書用紙ニ金額、振替拂込ヲ受クヘキ加入者ノ口座番號及氏名等ヲ記載シ署名捺印ノ上無料普通通常郵便ニ依リ之ヲ所屬ノ口座所管應ニ送付スヘシ

第四十條 口座所管應ニ於テ振替請求ニ係ル拂出書ノ送付ヲ受ケタルトキハ當該印鑑票ニ就キ氏名及印影ノ正當ナルコトヲ認メ其ノ口座ヨリ貯金拂出ノ手續ヲ爲シ更ニ指定加入者ノ口座ニ之ヲ受入レ拂出通知票ハ

當日ノ受拂通知書ト共ニ之ヲ拂込ヲ受ケタル加入者ニ送付ス

第四十一條 郵便振替貯金ニ加入セル銀行ハ特ニ指定セラレタル銀行ニ於ケル自行ノ當座勘定口ニ其ノ貯金ノ振替ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ普通拂出書ノ指定受取人欄ニ相手銀行ノ名稱及「當座勘定口」

ノ文字ヲ記載シ署名捺印ノ上第三十九條ノ例ニ依リ之ヲ所屬ノ口座所管應ニ送付スヘシ

第四十二條 口座所管應ニ於テ前條ノ拂出書ヲ受ケタルトキハ第四十條ノ例ニ依リ貯金拂出ノ手續ヲ爲シタル上指定銀行ノ區別ニ從ヒ各銀行ノ請求ヲ取纏メ其ノ總額ニ對シ指定銀行ニ仕拂フヘキ振替貯金拂出證書ヲ發行シ各銀行ヨリ提出セル拂出通知票ト共ニ之ヲ當該指定銀行ニ送付ス

前項拂出證書ニ對シテハ證書一枚ノ金額ニ制限ヲ附セズ

第四十三條 前條ノ拂出證書ニ對シテハ別ニ定ムル所ニ從ヒ當該指定銀行ニ對シ振替ノ方法ニ依リ之カ支拂ヲ爲ス

指定銀行ニ於テ前項ニ依リ支拂ヲ受ケタルトキハ之ヲ當該各銀行ノ當座勘定口ニ振替受入ルルモノトス

第四節 現金拂

第四十五條 加入者自己ノ口座ノ貯金ヲ拂出シ自ラ其ノ現金ヲ受領シ若ハ他人ヲ指定シテ之カ拂渡ヲ受ケシメムトスルトキハ普通拂出書用紙ニ金額、受取人ノ住所氏名及拂渡郵便局所名ヲ記載シ且金額欄ノ下部餘

白ニ「現金拂」ノ文字ヲ附記シ署名捺印ノ上無料普通通常郵便ニ依リ之ヲ所屬ノ口座所管應ニ差出スヘシ

第四十六條 口座所管應ニ於テ前條拂出書ノ送付ヲ受ケタルトキハ第四十條ノ例ニ依リ貯金拂出ノ手續ヲ爲シタル上振替貯金拂出證書ヲ發行シ當該拂出通知票ト共ニ拂渡郵便局所ヲ經テ之ヲ指定受取人ニ送達ス

第四十七條 受取人拂出證書ニ對スル現金ヲ受領セムトスルトキハ其ノ相當ノ部ニ署名捺印シ之ヲ拂渡郵便局所ニ差出シ之ヲ引換ニ現金ヲ受取ルヘシ

前項ノ場合ニ於テ受取人カ法人又ハ法人ニ非サル團體ナルトキハ其ノ名稱ヲ記載シ捺印スルカ又ハ其ノ代

表者若ハ會計ヲ掌ル者ニ於テ相當肩書ヲ附シ署名捺印スヘシ

第四十八條 拂渡郵便局所ニ於テ指定受取人所在不明又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ拂出證書ノ送達ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ證書ヲ發行シタル口座所管廳ヲ經テ之ヲ拂出請求加入者ニ送達ス

加入者前項ノ拂出證書ニ對スル現金ヲ受領セムトスルトキハ其ノ相當ノ部ニ署名捺印シ之ヲ所在ノ郵便局所ニ差出シ且拂出書用紙又ハ最近ニ送付ヲ受ケタル受拂通知票ヲ呈示シ正當加入者タルコトヲ證明スヘシ  
第四十九條 現金拂ヲ請求シタル加入者ハ振替貯金拂出證書ノ現金拂渡前ニ於テ其ノ拂渡ノ停止ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ口座番號、拂出金額、拂出書用紙番號、拂出請求日附、指定受取人ノ住所氏名及停止通知ノ郵便又ハ電報ニ依ル區別ヲ記載シタル拂渡停止請求書ニ署名捺印ノ上無料普通通常郵便ニ依リ之ヲ所屬ノ口座所管廳ニ送付スヘシ

前項拂渡停止ノ請求ニ對シテハ拂出證書一枚ニ付其ノ停止通知ノ郵便ニ依ルモノハ三錢電報ニ依ルモノハ三十錢ノ割合ニ依ル料金ヲ徵收ス

第五十條 加入者ハ拂渡停止ノ請求ヲ口座所管廳ニ速達セシムル爲其ノ電報通知ヲ郵便局所ニ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條ノ請求書ニ其ノ旨ヲ附記シ尙其ノ料金トシテ拂出一口ニ付三十錢ノ割合ニ依ル郵便切手ヲ添ヘ之ヲ當該郵便局所ニ差出シ且拂出書用紙又ハ最近ニ送付ヲ受ケタル受拂通知票ヲ呈示シ正當加入者タルコトヲ證明スヘシ

第五十一條 口座所管廳ニ於テ拂渡停止ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求ノ區別ニ從ヒ郵便又ハ電報ニ依リ其ノ拂渡ノ停止ヲ當該拂渡郵便局所ニ通報ス

拂渡郵便局所ニ於テ前項ノ通報ヲ受ケタル場合ト雖既ニ拂渡済ナルトキハ單ニ其ノ旨ヲ當該加入者ニ通知ス

第五十二條 前三條ノ規定ハ拂渡停止解除ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十三條 拂渡郵便局所ニ於テ拂渡資金ノ缺乏又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ拂出證書ニ對スル拂渡ヲ停延シタルトキハ當該證書ノ裏面ニ其ノ事由及豫定日數ヲ記載證印シ之ヲ請求人ニ返付ス

前項ニ依リ拂渡ヲ停延シタル爲經過シタル日數ハ之ヲ拂出證書ノ有効期間ニ算入セス

第五十四條 拂渡郵便局所ニ於テ拂出證書ニ對シ拂渡ヲ停延シタル場合ト雖拂渡ヲ爲シ得ルニ至リタルトキハ其ノ旨ヲ受取人ニ通知ス停延期間ノ延長ヲ要スルニ至リタルトキ亦同シ

第五十五條 拂渡郵便局所ニ於テ資金缺乏ノ爲拂出證書ニ對スル拂渡ヲ停延スヘキ場合ト雖其ノ拂渡シ得ル金額ノ限度トシ請求人ノ希望ニ依リ一部假拂ヲ爲スコトアルヘシ

請求人前項ノ假拂ヲ受クルトキハ其ノ受領證ヲ差出シ且拂出證書ヲ呈示シテ假拂金ノ記入及殘額ニ對スル拂渡停延ノ證明ヲ受クヘシ

第五十六條 加入者又ハ受取人ニ於テ拂出證書ニ指定セル拂渡局所ノ變更ヲ請求セムトスルトキハ拂出證書ノ記號番號、日附、金額及新舊拂渡郵便局所名等ヲ記載シタル拂渡局所變更請求書ニ料金トシテ證書一枚ニ付三錢ノ割合ニ依ル郵便切手ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ差出シ又ハ所屬ノ口座所管廳ニ送付スヘシ

通信官署ニ於テ拂渡局所ノ變更ヲ承認シタルトキハ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

第五十七條 加入者及受取人ハ左ノ場合ニ於テ振替貯金拂出證書ノ再度交付ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ證書一枚ニ付料金三錢ヲ納付スヘシ

一 拂出證書亡失シタルトキ

二 拂出證書毀損汚斑シテ不判明トナリタルトキ

三 拂出證書有効期間ヲ經過シタルトキ

第五十八條 加入者又ハ受取人拂出證書ノ再度交付ヲ請求セムトスルトキハ證書ノ記號番號、日附、金額、加入者ノ口座番號、氏名及請求ノ事由等ヲ記載シタル請求書ニ料金ニ相當スル郵便切手ヲ貼附シ署名捺印ノ上原證書アルモノ之ヲ添ヘ郵便局所ニ差出スヘシ

前項ノ請求ニ對シテハ口座所管廳ニ於テ原證書ニ對シ未タ拂渡ヲ爲ササルコトヲ確メタル上再度振替貯金

拂出證書ヲ發行シ書留郵便ニ依リ之ヲ請求人ニ送達ス

第五十九條 再度振替貯金拂出證書ヲ發行シタルトキハ原證書ハ無効トス

第六十條 加入者拂入金戻入ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ拂込書ノ金額ノ下部餘白ニ「戻入」ノ文字ヲ記載スルノ外總テ證券ニ依ル拂込ト同様ノ手續ヲ爲スヘシ但シ證書亡失シタルモノ及毀損汚斑シテ不判明トナリタルモノハ別ニ證書ニ表示セル事項ヲ記載シタル戻入請求書ヲ拂込書ニ添屬スヘシ  
拂出金ノ戻入ハ之ヲ拂込ト看做シ取扱フ

#### 第五節 局待拂

第六十一條 統監府通信管理局ニ屬スル加入者ハ京城郵便局ニ於テ郵便貯金局ニ屬スル加入者ハ東京郵便局ニ於テ又同大阪郵便貯金支局ニ屬スル加入者ハ大阪郵便局ニ於テ指定受取人ヲシテ即時現金ノ拂渡ヲ受ケシムヘキ局待拂出書ヲ振出スコトヲ得

第六十二條 加入者局待拂出書ヲ振出サムトスルトキハ局待拂出書用紙ニ相當事項ヲ記載署名捺印シ且金額ノ變造ヲ豫防スル爲拂出書用紙ニ設備セル數字ニ依リ拂出金額ノ圓位以上ヲ再示シ直接之ヲ受取人ニ交付スヘシ

第六十三條 局待拂出書ニ對スル現金ヲ受領セムトスル者ハ拂出書ノ裏面ニ署名捺印シ之ヲ指定郵便局ニ差出スヘシ

局待拂出書ニ對シテハ指定郵便局ニ於テ振出加入者ノ氏名印影及時金高等ヲ調査シタル上受取人ニ即時現金ノ交付ヲ爲ス

第六十四條 局待拂出書ニシテ其ノ振出ノ日附ヨリ起算シ七日間ヲ經過シタルモノハ郵便局ニ於テ之ヲ受理セス

#### 第四章 異動變更

第六十五條 本章ノ規定ニ依リ加入者ヨリ差出スヘキ各種ノ異動變更ニ關スル届書ニハ口座番號ヲ附記シ署

名捺印シ且關係人アルトキハ之ニ連署スヘシ

關係人死亡又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ連署スルト能ハサルトキハ戶籍ノ謄本若ハ抄本ヲ添附シ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ其ノ事實ヲ證明スヘシ

第六十六條 加入者又ハ其ノ他ノ關係人氏名ヲ變更シタルトキハ加入者ニ於テ其ノ届書ニ氏名變更ノ事實ヲ證明スヘキ戶籍ノ謄本又ハ抄本ヲ添附シ之ヲ所屬ノ口座所管廳ニ差出スヘシ

第六十七條 加入者法人ナル場合ニ於テ其ノ名稱ヲ變更シタルトキハ其ノ届書ニ法人登記ノ謄本若ハ抄本ヲ添附シ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ變更ノ事實ヲ證明シ之ヲ所屬ノ口座所管廳ニ差出スヘシ

第六十八條 加入者肩書、別名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ其ノ旨ヲ所屬ノ口座所管廳ニ届出ツヘシ

第六十九條 加入者其ノ代表者、參加署名人名若ハ代理署名人名ヲ變更シ又ハ新ニ參加署名人名若ハ代理署名人名ヲ設ケタルトキハ其ノ事由ヲ記載シ所屬ノ口座所管廳ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ口座所管廳ニ於テ印鑑票用紙ヲ請求人ニ送付ス請求人前項印鑑票用紙ノ送付ヲ受ケタルトキハ第十六條ノ例ニ依リ新ニ印鑑票ヲ調製シ差出スヘシ

第七十條 加入者參加署名人名又ハ代理署名人名ヲ廢シタルトキハ其ノ届書ヲ所屬ノ口座所管廳ニ差出スヘシ

第七十一條 加入者又ハ其ノ他ノ關係人印章ヲ改メムトスルトキハ印鑑票用紙ノ交付ヲ所屬ノ口座所管廳ニ請求スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ請求書ヲ郵便局所ニ差出シ且拂出書用紙又ハ最近ニ送付ヲ受ケタル受拂通知票ヲ呈示シ正當加入者タルコトヲ證明スヘシ

第六十九條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十二條 郵便振替貯金ハ以下數條ノ規定ニ從ヒ之ヲ讓渡スコトヲ得

第七十三條 郵便振替貯金ノ讓渡ハ口座所管廳ニ於テ當該口座ノ名義ヲ書替ヘタル時ヨリ其ノ效力ヲ生ス

第七十四條 郵便振替貯金ノ讓受人ハ當該口座ニ對スル未納料金を納付其ノ他讓渡人ノ通信官署ニ對スル一切ノ義務ヲ承繼スルコトヲ要ス



第七十五條 郵便振替貯金ヲ讓渡サムトスルトキハ加入者ニ於テ讓受人ノ連署シタル振替貯金讓渡請求書ヲ作製シ所屬ノ口座所管廳ニ差出スヘシ

第七十六條 口座所管廳ニ於テ前條ノ請求ヲ承認シタルトキハ料金一圓ヲ徵收シタル上當該口座ノ名義ヲ書換ヘ其ノ旨ヲ前加入者及讓受人ニ通知シ且讓受人ニ對シテハ印鑑票用紙ヲ送付ス

讓受人前項印鑑票用紙ノ送付ヲ受ケタルトキハ速ニ第十六條ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十七條 相續ニ依リ振替貯金ヲ承繼シタル者ハ速ニ口座ノ名義書換ヲ所屬ノ口座所管廳ニ請求スヘシ

第七十八條 相續人口座ノ名義書換ヲ請求セムトスルトキハ其ノ請求書ニ相續ノ事實ヲ證明スヘキ戸籍ノ謄本又ハ抄本ヲ添ヘ之ヲ所屬ノ口座所管廳ニ差出スヘシ但シ被相續人現ニ生存スル場合又ハ他ニ同順位ノ相續人アル場合ニ於テハ被相續人又ハ同順位ノ相續人請求書ニ連署スヘシ

前項ノ場合ニ於テ郵便局所ノ承認スル保證人ヲ立ツルトキハ戸籍ニ依ル證明又ハ關係人ノ連署ヲ省略セシムルコトアルヘシ

第七十九條 口座所管廳ニ於テ相續ニ依リ口座ノ名義ヲ書換ヘタルトキハ其ノ旨ヲ相續人ニ通知シ且印鑑票用紙ヲ送付ス

相續人前項印鑑票用紙ノ送付ヲ受ケタルトキハ速ニ第十六條ノ手續ヲ爲スヘシ

第五節 脱退及除名

第八十條 加入者振替貯金ヨリ脱退セムトスルトキハ脱退請求書ヲ所屬ノ口座所管廳ニ差出スヘシ

加入者前項ノ請求ヲ爲シタル後ハ貯金ノ振替、現金拂ノ請求及局待拂出書ノ振出ヲ爲スコトヲ得ス

第八十一條 口座所管廳ニ於テ加入者ヨリ脱退ノ請求ヲ受ケタルトキハ當該口座ヲ決算シ基本預金及貯金殘高ニ對シテハ振替貯金拂出證書ヲ發行シ之ヲ請求人ニ送達ス

前項貯金殘額一圓以上ナルトキハ第二十八條第二項ノ割合ニ依ル料金ヲ徵收ス但シ其ノ殘額千圓ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ對シ五百圓迄毎ニ金十五錢ヲ加徴ス

(附錄雛形)

本令ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

替 振

票 查 監		局 所	
名 拂 込	一 金	番 口 座	番 號 印
名 氏		番 號	番 號 印
		受 付 局 所	受 付 番 號
附 印	應 日	所 管	口 座

書 込 拂

第十八輯 通信 第三章 郵便貯金法

※印を附しある部は拂込人に於て記載せらるへし

票 知 通 込 拂			
名 所 人 拂	※ 一 金	名 者 加	番 口
氏 住 込		氏 入	座 座
		※	※
		所 局 付 受	日 日
		所 印	
		應 口	
		日 座	
		附 所	
		印 管	

局理管信通府監統

九九九

金 貯

※印を附しある部は拂込人に於て記載せらるへし

票 込 拂			
名 所 人 拂	※ 一 金	名 者 加	番 口
氏 住 込		氏 入	座 座
		※	※
		所 局 付 受	日 日
		所 印	
		應 口	
		日 座	
		附 所	
		印 管	

局理管信通府監統

九九八

受領票			
番口 座號	加入 者氏名	一金	拂込 人氏名
受日	付附		
	局印		
			殿

振第七號

用紙 西洋紙 縦五寸三分 横一尺一寸  
 寸法 監查票、拂込票及拂込通知票ハ縦四寸三分横二寸四分  
 (内法)受領票ハ縦四寸三分横二寸(内法)  
 印刷 色 空色又ハ黒色

振替貯金拂込通知票裏面

通 信 文 記 帳 欄

●振替貯金事務ニ關スル郵便物宛名記載方

四十二年十二月  
 統告第百二十六號

明治四十三年一月一日ヨリ統監府通信管理局ニ郵便振替貯金事務開始ニ付該事務ニ關シ同局ニ宛テ差出ス郵

第十八輯 通信 第三章 郵便貯金法

便物ニハ其ノ宛名ヲ「韓國京城韓國振替貯金部」ト記載スヘシ  
統監府通信管理局ヨリ郵便振替貯金事務ニ關シ發スル書類ニハ其ノ名ヲ「韓國振替貯金部」ト略記スルコトアルヘシ

10011

### ●郵便貯金ノ局待拂取扱局

四十一年九月  
統告第四百十八號

明治四十一年十月一日以降左記郵便局ヲシテ郵便貯金規則ニ依ル郵便貯金ノ局待拂ヲ取扱ハシム

局名 光化門郵便局

位置 京畿道京城鐵道二丁目

(参照)

●三十九年統監府令第一號ニ依リ依據スル逓信省令及告示ノ重モナルモノ

郵便貯金規則(三八、逓令三六)

戰功賜金ニ係ル公債證書保管料金免除(三九、逓令二〇)

郵便貯金ニ預入シ得ル證券ノ種別(三八、逓告二三九)

郵便官署ニ於テ購入及保管スヘキ證券ノ種類(三八、逓告三八八)

證券ノ購入保管及賣却料金(四一、逓告六六三)

大阪支所郵便振替貯金事務開始ニ付口座番號ニ冠字(四一、逓告二二〇六)

## 第四章 電信電話

### ●電信法

三十三年三月  
法律第五十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル電信法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

電信法

第一條 電信及電話ハ政府之ヲ管掌ス

第二條 左ニ掲クル電信又ハ電話ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ私設スルコトヲ得

一 一邸宅内若ハ一構内ニ於テ専用ニ供スル爲施設スルモノ

二 鐵道業其ノ他電信電話ノ専用ヲ必要トスル事業ノ爲施設スルモノ

三 公共團體ノ事務執行ノ爲一市區町村内若ハ鄰接市區町村間ニ於テ公署相互間又ハ一郡市區内ニ於テ公署ト第一次監督官廳トノ間ニ施設スルモノ

四 電報送受ノ目的ヲ以テ一人ノ専用ニ供スル爲電信官署トノ間ニ施設スルモノ

五 一市區町村内若ハ鄰接市區町村間ニ於テ又ハ電信電話ノ連絡ナク且第四號ニ依ルヲ不適當トスル市區町村間ニ於テ一人又ハ一營業ノ専用ニ供スル爲施設スルモノ

第三條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ニ依リ施設シタル電信又ハ電話ヲ公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ吏員ヲ派遣シテ其ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條 主務大臣ハ公安ノ爲必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ電信又ハ電話ニ依ル通信ヲ停止若ハ制限スルコトヲ得

第五條 電信又ハ電話ニ依ル通信ニシテ公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ擾亂スルモノト認ムルトキハ主務大臣ノ指定シタル電信官署又ハ電話官署ニ於テ之ヲ停止スルコトヲ得

第六條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用車馬等ハ道路ニ障礙アリテ通行シ難キ場合ニ於テテ

墻壁又ハ欄柵ナキ宅地田畑其ノ他ノ場所ヲ通行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ被害者ノ請求ニ依リ

其ノ損害ノ賠償ヲ爲スヘシ

第七條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用舟車馬等事故ニ遭遇シタル場合ニ於テ電信又ハ電話ノ工夫配達人若ハ吏員ヨリ助力ヲ求メラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得此ノ場合ニ

於テハ政府ハ助力者ノ請求ニ因リ相當ノ報酬ヲ爲スヘシ

第十八輯 通信 第四章 電信電話

10011

第八條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用舟車馬等ニ對シテハ渡津、運河、道路、橋梁其ノ他ノ場所ニ於ケル通行錢ヲ請求スルコトヲ得ス

前項ノ工夫及配達人ハ何時ニテモ渡津ノ出船ヲ求ムルコトヲ得

第九條 政府ハ電信又ハ電話ノ用ニ供スル爲鐵道用地及停車場建物ノ一部ヲ使用シ必要アルトキハ建物ノ建築又ハ改築ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ土地建物ノ使用料及建築改築ノ費用ハ請求ニ因リ政府之ヲ支給ス

第十條 政府カ鐵道用地内ニ電信線又ハ電話線ヲ施設シタルトキハ使用料ヲ支給セス

第十一條 電信若ハ電話專用ノ物件又ハ現ニ其ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

前項專用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受クルコトナシ

第十二條 電信又ハ電話取扱ニ關シ電信官署又ハ電話官署ニ對シテ無能力者ノ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第十三條 電報ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ宛所ニ配達ス

第十四條 電報ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限リ發行人ノ請求ニ因リ其ノ送達ヲ停止スルコトヲ得

第十五條 宛所ニ配達シ又ハ受信人ニ交付シ得サル電報ハ之ヲ公示ス其ノ公示ノ日ヨリ三十日間ニ交付ノ請求ナキトキハ之ヲ棄却ス

第十六條 電信官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ發行人ニ對シ其ノ電報ニ用キタル祕辭隱語ノ説明ヲ求ムルコトヲ得發行人若シ其ノ説明ヲ拒ミタルトキハ其ノ電報ノ取扱ヲ拒絕ス

第十七條 電信又ハ電話ニ關スル料金及電信又ハ電話ニ依ル通信ノ取扱ニ必要ナル制限ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十八條 電信又ハ電話ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ還付セス

第十九條 發行人ニ於テ前納スヘキ電信ニ關スル料金ニ不足アルトキハ受信人ヨリ其ノ不足額ノ二倍ノ料金を徴收ス

第二十條 電信又ハ電話ニ關スル料金納付ノ義務ハ其ノ納付スヘキ日ヨリ六箇月内ニ納付ノ告知ヲ受ケザルニ依リテ消滅ス

第二十一條 電信又ハ電話ニ關スル料金ノ不納金額ハ電信官署又ハ電話官署ニ於テ國稅滯納處分ノ例ニ依リテ之ヲ徴收ス

前項ノ不納金額ニ付電信官署又ハ電話官署ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第二十二條 電信又ハ電話ニ依ル通信ニシテ電信、電話及郵便、郵便爲替、郵便貯金ノ事務又ハ氣象報告ニ關スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ無料ト爲スコトヲ得

第二十三條 電信又ハ電話ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

第二十四條 電信又ハ電話ノ取扱ニ關シテハ政府ハ損害賠償ノ責ニ任セス

第二十五條 本法ニ依ル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ハ主務大臣ノ指定シタル電信官署又ハ電話官署ニ對シ其ノ事實アリタル日ヨリ三箇月間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第二十六條 電信官署若ハ電話官署ノ賠償又ハ報酬ニ關スル決定ニ對シ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十七條 權利ナクシテ電信若ハ電話ヲ施設シタル者又ハ權利ヲ失ヒタル後主務官署ノ指定シタル期間内ニ私設ノ電信若ハ電話ヲ撤去セザル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ電信線又ハ電話線及電信又ハ電話ノ機器ヲ沒收ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ電信又ハ電話ヲ他人ノ用ニ供シ因テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徴ス

第二十八條 第三條第一項ニ依ル場合ヲ除クノ外私設ノ電信若ハ電話ヲ他人ノ用ニ供シタル者又ハ其ノ施設

者ニアラスシテ之ヲ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
前項ノ場合ニ於テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徴ス

第二十九條 第三條第一項ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ電信若ハ電話ノ供用ヲ拒ミ又ハ第九條第一項ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ用地、建物ノ使用ヲ拒ミ若ハ建物ノ建築改築ヲ爲ササル者ハ五百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第六條ノ場合ニ於テ通行ヲ拒ミ又ハ第七條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ助力ヲ拒ミ又ハ第八條ノ場合ニ於テ通行錢ヲ強要シ若ハ正當ノ理由ナクシテ渡津ノ出船ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處ス

第三十一條 電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル通信ノ祕密ヲ侵シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

電信又ハ電話ノ事務ニ従事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ  
本條ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十二條 不正ノ手段ヲ以テ電信又ハ電話ニ關スル料金を免レ又ハ免レシタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

電信又ハ電話ノ事務ニ従事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ二等ヲ加フ  
第三十三條 自己若ハ他人ニ利益ヲ與ヘ又ハ他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ虛偽ノ電報ヲ發シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ場合ニ於テ電信爲替ニ要スベキ電報ニ係ルトキハ輕懲役ニ處ス  
電信事務ニ従事スル者前二項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第三十四條 電信又ハ電話ノ事務ニ従事スル者電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル電信又ハ電話ノ用紙ニ貼用シタル郵便切手ヲ剝脱シタルトキハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ未タ消印ヲ爲ササルモノニ

關シテハ刑法竊盜ノ罪ニ照シテ處斷ス

第三十五條 電信官署ノ取扱中ニ係ル電報ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、毀損、隱匿若ハ放棄シタル者又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シ若ハ情ヲ知リテ之ヲ受取リタル者又ハ其ノ傳送配達ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

電信事務ニ従事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ  
第三十六條 電信若ハ電話ノ事務ニ従事スル者正當ノ事由ナクシテ其ノ通信ノ取扱ヲ拒絕シ又ハ其ノ傳送ヲ遅延セシメタルトキハ四十圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 電信線又ハ電話線其ノ他電信又ハ電話ノ機器建造物ヲ毀損シ若ハ通信ヲ障碍シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

過失ニ因リ通信ヲ障碍シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 電信線若ハ電話線ノ建築修理又ハ線路ノ巡視測量ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十九條 電信、電話ノ線路若ハ其ノ支持物ノ物品ヲ懸ケ若ハ擲キ又ハ之ニ動物若ハ舟筏ヲ繫キ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ科料ニ處ス

電信又ハ電話線路ノ測量標ヲ毀棄汚穢シタル者亦同シ  
第四十條 主務官署ノ指定シタル水底電信線路若ハ水底電話線路ノ區域内ニ於テ船舶ヲ繫留シ又ハ漁業採藻ヲ爲シ若ハ土砂ヲ掘鑿シ又ハ水底電信線若ハ水底電話線ノ號標ニ舟筏ヲ繫キ又ハ其ノ號標ヲ毀棄シタル者ハ五百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

水底電信線若ハ水底電話線ノ布設若ハ修理ノ爲其ノ位置ヲ示スヘキ浮標又ハ其ノ布設若ハ修理ニ従事スル船舶ヨリ主務官署ノ指定シタル距離以内ニ於テ前項ノ所爲ヲ爲シ若ハ航行シタル者亦同シ

第四十二條 第三十二條ヲ除クノ外前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪

ノ例ニ照シテ處斷ス

一〇〇八

第四十二條 法人ノ業務ニ關シ其ノ代表者又ハ雇人其ノ他ノ從業者前數條ノ罪ヲ犯シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス但シ罰金科料以外ノ刑ニ處スヘキ場合ニ於テハ法人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以内科料ニ關シテハ十日以内ニ之ヲ納完セサルトキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其ノ執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力アルモノトス

前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第四十三條 公衆通信又ハ第三條第一項ニ依リ現ニ軍事通信ノ用ニ供スル私設ノ電信又ハ電話ニ關シテハ第九條ヲ除クノ外本法中政府ノ施設ニ係ル電信又ハ電話ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十四條 電信又ハ電話ニ非スト雖通報信號ヲ爲スモノニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第四十五條 帝國外國間ニ於ケル電信ニ關シ別ニ法令條約又ハ特許ノ條款ニ明文アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

#### 附則

第四十六條 本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

電信條例ハ之ヲ廢止ス

第四十七條 本法施行前電信條例ニ依リ電信又ハ電話私設ノ許可ヲ得タル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ更ニ許可ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

### ●電信線電話線建設條例

#### ○電信線電話線建設條例

二十三年  
法律第五十八號

第一條 遞信省ニ於テ公衆通信ノ用ニ供スル電信線電話線ヲ建設スル爲民有ノ土地又ハ營造物ノ使用ヲ要スルトキハ所有者及其他ノ權利者之ヲ拒ムコトヲ得ス

官有ノ土地又ハ營造物ハ其所管應ニ通知シテ之ヲ使用スルコトヲ得

第二條 公衆通信ノ用ニ供スル電信線電話線ノ建設ニ從事スル者其建築修理及線路測量ノ爲必要ナルトキハ他人ノ所有地ニ入ルコトヲ得

其邸宅構内ニ入ルヲ要スルトキハ所有者又ハ其他ノ權利者ニ通知スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ主務者タルノ證票ヲ携帶スヘシ

第三條 遞信省ハ公衆通信ノ用ニ供スル電信線電話線ノ建設又ハ通信ニ障礙アル瓦斯支管水道支管下水支管電燈線電力線及私設電信線電話線ヲ所有者又ハ其他ノ權利者ニ命シテ移轉セシムルコトヲ得

其建設通信ニ障礙アル竹木其他ノ植物ハ已ムヲ得サルモノニ限り之ヲ伐除シ若クハ所有者又ハ其他ノ權利者ニ命シテ之ヲ伐除又ハ移轉セシムルコトヲ得

第四條 遞信省ニ於テ公衆通信ノ用ニ供スル電信線電話線ノ測量ヲ爲シタルトキハ電柱ノ建設ヲ要スル場所ニ測標ヲ設置スルコトヲ得

第五條 公衆通信ノ用ニ供スル電信線電話線ノ移轉スル必要アル者ノ請求ニ由リ遞信省ニ於テ之ヲ許可シタルトキハ其移轉費用ハ請求者之ヲ負擔スルモノトス

第六條 遞信省ニ於テ民有地ニ電信線電話線ノ柱木ヲ建設シタルトキハ一本毎ニ一箇年四錢ノ手當金ヲ給與ス但所有者又ハ其他ノ權利者ニ於テ手當金ヲ望マサルトキハ此限ニアラス

第七條 左ニ掲クルモノハ其要求ニ對シ遞信省之ヲ補償スヘシ  
一 建築修理及線路測量ノ爲生シタル損害

二 瓦斯支管水道支管下水支管電燈線電力線及私設電信線電話線ヲ移轉シタル費用  
三 伐除シタル竹木其他植物ノ代價又ハ移植ノ費用

第八條 第七條ノ補償金額ハ雙方協議之ヲ定メ若シ其議相協ハサルトキハ市町村長(未タ市制町村制ヲ實施セサル地方ハ區戸長)ヲシテ之ヲ評定セシム  
市町村長ノ評定ニ服セサル者ハ其評定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ一箇月以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

●軍用電信法 二十七年六月 法律第五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル軍用電信法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍用電信法

第一條 軍用電信ハ電氣機械ヲ以テ軍事ニ關スル通信ヲ爲スモノトス

第二條 軍用電信ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣之ヲ管理ス

第三條 軍用電信ヲ分チテ左ノ二種トス

一 固定軍用電信

二 遊動軍用電信

第四條 固定軍用電信ハ要塞、衛戍、軍港、要港、「海岸望樓」、監視哨所其ノ他局地ノ防禦ニ必要ナル地點及其ノ各地間通信ノ爲メ之ヲ建設スルモノトス

第五條 遊動軍用電信ハ事變又ハ演習ニ際シ臨時其ノ必要アル各地ニ建設スルモノトス

第六條 軍用電信ハ最密私設ノ電信取扱所ニ連接シ又私設電線ノ柱木ニ添架スルコトヲ得

第七條 固定軍用電信ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ公衆通信ノ用ニ供スルコトヲ得

第八條 「刑法第六十四條及明治十八年第八號布告、電信條例第五十八條乃至第六十三條及第七十一條」ハ之ヲ軍用電信ニ適用ス

第九條 軍用電信ノ事務ニ從事スル者軍用電信ニ關シ「電信條例第五十八條乃至第六十三條」ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ又通信ノ旨趣ヲ漏泄シタルトキハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十條 軍用電信ニ關シ「電信條例第五十八條及第六十二條」ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

●固定軍用電信ヲ公衆通信ニ供用方 三十二年四月 勅令第八十七號

朕固定軍用電信ヲ公衆通信ノ用ニ供スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

固定軍用電信ニ依ル公衆ノ通信取扱ニ關スル規則ハ遞信大臣之ヲ定ム

●電信取扱所電報取扱時間 四十一年九月 統告第四百十五號

明治四十一年九月二十一日ヨリ電信取扱所ノ電報取扱時間ハ特ニ定ムルモノノ外午前六時ヨリ午後十時マテトス但シ至急電報ニ限リ時間外ト雖之ヲ取扱フ

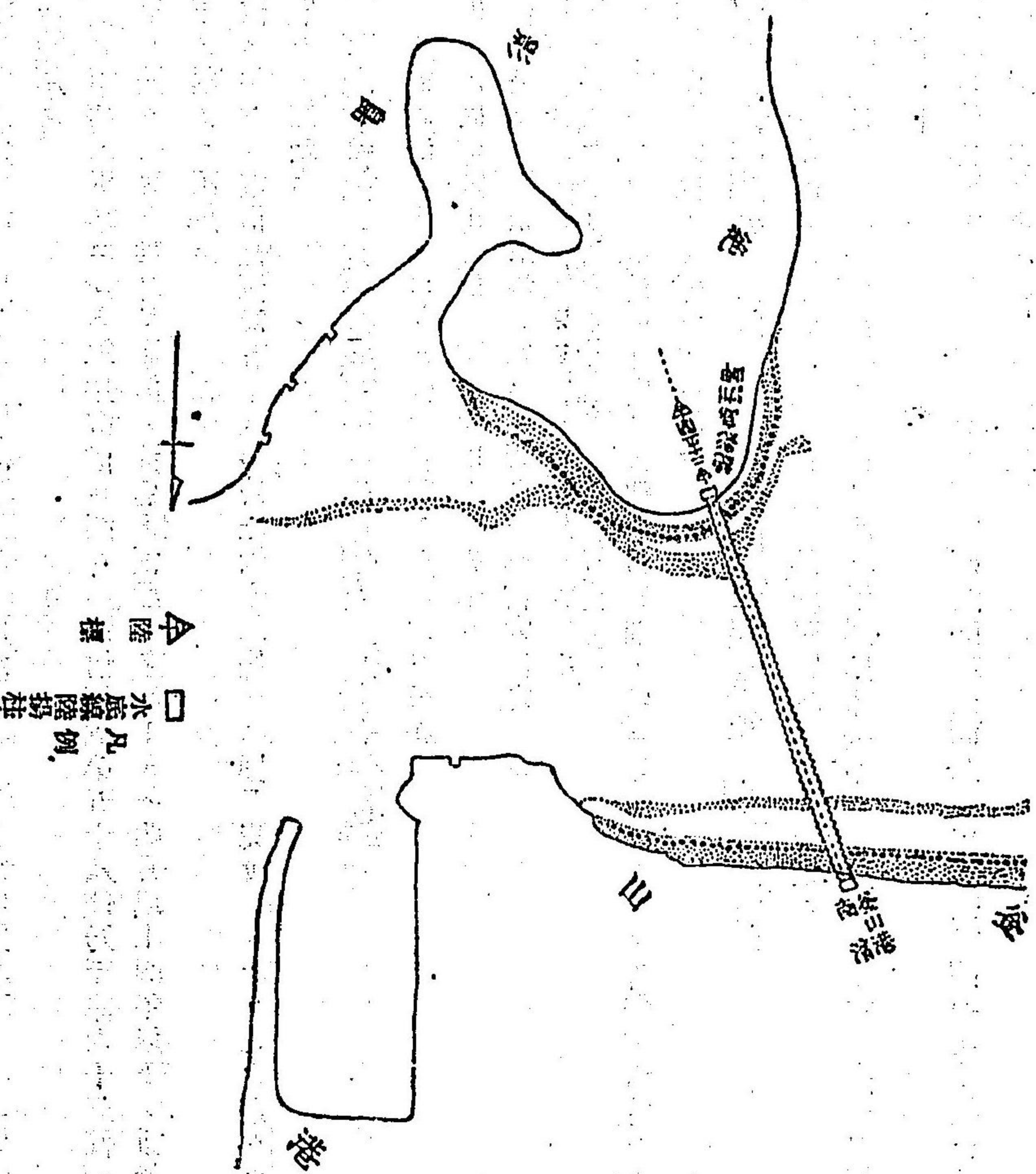
●釜山絶影島間外一箇所布設水底電線區域 四十二年三月 統告第二十二號

釜山絶影島間外一箇所へ左圖ノ通水底電線ヲ布設シ該線路區域ヲ左ノ通定ム

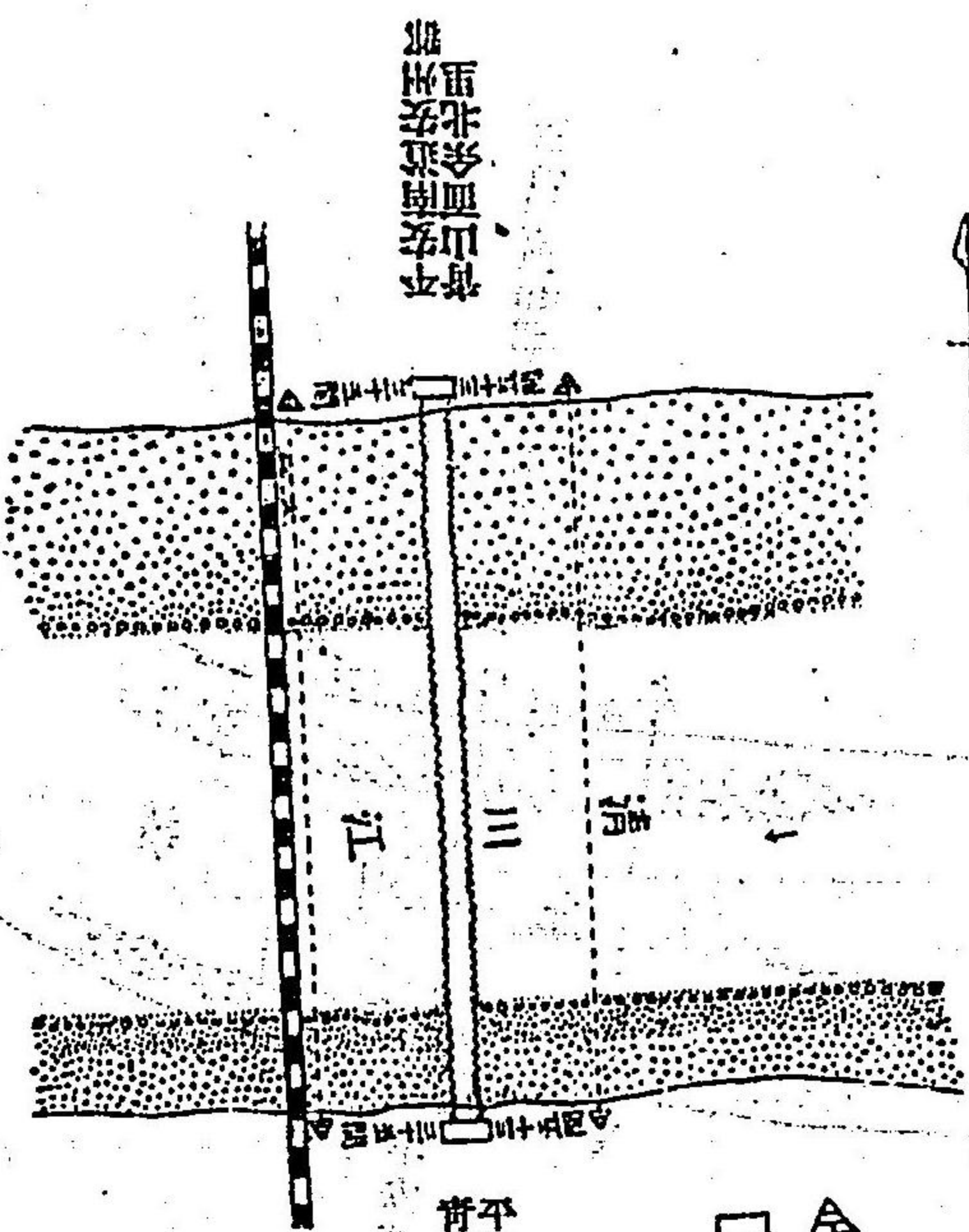
一 韓國釜山港南濱陸揚柱ヨリ同絶影島州岬陸揚柱間ハ絶影島陸揚地ニ建設セル二本ノ陸標ヲ以テ指示スル直線ノ左右各三十間以内

一 韓國平安南道安州郡青山面元一里陸揚柱ヨリ同國同道同郡面余北里陸揚柱間ハ兩陸揚柱ノ左右ニ建設セル各二本ノ陸標ヲ以テ指示スル二條ノ直線以内





1011



△ 陸標  
□ 水底線陸揚柱

平安南道安州郡  
青山面元一里

● 清川江外二箇所布設水底電線區域

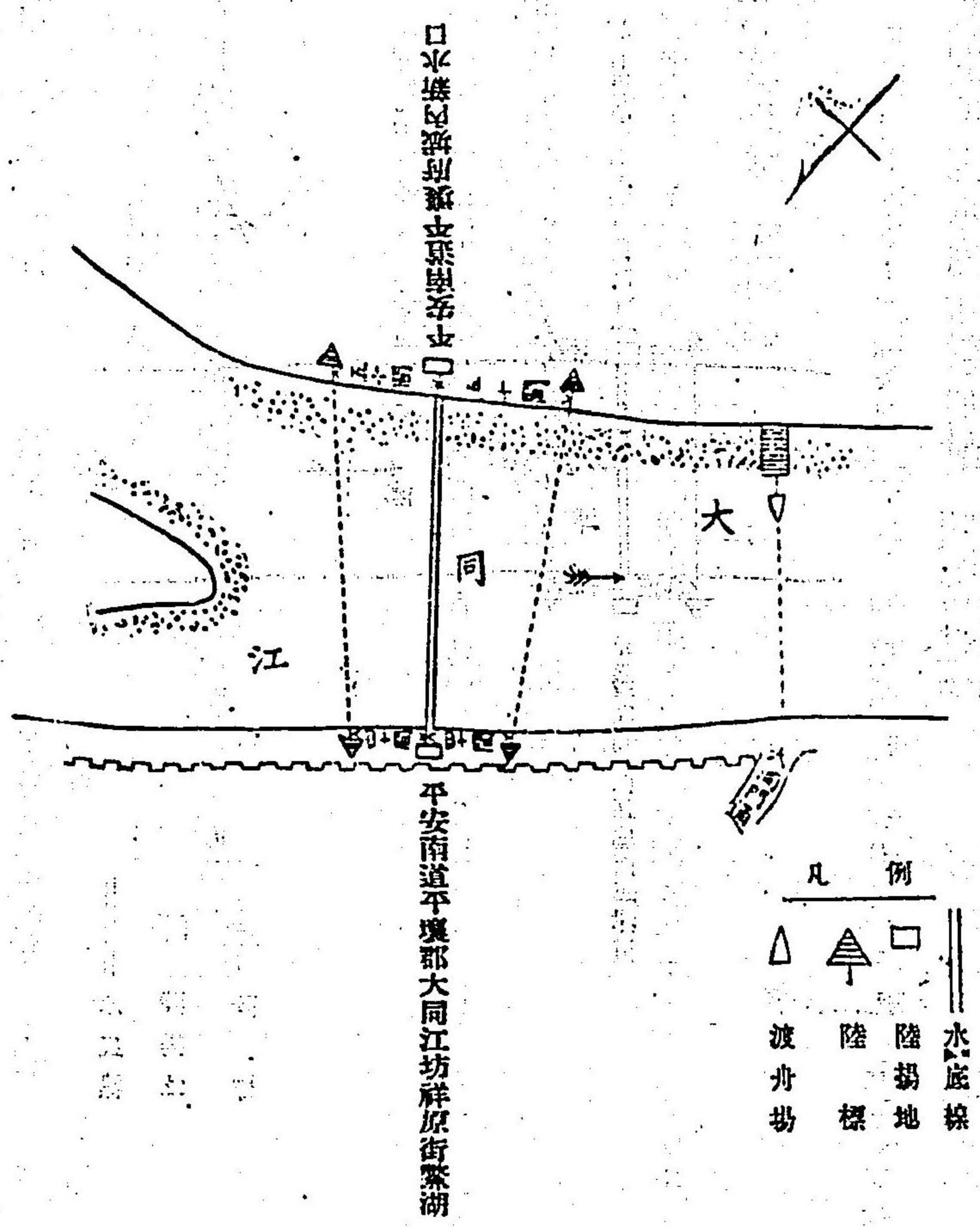
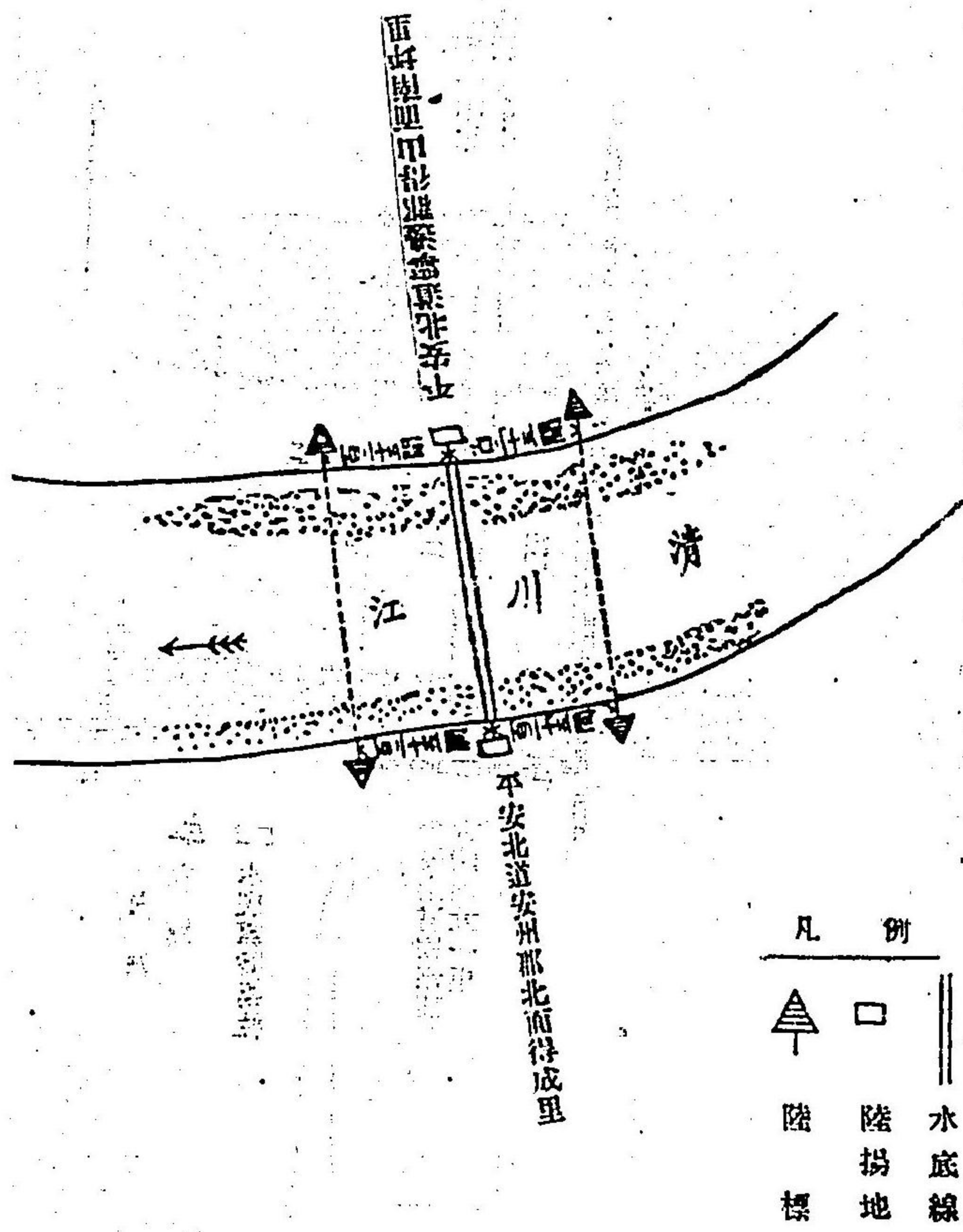
四十年三月  
統告第四十三號

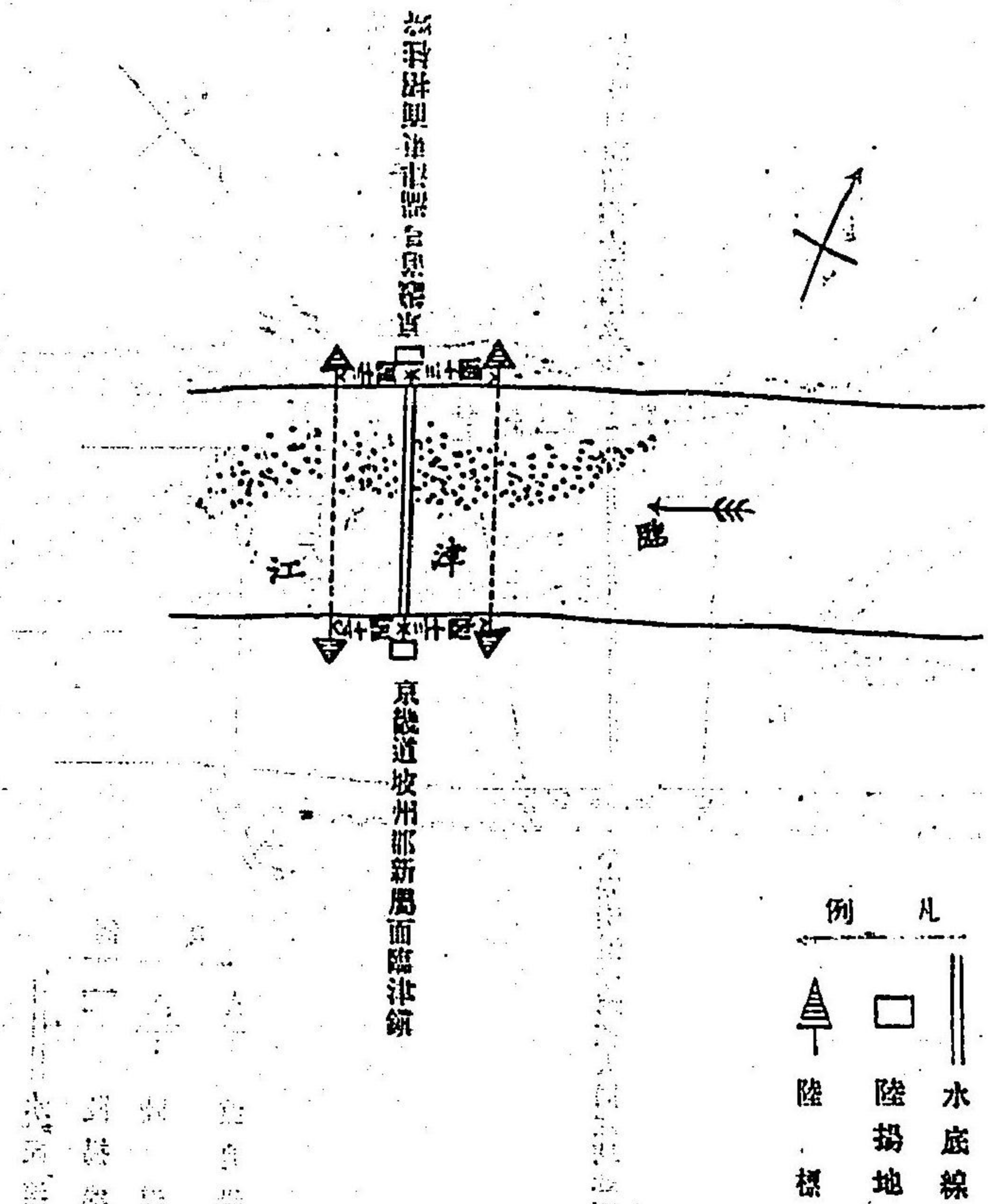
清川江外二箇所布設水底電線區域左ノ通定ム  
一 韓國平安南道安州郡北面得成里ト平安北道寧邊郡得山西南坪里トノ間清川江布設水底電線ハ左圖ノ通陸揚  
柱ノ左右ニ建設セル各二本ノ陸標ヲ以テ指示スルニ條ノ直線以內

一 韓國平安南道平壤府城內新水口ト同道平壤郡大同行坊祥原街繁湖トノ間大同江布設水底電線ハ左圖ノ通陸揚柱ノ揚柱ノ左右ニ建設セル各二本ノ陸標ヲ以テ指示スル二條ノ直線以內

一 韓國京畿道坡州郡新屬面臨津鎮ト同道長湍郡津東面東柱院トノ間臨津江布設水底電線ハ左圖ノ通陸揚柱ノ左右ニ建設セル各二本ノ陸標ヲ以テ指示セル二條ノ直線以內

一〇二四





●新義州安東縣間布設水底電線區域 四十年四月 統計第六十一號

韓國平安北道義州郡光城面新義州下清國安東縣間鴨綠江布設水底電線區域ハ陸揚柱ノ左右ニ建設セラル陸標ヨリ中流ニ至ル區間トス

●韓國國內新聞電報料金 四十年二月 統計第六號

明治三十九年十二月遞信省令第六十二號新聞電報規則第二條第一項ノ料金ハ韓國國內ニ在リテハ五十字又ハ其ノ未滿毎ニ金三十錢トス

●新聞電報規則ヲ韓滿間發著電報ニ準用ス 四十年三月 統計第十號

明治三十九年十二月遞信省令第六十一號新聞電報規則ハ韓滿間發著電報ニ之ヲ準用ス但シ同規則第二條第一項ノ料金ハ明治四十年二月統監府令第六號ノ料金ニ同シ

●料金受信人拂外國新聞電報取扱局所 四十二年八月 統計第七十三號

料金受信人拂外國新聞電報ヲ取扱フ郵便局所名左ノ如シ

局所名	位	局所名	位
京城郵便局	京畿道京城本町一丁目	仁川郵便局	京畿道仁川仲町一丁目
光化門郵便局	京畿道京城鐘路通二丁目	釜山郵便局	慶尙南道釜山西町二丁目
西大門郵便局	京畿道京城竹添町一丁目	平壤郵便局	平安南道平壤郡隆德部練光亭洞

第十八輯 通信 第四章 電信電話

一〇一七

元山郵便局 咸鏡南道元山本町一丁目  
清津郵便局 咸鏡北道清津敷島町三丁目

城津郵便局

咸鏡北道城津府城津各國居留地

一〇一八

### ●電報料金後納規則

三十九年十月  
統令第四十號

電報料金後納規則左ノ通定ム

#### 電報料金後納規則

第一條 官廳ハ其ノ發出スル電報ヲ郵便局ニ頓信スル場合ニ限り其ノ電報料金ヲ後納ト爲スコトヲ得

第二條 電報料金後納ノ取扱ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ所在地ノ郵便局ニ差出シ電報料金後納帳ノ交付ヲ受クヘシ

一 電報料金後納取扱開始月日及期間

二 電報料金後納ノ取扱ヲ爲スヘキ電報ノ區別(内國電報、外國電報)

第三條 料金後納電報ノ電報料金ハ當月分ヲ翌月二十日迄ニ其ノ取扱ヲ受クル郵便局ニ通貨ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第四條 料金後納電報ノ電報料金ハ總テ電報料金後納帳ニ依リ之ヲ精算ス

第五條 官廳以外ノ者ニシテ電報料金後納ノ取扱ヲ受ケムトスルトキハ第二條ノ左記事項及其ノ取扱ヲ要スル理由ヲ具シ其ノ取扱ヲ受ケムトスル所在地ノ郵便局ヲ經テ統監府通信管理局長ノ認可ヲ請クヘシ

第六條 前條ニ依リ其ノ認可ヲ得タル者ハ電報料金後納保證金ヲ納付スヘシ該保證金ノ金額及其ノ納付方ハ統監府通信管理局長ノ定ムル所ニ依ル

第七條 料金後納電報ノ電報料金ヲ期日迄ニ納付セザルトキハ其ノ料金ヲ納付ヲ爲ス迄料金後納電報ノ取扱ヲ爲ササルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ官廳以外ノ者ナルトキハ料金後納取扱ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ但シ其ノ納付スヘキ

料金ハ電報料金後納保證金ヲ以テ精算シ若シ不足アルトキハ其ノ不足額ハ之ヲ追徴ス

#### 附 則

第八條 本規則ハ明治三十九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九條 從來電報料金後納ノ取扱ヲ受クル者ニシテ本規則實施後モ引續キ其ノ取扱ヲ受ケムトスルトキハ更ニ第二條ノ事項ヲ書面ヲ以テ申出ツヘシ

### ●新聞電報料金豫納及後納規則ハ韓國ニ準用セス

四十年五月  
統令第二十二號

明治四十年五月五號逓信省令第二十號新聞電報料金豫納及後納規則ハ韓國ニ於テ之ヲ準用セス

### ●船配達料過剩額還付方

四十一年八月  
統令第三十一號

電報發信人ノ最初納付シタル船配達料額ニシテ實際配達ヲ試ミタル局所ニ於ケル規定配達料額ニ照シ過剩アルトキハ其ノ過剩料額ハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ納付シタルモノハ郵便切手、通貨ヲ以テ納付シタルモノハ通貨ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

本令ハ明治四十一年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

#### (參 照)

●三十九年統監府令第一號ニ依リ依據スヘキ逓信省令及告示ノ重モナルモノ

外國新聞電報規則(三〇逓令一八)

固定軍用線公衆通信取扱規則(三二逓令一八)

本邦韓國間電報取扱規則(三三逓令八)

電報規則(三三逓令四六)

略號登記料配達先登記料局渡料ノ金額及其納付手續(三三逓令四七)

海外電報ノ加入電話又ハ電信局連接ノ電信電話ニテ託送スルヲ得(三三逓令六二)

第十八輯 通信 第四章 電信電話

- 臺灣電報ノ別使配送料(三三、遞令六三)
- 電信法ヲ無線電信ニ準用(三三、遞令七七)
- 私設電信規則(三三、遞令四八)
- 私設電信ニ依ル公衆通信取扱規則(三三、遞令五〇)
- 官廳用電信電話規程(三三、遞令五一)
- 外國新聞電報轉送規則(三四、遞令五四)
- 臺灣電報ノ船舶配送料(三六、遞令三)
- 電報取扱制限ヲ局所前ニ揭示ノ件(三六、遞令一一)
- 電報取扱時間及時問外取扱規則(三六、遞令五三)
- 外國電報料金納付方(三七、遞令四七)
- 韓國內電報規則(三八、遞令四〇)
- 鐵業特設電話規則(三八、遞令八四)
- 臺灣、樺太、小笠原島電報料金(三九、遞令二三)
- 新聞電報規則(三九、遞令六一)
- 請願電信規則(四〇、遞令二)
- 船舶通報規則(四〇、遞令四四)
- 無線電報規則(四一、遞令一六)
- 外國無線電報規則(四一、遞令二九)
- 通信官署海軍艦船間無線電信ニ關スル件(四一、遞令四六)
- 氣象通知電報規則(四二、遞令七)
- 地方廳施設ノ官廳用電話引渡ニ關スル規程準用ノ件(四二、遞令二五)
- 外國電報規則(四二、遞令二六)
- 韓國芝罘局電報ニ關スル件(四二、遞令三〇)
- 同上新聞電報ニ關スル件(四二、遞令三一)
- 私設電信電話線其他電氣工事委託手續(四三、遞令八七)

- 海外電報料金端數徵收方(二六、遞令一四一)
- 英領西濠州萬國電信條約ニ加入(二七、遞令一一二)
- 「ハリファキス、エントネルムダス」海底線會社電信條約ニ加入(二八、遞令五四)
- 葡萄牙諸殖民地及新加列士尼亞萬國電信條約ニ加入(二九、遞令二二九)
- 英領殖民地公斯蘭萬國電信條約ニ加入(二九、遞令一三三)
- 日韓間漢語電報ハ亞刺比亞數字ヲ以テ記載シタルモノニ限ルノ件(二九、遞令二八五)
- 錫蘭萬國電信條約ニ加入(三〇、遞令一七〇)
- 獨逸海底電信會社萬國電信條約ニ加入(三〇、遞令一七二)
- 海外電報ニシテ臺灣ヲ經過スルモノハ取扱ハサルノ件(三〇、遞令二二二)
- 有限責任四印度海底線會社萬國電信條約ニ加入(三一、遞令一〇七)
- 淡水ヨリ川石山ニ至ル海底線經由電報取扱方(三一、遞令三二六)
- 加入電話又ハ電話局連接ノ電信電話ニ依ル託送電報發受心得(三三、遞令三四〇)
- 電信法第五條ノ電信官署及電話官署ノ件(三三、遞令三四一)
- 獨逸大西洋電信會社萬國電信條約ニ加入(三三、遞令三九六)
- 西部電信會社萬國電信條約ニ加入(三四、遞令二四〇)
- 英國保護ノ下ニ在ル東亞弗利加及「ユガンダ」萬國電信條約ニ加入ノ件(三四、遞令四三二)
- 「クレント」政府萬國電信條約ニ加入(三五、遞令二〇五)
- 「ツルグエ」共和國萬國電信條約ニ加入(三五、遞令四六四)
- 濠斯太刺利亞萬國電信條約ニ加入(三六、遞令三五)
- 「マダカスカル」萬國電信條約ニ加入(三六、遞令二五三)
- 東方擴張電信會社萬國電信條約ニ加入(三六、遞令二九〇)
- 各國隨意規定事項ニ關スル外國電信主管廳ノ決定書(三七、遞令三九二)
- 謄文電報取扱ノ件(三八、遞令三三六)
- 獨逸和蘭電信會社萬國電信條約ニ加入(三八、遞令四四四)
- 浙江省莫干山局ニ於テ夏期中外國電報取扱ノ件(四〇、遞令四六九)

- 船舶通報事務取扱燈臺名(四〇、通告五九二)
- 「ボリツイ」國萬國電信條約加入(四〇、通告六九三)
- 船舶通報事務取扱燈臺名(四〇、通告八六八)
- 智利共和國萬國電信條約加入(四一、通告二五六)
- 郵便電信發受心得(四一、通告五八二)
- 國際無線電信條約附屬業務規則(四一、通告六三〇)
- 無線電信船舶局ニ於ケル外國貨幣換算割合ノ件(四一、通告六八八)
- 電話通話事務取扱局所ニ於ケル通話及呼出取扱時間(四一、通告七〇七)
- 「エリトレ」萬國電信條約加入(四一、通告八三〇)
- 獨逸國等國際無線電信條約批准ノ件(四二、通告一八八)
- 埃地利洪特利國際無線電信條約批准ノ件(四二、通告二二六)
- 葡萄牙國際無線電信條約批准ノ件(四二、通告四三六)
- 萬國電信條約附屬業務約定規則及國際料金表(四二、通告六〇六)
- 外國電報料金(四二、通告六〇七)
- 外國新聞電報料金(四二、通告六〇八)
- 外國電報別使配送料(四二、通告六一二)
- 外國電報取扱制限(四二、通告六二二)
- 土耳其國國際無線電信條約批准ノ件(四二、通告七〇九)

●電話規則 四十一年九月 改正 四一年 四二年  
 統令第三十七號 統令四九號 一六號

電話規則左ノ通定ム

電話規則

第一條 電話加入區域内ニ在ル者ハ電話交換ニ加入スルコトヲ得其ノ區域ハ別ニ之ヲ定ム  
 前項區域外ニ在ル者ニシテ電話交換ニ加入セムトスル者ハ統監府通信管理局長(以下單ニ通信)ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 電話加入ハ二人以上合同シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 電話交換ニ加入セムトスル者ハ一加入毎ニ加入申込書(第一號)ヲ當該郵便局所ニ差出スヘシ但シ第二條第二項ノ場合ハ加入申込書ト共ニ申請書(第二號)ヲ差出スヘシ

第四條 加入申込者又ハ加入者他人ノ所有ニ係ル家屋ニ電話機ヲ設置セムトスルトキハ其ノ家屋所有者ノ承諾書(第四號)ヲ當該郵便局所ニ差出スヘシ

第五條 加入申込者ハ一申込毎ニ加入登記料ヲ納ムヘシ

第六條 郵便局所ニ於テ電話加入ノ申込ヲ受理シタルトキハ其ノ順序ニ依リ之ヲ原簿ニ登記スヘシ但シ新ニ電話交換業務ヲ開設スル場合ニ於テハ其ノ加入申込受理開始ノ日ヨリ三日間ニ於ケル加入申込ニ對スル登記順序ハ通信管理局長之ヲ定ム第二十四條ニ依リ所屬替ヲ爲シタル加入申込ニ對スル登記順序亦同シ

前項登記順序ハ之ヲ加入申込者ニ通知スヘシ

第七條 電話開通ノ順序ハ加入申込登記ノ順序ニ依ル

第八條 左記各號ノ場合ニ於テハ加入申込登記ノ順序ニ依ラス電話開通ノ順序ヲ繰上クルコトヲ得

一 官廳、公署又ハ公益事業ノ用ニ供スルモノニシテ通信管理局長ニ於テ特急架設ヲ認可シタルモノ

二 工事施行上ノ都合ニ依ルモノ

三 統監府通信管理局(以下單ニ通信)ノ指示スル所ニ從ヒ電話開通ニ必要ナル物件及勞力ヲ政府ニ無償提供シタルモノ

第九條 左記各號ノ場合ニ於テハ加入申込登記ノ順序ニ依ラス電話開通ノ順序ヲ繰下クヘシ但シ通信管理局長ニ於テ電話開通ノ必要ヲ認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 前條第三號ヲ除クノ外一人ニシテ現ニ二箇以上ノ加入申込ヲ有スル場合ニ於ケル一箇以外ノ申込(同一ニ住居スル家族又ハ同居者等ノ名義ヲ以テスル加入申込ハ一名義ヲ以テシタルモノト看做ス)

二 工事施行上ノ順序ニ依リ難キモノ

三 電話開通工事著手前工事施行猶豫ノ請求アリタルモノ

第十條 加入申込者電話開通工事著手後工事施行ノ猶豫ヲ請求シ又ハ電話機設置場所ノ變更ヲ請求シタルトキト雖第七條ノ順序ハ之ヲ變更セズ當該郵便局所ノ指定スル日ヨリ電話開通シタルモノト看做ス但シ通信管理局長ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 電話ヲ開通シタルトキハ當該郵便局所ニ於テ一加入毎ニ其ノ電話番号ヲ定ム但シ一般電話交換ノ取扱ニ依ラス電話線ヲ専用シテ電話通話(以下單ニ專)ヲ爲スモノハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 左記各號ノ場合ニ於テハ電話番号ヲ變更スルコトアルヘシ

一 第二十四條ニ依リ所屬替ヲ爲シタルトキ

二 同一加入區域内ニ於テ電話交換ヲ取扱フ郵便局所ヲ異ニスルニ至リタルトキ

三 工事上ノ必要アルトキ

第十三條 電話加入期間ハ電話開通ノ日ヨリ起算シ滿一箇年トス但シ其ノ期間ノ末日カ第五十一條ニ掲クル一期ノ中途ナルトキハ該期末日迄ノ日數ヲ附加ス

前項ノ加入期間以後ハ毎三箇月ヲ以テ一加入期間トス

第十四條 第八條第一號ニ該當スル者ニシテ加入期間ノ短縮ヲ電話開通前ニ申請スル者アルトキハ通信管理局長ニ於テ特ニ其ノ必要ヲ認ムル者ニ限り前條第一項ノ電話加入期間滿一箇年ヲ六箇月ト爲スコトヲ得

第十五條 加入者當該加入期ノ末日ヨリ十五日前ニ加入取消ノ請求ヲ爲ササルトキハ次期ノ加入ヲ繼續スルモノト看做ス

第十六條 加入者ハ電話使用料ヲ納ムヘシ

第十七條 左記各號ニ該當スル者ハ電話使用料ノ外附加使用料ヲ納ムヘシ但シ第二十四條ニ依リ加入區域外トナリタルトキハ其ノ加入區域外トナリタル日ヨリ一箇年間加入區域外加入ノ附加使用料ハ之ヲ免除ス

一 加入區域外ニ屬スル加入者

二 第十八條ニ依リ長距離電話通話ヲ爲ス加入者

三 第二十五條ニ依リ卓上電話機ヲ設置シ又ハ機械ヲ増設シ若ハ第二十八條ニ依リ電話機ヲ交換線ニ接続シタル加入者

四 他ノ加入區域内ニ在ル郵便局所ニ屬スル加入者ト専用通話ヲ爲ス加入者

第十八條 加入申込者又ハ加入者其ノ使用スル電話機ニ依リ特ニ指定スル長距離電話通話ヲ爲サムトスルトキハ其ノ請求書(第十四號式)ヲ當該郵便局所ニ差出スヘシ

前項ノ請求ヲ取消シ又ハ通話ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ請求書(第十五號式)ヲ當該郵便局所ニ差出スヘシ

第十八條ノ二 加入申込者又ハ加入者四名以内ノ間ニ於テ専用通話ヲ爲サムトスルトキハ當事者ノ連署シタル申請書(第二十號式)ヲ差出シ通信管理局長ノ認可ヲ受クヘシ其ノ加入者ヲ増減セムトスルトキ亦同シ

前項ノ申請ヲ取消シ又ハ専用通話ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ請求書(第二十一號式)ヲ通信管理局ニ差出スヘシ

第十八條ノ三 専用通話ヲ爲ス加入者中加入ヲ取消シ又ハ加入ヨリ除名セラレタル者アルトキハ其ノ他ノ加入者間ノ専用通話ヲ認可シタルモノト看做ス但シ其ノ加入者一名トナリタルトキハ専用通話ハ之ヲ廢止シタルモノト看做ス

第十九條 加入申込者又ハ加入者其ノ申込又ハ加入ヲ取消サムトスルトキハ其ノ請求書(第十號及第十一號式)ヲ當該郵便局所ニ差出スヘシ

第二十條 加入申込者又ハ加入者其ノ名義ヲ變更セムトスルトキハ其ノ請求書ヲ當該郵便局所ニ差出スヘシ但シ他人ノ名義ニ變更セムトスルトキハ當事者ノ連署シタル請求書(第十二號式)ヲ差出シ其ノ承認ヲ受クヘシ若

第十八條ノ二ニ依リ専用通話ノ申請ヲ爲シタル加入申込者又ハ専用通話ヲ爲ス加入者ナルトキハ關係加入申込者又ハ加入者ノ承諾書ヲ添付スヘシ

第二十一條 加入申込者又ハ加入者前條但書ノ請求ヲ爲ストキハ名義書換料ヲ納ムヘシ

第二十二條 第八條第一號ノ認可ヲ受ケタル加入申込者又ハ加入者ノ名義ハ他人ノ名義ニ之ヲ變更スルコト

ヲ得ス但シ通信管理局長ノ認可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 加入申込者又ハ加入者死亡若ハ失踪等ノ場合ニ於テ其ノ相續人又ハ管理人其ノ加入申込又ハ加入ヲ繼承セムトスルトキハ其ノ相續人又ハ管理人タルノ證明書ヲ添ヘ其ノ請求書(第十三號書式)ヲ當該郵便局所ニ差出スヘシ

第二十四條 電話加入區域變更ノ爲加入申込者又ハ加入者ノ位置他局所ノ加入區域内ニ編入セラレタルトキハ所屬替ヲ爲スモノトシ又加入區域外トナリタルトキ其ノ取消ヲ爲ササル者ノ加入申込及加入ハ第一條第二項ニ依リタルモノトシテ其ノ儘之ヲ繼續ス特設電話規則第十六條第二項但書ニ依リ其ノ加入ヲ繼續シタル加入者ノ位置加入區域外トナリタル場合亦同シ

第二十五條 加入申込者又ハ加入者左記各號ノ場合ニ於テハ各其ノ請求書(第六號乃至第九號書式)ヲ當該郵便局所ニ差出スヘシ

一 卓上電話機ヲ設置シ又ハ卓上電話機ヲ普通電話機ニ、普通電話機ヲ卓上電話機ニ若ハ卓上電話機ノ種別ヲ變更セムトスルトキ

二 電話機設置場所同一戸内ニ於テ同一回線中ニ電話機又ハ電鈴ヲ増設シ又ハ之ヲ撤去セムトスルトキ

三 同一邸宅構内ニ在ルニ加入以上ノ電話機ニ共通スル電話機ヲ増設シ又ハ之ヲ撤去セムトスルトキ此ノ場合ニ於テハ該電話機一箇毎ニ電鈴一箇ヲ増設シ又ハ之ヲ撤去スルヲ要ス

第二十六條 加入申込者又ハ加入者電話機附屬物品ノ設置場所ヲ變更又ハ移轉セムトスルトキハ其ノ請求書(第五號書式)ヲ當該郵便局所ニ差出スヘシ但シ加入區域外ニ於テ他ノ邸宅構内ニ又ハ加入區域内ヨリ加入區域外ニ變更又ハ移轉セムトスルトキハ其ノ請求書ト共ニ申請書(第三號書式)ヲ差出シ通信管理局長ノ認可ヲ受クヘシ

第二十七條 加入者前條ノ請求ヲ爲ストキハ機械移轉料ヲ納ムヘシ加入申込者第十條ニ依リ電話機設置場所變更ノ請求ヲ爲ストキ亦同シ

第八條第三號ニ依ル加入者電話機ノ移轉ヲ請求スル場合ニ於テハ前項移轉料ノ外第十三條第一項ノ加入期間内ハ通信管理局ノ指示スル所ニ從ヒ其ノ移轉ニ必要ナル物件及勞力ヲ政府ニ無償提供セシムルコトアルヘシ

第二十八條 加入申込者又ハ加入者其ノ電話機設置場所同一邸宅構内ニ在ル自己ノ施設ニ係ル電話機ヲ交換線ニ接続シ又ハ廢止セムトスルトキハ其ノ請求書(第十六號及第十七號書式)ヲ當該郵便局所ニ差出スヘシ但シ其ノ施設ノ方法、物件及其ノ維持並交換取扱方ニ關シテハ通信管理局長ノ指示スル所ニ從フヘシ

第二十九條 加入申込者又ハ加入者自己ノ電話番號索引ヲ便ナラシメムカ爲別ニ通信管理局長ニ於テ定ムル電話番號表中一定ノ箇所以外ニ名義ヲ掲載セムコトヲ望ムトキハ其ノ請求書(第十八號書式)ヲ當該郵便局所ニ差出スヘシ

前項ノ請求ヲ取消シ又ハ掲載ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ請求書(第十九號書式)ヲ當該郵便局所ニ差出スヘシ

第三十條 前條第一項ノ請求ヲ爲シタル加入者ハ電話番號表掲載料ヲ納ムヘシ

第三十一條 電話開通工事著手ノ際加入申込者ノ所在不明ナルトキ及加入申込者又ハ加入者死亡若ハ失踪等ノ場合ニ於テ相續人又ハ管理人ヨリ何等申出ナキトキハ其ノ加入申込又ハ加入ヲ取消スコトアルヘシ

第八條第三號ノ加入申込者ニシテ電話開通ニ必要ナル物件及勞力ノ無償提供ニ支障ヲ生シタルトキハ其ノ加入申込ハ之ヲ取消スコトアルヘシ

第三十二條 加入者ノ使用スル電話機、附屬物品及電話加入區域内ニ於ケル電話線路ハ第八條第三號ノ場合ノ外通信管理局ニ於テ之ヲ設備ス

第三十三條 加入申込者又ハ加入者ニ於テ自己ノ電話線、電話機、附屬物品ヲ使用セムトスルトキハ通信管理局長ノ認可ヲ受クヘシ又其ノ維持方法ハ通信管理局ノ指示スル所ニ從フヘシ

第三十四條 第一條第二項及第二十六條但書ニ依リ認可ヲ受ケタル者ハ其ノ加入區域外ニ係ル電話線路ヲ、第十八條ノ二第一項ニ依リ認可ヲ受ケタル者ニシテ第十七條第四號ニ該當スルモノハ其ノ郵便局所間ノ電



話線路ヲ通信管理局ノ指示スル所ニ從ヒ建設シ之ヲ同局ニ引渡スヘシ

第三十五條 加入者専用通話ヲ廢止シタル場合通信管理局長ニ於テ必要ト認ムルトキハ一般電話交換ノ取扱ニ依ル通話ノ開始ヲ延期スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ延期中ハ専用通話ヲ爲ス加入者ト看做ス前項ノ場合ニ於テハ當該加入期以後ニ屬スル電話使用料及第五十一條ニ依ル當該料金納付期以後ニ屬スル附加使用料ハ其ノ延期中之ヲ免除ス

第三十六條 他ノ加入區域内ニ在ル郵便局所ニ屬スル加入者トノ通話(專用通話)及電話通話ヲ取扱フ郵便局所(以下單ニ通話)ノ電話機又ハ自動電話機ニ依ル通話ハ每三分時間迄ヲ以テ一通話時トシ他ニ通話請求ナキ場合ノ外ニ通話時ヲ超エテ繼續スルコトヲ得ス其ノ通話順序ハ請求ノ順序ニ依ル但シ通話請求ノ順序ニ依リ接續ヲ爲ス場合ニ於テ之カ通話ヲ爲ササルトキハ其ノ請求ハ消滅スルモノトス

第三十七條 前條ノ通話ニシテ規定ノ通話料ノ二倍ヲ納ムルトキハ至急通話トシテ一般通話請求ニ先立チ通話ヲ爲スコトヲ得

第三十八條 長距離電話通話ハ自動電話機ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三十九條 加入者ハ其ノ電話機ノ不良又ハ不通其ノ他障碍ノ場合ニ於テ自動電話機又ハ通話取扱局所ノ電話機ニ依リ其ノ修理方ヲ無料ニテ當該郵便局所ニ請求スルコトヲ得

第四十條 加入者ハ別ニ告示スル地域内ニ在ル者若ハ港灣内ニ碇泊ノ艦船中ニ在ル者ヲ通話取扱局所ニ呼出シ通話スル爲當該郵便局所ニ其ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四十一條 前條ノ請求ヲ爲ス者ハ通話料ノ外電話呼出料ヲ納ムヘシ

第四十二條 通話料及電話呼出料ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ納ムヘシ

一 通話取扱局所ニ來リ通話セムトスル者ハ一通話時又ハ二通話時ノ通話料ヲ又電話呼出ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ通話料ト共ニ電話呼出料ヲ其ノ局所ニ前納スヘシ若シ通話取扱局所ニ來リ通話セル者ニシテ

該通話料ニ相當スル通話時以上ニ涉リタルトキハ通話ヲ終リタル後其ノ未納料金ヲ納ムヘシ

二 自動電話機ニ依リ通話セムトスル者ハ當該郵便局所ノ指示スル所ニ從ヒ通話ニ先立チ一通話時毎ニ其ノ料金ヲ納ムヘシ

三 加入者ハ一箇月分取纏メ翌月二十日迄ニ當該郵便局所ニ其ノ料金ヲ納ムヘシ

第四十三條 電話呼出ノ請求ヲ行ハタルトキハ其ノ被呼者ヲ呼出スヘキ通話取扱局所ニ於テ通話料前納證書ヲ調製シ之ヲ被呼者ニ交付スヘシ

第四十四條 通話料前納證書ノ使用期間ハ其ノ證書發行ノ日ヨリ七日間トス

第四十五條 通話料前納證書ヲ有スル者ハ其ノ證書記載ノ金額ニ相當スル通話料納付済ノモノトシ何レノ通話取扱局所ニ於テモ通話ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 居所不分明其ノ他ノ事故ニ因リ通話料前納證書ヲ被呼者ニ交付シ能ハサルトキハ之ヲ其ノ使用期間内當該通話取扱局所ニ保管シ置キ其ノ被呼者ノ居所、氏名ヲ記載シテ三日ヨリ少カラサル間之ヲ其ノ局所前ニ揭示スヘシ

第四十七條 呼出請求者ハ被呼者ノ居所、氏名又ハ呼出時刻ノ改正ヲ要スルトキハ呼出請求ノ時ヨリ二十四時間以内ニ之ヲ其ノ呼出請求局所ニ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ更ニ電話呼出料ヲ納ムヘシ

第四十八條 呼出請求者ハ呼出請求局所ニ於テ未タ呼出ノ手續ヲ爲ササル場合ニ限リ其ノ呼出請求ヲ取消スコトヲ得

第四十九條 電話ニ關スル料金左ノ如シ

- 一 加入登記料 一 申込毎ニ
- 二 名義書換料 一名義毎ニ
- 三 電話使用料 一 加入毎ニ
- 四 附加使用料

甲地金十五	乙地金五	甲地年額金七十二	乙地年額金六十八
甲地金三	乙地金三	甲地年額金六十二	乙地年額金四十八
甲地年額金六十二	乙地年額金四十八	甲地年額金六十二	乙地年額金四十八
甲地年額金六十二	乙地年額金四十八	甲地年額金六十二	乙地年額金四十八

- 一 加入區域外加入  
加入區域外電話線路ノ線  
係延長一哩一町迄毎ニ  
單線式ハ年額金一圓五十錢  
複線式ハ年額金一圓二十錢
  - 一 長距離電話通話  
一箇毎ニ  
年額金三圓
  - 一 卓上電話機  
一箇毎ニ  
甲號年額金十二圓  
乙號年額金六圓
  - 一 増設普通電話機  
一箇毎ニ  
年額金十二圓
  - 一 増設卓上電話機  
一箇毎ニ  
甲號年額金二十四圓  
乙號年額金十八圓  
丙號年額金十二圓  
丁號年額金八圓
  - 一 増設受話器  
一箇毎ニ  
年額金三圓
  - 一 増設電鈴  
一箇毎ニ  
年額金三圓  
十箇迄ハ一箇毎ニ  
年額金六圓  
十箇以上ハ一箇ヲ増ス毎ニ  
年額金三圓
  - 五 電話料  
一 第二十八條ニ依ル接續電話機  
一 通話時ノ通話料  
一 一回ノ電話呼出料  
一 區  
一 加入區域内又ハ  
一 同一呼出地域内  
金 五 錢  
金 五 錢
- (第一條第二項及第二十六條但書ニ依ル加入者ハ同一加入區域内ニアルモノト看做ス)
- 船舶中ニ在ル者ヲ呼出サムトスルトキハ別ニ定ムル所ニ依リ解船配達料ヲ電話呼出料トシテ増納スヘシ
- 六 機械移轉料  
一 同一邸宅構内ノ移轉 金二圓  
一 池ノ邸宅構内ヘノ移轉 金十五圓  
一 増設電話機ノ移轉 金三圓  
一 増設電鈴又ハ附屬物品ノミノ移轉 金一圓  
一 電話番號表掲載料 一箇所毎ニ 年額金二圓八十錢

前項第一號乃至第三號ノ土地ノ區別第五號以外ノ通話ヲ爲シ得ル區域及其ノ電話料並第十七條第四號ニ該當スル專用通話ノ附加使用料ハ別ニ之ヲ告示ス

第五十條 電話ニ關スル料金ハ別ニ定ムル場合ヲ除ク外通貨ヲ以テ納ムヘシ  
但シ左ノ料金ハ申込又ハ請求ノ際郵便切手ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

- 一 加入登記料、名義書換料、機械移轉料
- 二 通話取扱局所ニ來リ通話シ又ハ電話呼出ヲ請求スル者ノ納ムヘキ電話料

第五十一條 電話使用料及附加使用料ハ年額ヲ四分シ左ニ掲クル四期ノ別ニ從ヒ每期分ヲ其ノ期ノ初月一日ヨリ十日迄ニ當該郵便局所ニ納ムヘシ但シ官廳ニ限り特ニ後納ト爲スコトヲ得

- 第一期 四月一日ヨリ六月三十日マテ
- 第二期 七月一日ヨリ九月三十日マテ
- 第三期 十月一日ヨリ十二月三十一日マテ
- 第四期 一月一日ヨリ三月三十一日マテ

前項料金ハ當該會計年度内ニ於テ一時ニ其ノ年度ニ屬スル二期分以テ前納スルコトヲ得

第五十二條 電話開通カ前條各期ノ中途ナルトキハ其ノ初期ノ電話使用料及附加使用料ハ電話開通ノ日ヨリ其ノ期ノ末日ニ至ルマテノ日數ニ應シ年額金ノ日割ヲ以テ開通ノ日ヨリ十五日以内ニ之ヲ納ムヘシ其ノ加入後附加使用料ヲ納ムヘキ場合ノ生シタルトキ及電話使用料又ハ附加使用料ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第五十三條 電話番號表掲載料ハ一會計年度毎ニ之ヲ課ス但シ年度ノ中途ニ於テ掲載ヲ爲シ又ハ掲載ヲ取消シタル場合ト雖年額ヲ徴收ス

前項料金ハ每會計年度ノ初月二日ヨリ十日マテニ當該郵便局所ニ之ヲ納ムヘシ但シ請求初年度ノ料金ハ當該郵便局所ノ指定シタル期日迄ニ之ヲ納ムヘシ

第五十四條 電話ニ關スル料金ヲ郵便切手ヲ以テ徴收シ又ハ還付スヘキ場合ニ於テ錢位未滿ノ端數ヲ生シタ

ルトキハ之ヲ切捨ツ

10111

第五十五條 加入者第十三條ノ加入期間内ニ於テ加入ヲ取消シタルトキ又ハ加入ヨリ除名セラレタルトキハ電話ニ關スル未納料金ヲ一時ニ納ムヘシ

第五十六條 専用通話ノ開廢又ハ電話機、増設機械ノ變更等ニ依リ電話使用料又ハ附加使用料ニ異動ヲ生シタルトキハ日割ヲ以テ其ノ不足額ヲ徵收シ過越額ハ之ヲ還付セス

第五十七條 加入者第十五條ノ取消請求期限ヲ過キテ加入取消ノ請求ヲ爲シタルトキ又ハ當該加入期ノ末日ヨリ十五日前ニ長距離電話通話ノ廢止、加入區域外ヨリ加入區域内へ及加入區域外ニ於ケル電話機、附屬物品ノ移轉、電話機ノ變更及増設機械ノ撤去、變更若ハ第二十八條ニ依ル電話機接續ノ廢止ノ請求ヲ爲ササルトキハ其ノ次期ニ屬スル電話使用料及附加使用料ヲ納ムヘシ

加入者當該會計年度ノ末日ヨリ十五日以前ニ第二十九條第二項ノ請求ヲ爲ササルトキハ次年度ニ屬スル電話番號表掲載料ヲ納ムヘシ

第五十八條 左ノ電話ニ關スル既納ノ料金ハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ通貨ヲ以テ納メタル者ハ通貨、郵便切手ヲ以テ納メタル者ハ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付シ未納ノ料金ハ之ヲ徵收セス

一 第一條第二項ニ依リ加入區域外加入ヲ認可セザリシトキ又ハ第二十四條ノ場合ニ於テ加入申込ヲ取消シタルトキハ其ノ加入登記料

二 第二十條ノ場合ニ於テ名義變更ヲ承認セザリシトキハ其ノ名義書換料

三 第二十六條但書ノ場合ニ於テ移轉ヲ認可セザリシトキハ其ノ機械移轉料

四 加入者ノ過失、懈怠又ハ故意ニ因ルニ非スシテ電話不通ニ至リ其ノ日數十五日以上ニ涉リタルトキハ年額金ノ日割ニ依ル其ノ不通期間ノ電話使用料及附加使用料

五 郵便局所ノ過失ニ因リ徵收シタル過納又ハ誤納ノ電話ニ關スル料金

六 通話取扱局所ノ過失ニ因リ通話料前納證書ヲ發行セザリシトキ又ハ通話料前納證書ヲ被呼者ニ交付シ

得サルトキハ其ノ電話料

七 居所不分明其ノ他ノ事故ニ因リ通話料前納證書ヲ被呼者ニ交付シ得サルトキ又ハ交付シタル通話料前納證書ヲ其ノ使用期間ニ使用セザリシトキハ其ノ通話料

八 艦船中ニ在ル者ニ交付スヘキ通話料前納證書ヲ艦船ノ不在又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ艦船ニ配達セザリシトキハ其ノ増納シタル電話呼出料

九 第四十八條ニ依リ電話呼出ノ請求ヲ取消シタルトキハ其ノ電話料

十 通話料前納證書ヲ以テ通話シタル通話料ニシテ前納額ニ満たサルトキハ其ノ殘餘ノ通話料

十一 線路又ハ機械ノ障礙其ノ他ノ事由ニ因リ通話ヲ爲シ能ハサルトキハ其ノ通話ヲ爲ササル通話時ニ對スル通話料

前項第四號ノ不通ノ日數ハ當該郵便局所ニ於テ其ノ事故ヲ認メタル日ヨリ起算ス但シ加入者復舊工事ノ延期ヲ請求シタルトキハ其ノ日數ヲ除ク

第五十九條 前條ニ依ル料金還付ノ請求ハ左ノ期間内ニ其ノ料金ヲ納付シタル郵便局所ニ之ヲ爲スヘシ但シ同條第二項第七號ノ場合ニ於テ其ノ使用セザリシ通話料前納證書ヲ請求書ニ添付スヘシ

一 第一項第一號乃至第三號ノ場合ハ其ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ六十日間

二 第二項第四號ノ場合ハ料金納付ノ日ヨリ五箇月間

三 第一項第五號乃至第十一號ノ場合ハ加入者ニ在リテハ料金納付ノ日ヨリ其ノ他ノ者ニ在リテハ通話又ハ電話呼出ノ請求ヲ爲シタル日ヨリ三十日間

第六十條 加入者加入期間内ニ於テ加入ヲ取消シ又ハ加入ヨリ除名セラレタルトキト雖其ノ期間内ノ電話使用料及第五十一條ニ依ル當該料金納付期ノ附加使用料並其ノ期間ノ屬スル會計年度内ノ電話番號表掲載料ハ之ヲ免除セス

第六十六條ニ依リ通話ヲ停止セラレタルトキハ其ノ停止期間中ノ電話使用料及附加使用料ハ之ヲ免除セス

專用通話及長距離電話通話ノ廢止又ハ加入區域外ヨリ加入區域内ヘ及加入區域外ニ於ケル電話機附屬品ノ移轉、電話機ノ變更及増設機械ノ撤去、變更若ハ第二十八條ニ依ル電話機接續ノ廢止ノ場合ニ於テモ第五十一條ニ依ル當該料金納付期ノ附加使用料ハ之ヲ減免セス

第六十一條 通信管理局又ハ當該郵便局所ハ時時吏員若ハ所屬員ヲ派遣シ加入者ノ使用スル電話機設置ノ邸宅構内ニ在ル電話線、電話機附屬物品ヲ點檢セシムヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶セシムヘシ

第六十二條 通信管理局ハ加入者ノ使用スル電話線、電話機、附屬物品ヲ撤去シ又ハ移轉スル場合ニ於テ其ノ電線、機械及物品ノ裝置シアリタル造營物ヲ原形ニ修復スルノ責ニ任セス

第六十三條 加入者ノ過失、懈怠又ハ故意ニ因リ其ノ使用スル電話線、電話機、附屬物品ヲ亡失毀損シタルトキ又ハ第六十五條ニ違背セル所爲ニ因リ復舊工事ヲ要スルトキハ加入者ニ於テ其ノ補充又ハ修繕ニ要スル費用ヲ辨償スヘシ

第六十四條 加入者ハ報酬ヲ受ケ其ノ使用スル電話機ヲ他人ノ用ニ供シ又ハ報酬ヲ受クル者ニ之ヲ貸與スヘカラス

第六十五條 加入者ハ其ノ使用スル電話線、電話機、附屬物品ヲ取外シ移轉、分解又ハ其ノ裝置ヲ變更スヘカラス但シ水火其ノ他ノ事變ニ際シ保護ノ目的ニ出テタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

加入者ハ其ノ使用スル電話線、電話機、附屬物品ニ他ノ線條、機械等ヲ連結スヘカラス

第六十六條 加入者電話使用料、附加使用料、電話番號表掲載料及電話料ヲ規定ノ期日迄ニ納付セザルトキ又ハ第六十三條ノ補修費ヲ辨償セザルトキハ其ノ滯納ノ期間通話ヲ停止スヘシ

加入者故ナク第六十一條ノ點檢ヲ拒ミタルトキ又ハ前條第二項ニ違背スルノ所爲アリタルトキ若ハ第二十八條ノ指示ニ從ハサルトキハ七日以内ノ期間該加入ノ通話ヲ停止スルコトアルヘシ

加入者前條第二項ニ違背スルノ所爲アリタルトキハ三十日以内ノ期間該加入ノ通話ヲ停止スルコトアルヘシ

第六十七條 加入者第六十四條ニ違背スルノ所爲アリタルトキ又ハ前條第一項ニ依リ通話ヲ停止セラレタル日ヨリ三十日以内ニ滯納ノ金額ヲ納付セザルトキ若ハ前條ニ依リ一年三回以上通話ヲ停止セラレタルトキハ該加入ヨリ除名スルコトアルヘシ

第六十八條 前條ニ依リ加入ヨリ除名セラレタル者ハ其ノ除名ノ日ヨリ滿一箇年ヲ經過スルニ非サレハ其ノ加入セル郵便局所ニ再加入申込又ハ加入ヲ爲スコトヲ得ス

第六十九條 統監府通信官署ハ電話交換ヨリ生スル一切ノ事故ニ對シ其ノ責ニ任セス

附則 第七十條 本規則ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十一條 本規則施行前ニ於ケル電話加入申込ハ明治四十一年十月末日迄ニ之ヲ取消スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ加入登記料ハ之ヲ還付ス

第七十二條 本規則施行前ニ於テ電話加入區域外ニ於テ加入申込又ハ加入ヲ爲シタル者ニシテ明治四十一年十月末日迄ニ其ノ加入申込又ハ加入取消ノ請求ヲ爲ササル者ハ本規則ニ依リ認可シタルモノト看做ス

(第一號書式) 加入申込書

電話規則ニ遵ヒ何地電話交換ニ加入致度左ニ電話機設置場所ヲ指定シ(別紙承諾書相添ヘ)此段申込候也

年 月 日 何 某 團

何郵便局所御中  
一 電話機設置場所 何民團地區(何府郡)何町(何坊面社)何番地(何洞里村何統何戸)家屋所有者何誰  
第十八輯 通信 第四章 電信電話 一〇三五

(第二號書式)

電話加入區域外加入申請書

何郵便局ノ電話加入區域外ニ於テ左記事項ニ依リ同局ノ電話交換ニ加入致度此段及申請候也

一 電話ノ施設ヲ必要トスル事由

何 何

一 電話機設置場所

何 何

一 局ト電話機設置場所トノ距離

何 何

住所職業

年 月 日 何 某 團

統監府通信管理局長宛

(注意) 本請申書ニハ當該局所及電話機設置場所ノ位置並其ノ經過地名ヲ記載シタル圖面ヲ添附シ加入申込書ト共ニ差出スヘシ

(第三號書式)

電話加入區域外移轉申請書

何郵便局ノ電話加入區域外ニ於テ(電話加入區域外ニ)左記事項ニ依リ移轉致度此段及申請候也

一 移轉ヲ必要トスル事由

何 何

一 電話機設置場所

何 何

住所職業

一 局ト電話機設置場所トノ距離

何 何

住所職業

年 月 日 何 某 團

統監府通信管理局長宛

(注意) 本申請書ニハ當該局所及電話機設置場所ノ位置並其ノ經過地名ヲ記載シタル圖面ヲ添附スヘシ

(第四號書式)

承諾書

今般貴殿何地電話交換ニ加入ノ爲私所有ノ何民團地區(何府郡)何町(何坊面社)何番地(何洞里村何統何戸)何何家屋ニ電話機設置ノ趣ハ故障無之候也

年 月 日 住所 家屋所有者 何 某 團

何 某 殿

(注意) 本承諾書ハ加入申込書又ハ機械設置場所變更請求書ニ添附差出スヘシ

(第五號書式)

機械設置場所變更請求書

一 電話加入申込順番(電話番号)

加入申込書ニ依リ御設置可相成(右電話加入ノ)電話機(甲號)乙號)卓上電話機(電鈴)(増設電話機)(増設卓上電話機)(増設電鈴)ヲ左記ノ場所ニ變更(移轉)致度(別紙承諾書相添)此段及請求候也

住所職業

年 月 日

何郵便局所御中

一機械設置場所 何民團地區(何府郡)何町(何坊面社)何番地(何洞里村何統何戸)何何家屋又ハ何所所有者  
何誰

一〇三九

某團

(第六號書式)

卓上電話機請求書

一電話加入申込順番(加入申込書ト同時ニ差出スト)  
キハ番號ヲ記載スルヲ要セス

加入申込書ニ依リ御設置可相成電話機ヲ甲號(乙號)卓上電話機ニ致度此段及請求候也

住所職業

年 月 日

何

某團

何郵便局所御中

(第七號書式)

電話機變更請求書

一電話番號

右電話加入ノ(右電話加入ノ電話機同線中ニ増設シタル)甲號(乙號)卓上電話機(普通電話機)ヲ普通電話機  
(甲號(乙號)卓上電話機)ニ變更致度此段及請求候也

住所職業

年 月 日

何

某團

何郵便局所御中

(第八號書式)

機械増設請求書

一電話加入申込順番(電話番號)(加入申込書ト同時ニ差出スト)  
キハ番號ヲ記載スルヲ要セス

加入申込書ニ依リ御設置可相成(右電話加入ノ)電話機同線中ニ電話機(甲號(乙號)卓上電話機)(電鈴)何箇  
増設致度此段及請求候也

住所職業

年 月 日

何

某團

何郵便局所御中

(第九號書式)

増設機械撤去請求書

一電話番號

都合ニ依リ右電話加入ノ電話同線中ニ増設シタル電話機(甲號乙號)卓上電話機(電鈴)何箇ヲ撤去致度此  
段及請求候也

住所職業

年 月 日

何

某團

何郵便局所御中

(第十號書式)

加入申込取消請求書

一電話加入申込順番

都合ニ依リ右電話加入申込ヲ取消致度此段及請求候也

住所職業

年 月 日

何

某團

何郵便局所御中

(第十一號書式)

加入取消請求書

一 電話番號

都合ニ依リ何年何月何日限リ右電話加入ヲ取消致度此段及請求候也

住所職業

年 月 日

何郵便局所御中

何

某 印

(第十二號書式)

電話加入名義變更請求書

何局何番電話加入者(電話加入申込順番)何

某

右ノ者今般都合ニ依リ右電話加入名義ヲ何某ニ變更致度御許可ノ上ハ新名義人ニ於テ舊名義人ノ權利義務ヲ一切繼承シ電話規則ニ遵ヒ加入者(加入申込者)タルノ責務ヲ引受可申仍テ當事者連署ヲ以テ此段及請求候也

住所職業

(加入者何某管財人又ハ何何)

何

某 印

住所職業

何

某 印

年 月 日

何郵便局所御中

(第十三號書式)

加入繼承請求書

何局何番電話加入者(電話加入申込順番)何

某

右ノ者今般何何ニ付右電話加入ヲ私ニ於テ繼承致度御許可ノ上ハ電話規則ニ遵ヒ加入者(加入申込者)タルノ責務ヲ引受可申仍テ別紙證明書相添此段及請求候也

住所職業

繼承人 何

某 印

年 月 日

何郵便局所御中

(第十四號書式)

長距離電話通話請求書

一 電話加入申込順番(電話番號) (加入申込番ト同時ニ差出ストキハ番號ヲ記載スルヲ要セス)

加入申込番ニ依リ御設置可相成(右電話加入ノ)電話機ニ依リ長距離電話通話致度此段及請求候也

住所職業

何

某 印

年 月 日

何郵便局所御中

(第十五號書式)

長距離電話通話請求取消(通話廢止)請求書

一 電話加入申込順番(電話番號)

都合ニ依リ加入申込番ニ依リ御設置可相成(右電話加入ノ)電話機ニ依ル長距離電話通話ノ請求取消(通話ヲ廢止)致度此段及請求候也

住所職業

何

某 印

年 月 日

何郵便局所御中

(第十六號書式)

官應用(私設)電話機電話交換線接續請求書

電話機設置場所何何(何番室又ハ何掛等ノ名稱ヲ以テ其ノ位置ヲ示シ得ルモノハ其ノ名稱)

右私(官廳名)施設ノ電話機ヲ何地電話交換線ニ接續通話致度此段及請求候也

追テ施設機械、附屬物品、線條ノ種類、線路ノ種類、回線方式及維持方法等ハ左ノ通ニ有之候

一施設機械、附屬物品ノ種類及箇數(電話交換機ニ依リ接續スル場合ハ該交換機ノ容量及其ノ現ニ收容セル電話機數ヲモ記載スヘシ)

一施設線路ノ種別、線條ノ種類及回線方式

一維持ノ方法

何 何

住所職業

何

某 團

年 月 日

統監府通信管理局御中

(注意) 本請求書ニハ各機械ノ位置、接續及回線方法ヲ詳記シタル圖面ヲ添附スヘシ

(第十七號書式)

官應用(私設)電話機電話交換線接續廢止請求書

何地電話交換線接續電話機設置場所

何 何

住所職業

何

某 團

年 月 日

統監府通信管理局御中

(第十八號書式)

電話機電話交換線規定外掲載請求書

一電話加入申込順番(何)番(加入申込書ト同時ニ差出スト)(電話番號(何)番)何某

加入申込書ニ依リ御設置可相成(右電話加入ノ)電話ハ右名義以外尙左記ノ通電話番號表へ掲載相成度此段及請求候也

住所職業

何

某 團

年 月 日

何郵便局所御中

(注意) 規定ノ箇所以外ニ掲載ヲ希望スル名稱ヲ此ノ所ニ列記スヘシ

(第十九號書式)

電話番號表規定外掲載請求取消(掲載廢止)請求書

一電話加入申込順番(何)番(電話番號(何)番)何某

都合ニ依リ加入申込書ニ依リ御設置可相成(右電話加入ノ)左ノ名義電話番號表掲載請求取消(掲載廢止)致度此段及請求候也

住所職業

何

某 團

年 月 日

何郵便局所御中

(注意) 掲載ヲ取消又ハ廢止セムトスル名稱ヲ此ノ所ニ列記スヘシ

第十八輯 通信 第四章 電信電話



(第二十號書式)

專用電話通話申請書

電話規則ニ依リ専用電話通話致度此段及申請候也

一 専用電話通話者名及電話機設置場所

電話加入申込順番(何)番(加入申込書ト同時ニ差出ストキハ番號ヲ記載スルヲ要セス)

電話番號(何)番

何 誰 何 處

何 誰 何 處

住所職業 何

住所職業 何

某 某  
印 印

年 月 日

統監府通信管理局長 殿

(注意)

一本申請書ニハ各電話機設置場所ノ位置ヲ記載シタル圖面ヲ添付スヘシ  
一 加入者名義同一ノ場合ハ連署ヲ要セス

(第二十一號書式)

専用電話通話申請取消(通話廢止)請求書

一 加入申込順番(何)番(電話番號何)番

二 加入申込順番(何)番(電話番號何)番

都合ニ依リ専用電話通話ノ申請取消(通話ヲ廢止)致度此段及請求候也

年 月 日

統監府通信管理局長 殿

住所職業 何

住所職業 何

某 某  
印 印

(注意) 加入名義同一ノ場合ハ連署ヲ要セス

附則 本令ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

電話加入區域四十一年九月 改正 四十二年 統告第五十八號、九一號

電話加入區域

電話交換加入區域左ノ通定ノ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

但シ區域境界及里程ハ地形其ノ他實際ノ狀況ニ依リ統監府通信管理局長之ヲ定ム

局 名 加 入 區 域

京 城京城壁内一圍 崇禮門(通稱南大門)及敦義門(通稱西大門)ヨリ城壁外電線ヲ架設スヘキ距離十二町以内ノ地

龍 山 局ヨリ 東南方 梨太院契及之ト同距離内ノ地  
西南方 萬里倉契及之ト同距離内ノ地  
西北方 新草里洞及之ト同距離内ノ地  
但シ漢江左岸ノ地ヲ除ク

川 局ヨリ 東南方 牛角洞及之ト同距離内ニ在ル海岸線内ノ地  
西南方 花島嶺及之ト同距離内ノ地  
西北方 各海岸線内ノ地

江	木	群	釜	馬	大	平
景局ヨリ	浦局ヨリ	山局ヨリ	山局ヨリ	山局ヨリ	邱局ヨリ	壤局ヨリ
東 南 方	東 南 方	東 南 方	東 南 方	東 南 方	東 南 方	東 南 方
上江景及 虹橋村及 錦江左岸 内ノ地	各海岸線 内ノ地	山亭洞及 北橋洞及 京場里及 錦江左岸 内ノ地	海岸線内 ノ地	海岸線内 ノ地	新洞及 南上洞及 大興郡及 外川坊及 大同江右 岸内ノ地	大同江右 岸内ノ地

鎮	新	元	開
浦局ヨリ	州局ヨリ	山局ヨリ	城局ヨリ
東 南 方	東 南 方	東 南 方	東 南 方
大同江及 石洞及 大石洞及 新地及 江左岸 内ノ地	霞町及 本町及 旭町及 鴨綠江 左岸内 ノ地	元山里及 海岸線 内ノ地	都橋及 雲溪及 十川橋 内ノ地

●電話呼出地域

四十二年九月 改正 四十二年九月 改正  
 統計百五十九號 三三號、五八號、八〇號、九二號、一三二號、  
 四一年統計一七三號、一九五號、四二年二號、

明治四十一年九月統監府令第三十七號電話規則第四十條ニ依ル電話呼出地域左ノ通定ム

呼出局所	呼出地域	備考
京城、光化門、南大門、西大門	京城局電話加入區域内	上記呼出區域内其ノ位置及距離ニ依リ京城外三局ノ内何レカノ局ニ於テ呼出ヲ爲スモノトス
龍山	電話加入區域内	

永登浦 仁川京町 水原停車場 水原前 麻浦 開城 江津 論山 忠州 堤川 木浦 光州

京畿道始興郡下北面ノ内永登浦、下方下串里、堂山里、上北面ノ内沙村里  
電話加入區域内  
京畿道水原郡南部面ノ内南昌洞、南水洞、梅香洞、鶴川洞、山樓洞、枝洞、梅山里、北部面ノ内北水洞、長安洞、普施洞、新豐洞、軍器洞、觀吉洞、屯村  
漢城府、西署龍山坊ノ内麻浦溪、桃花洞内契、桃花洞外契  
電話加入區域内  
忠清南道恩津郡花枝面ノ内論山、魯城郡光石面ノ内論山、連山郡夫人處面ノ内馬九坪、阿也里、新田  
忠清北道忠州郡南邊面ノ内三部(忠州邑)一部、二部、西部、南部、龍山、北邊面ノ内珠峰、治峴、枝洞、宗洞、内里  
忠清北道堤川郡縣右面ノ内堤川邑(邑東里、邑西里、東門里)  
電話加入區域内  
全羅南道光州郡城內面一圓、不動坊面ノ内瑞南里、眉陽洞、院旨里、弓樹村、用江村、浩然村、洪作村、錦溪洞、西外里、楊林村、新社村、社稷村、新巳村、奇禮坊面一圓

上記呼出區域ノ内其ノ位置及距離ニ依リ仁川局若ハ仁川京町郵便所ニ於テ呼出ヲ爲スモノトス  
上記呼出區域ノ内其ノ位置及距離ニ依リ水原局若ハ水原停車場前郵便所ニ於テ呼出ヲ爲スモノトス

羅州 榮山 群山 全山 草山 釜山 東山 馬山 大邱 春川 江陵 平昌

全羅南道羅州郡東部面ノ内后村、立石、果元、倉洞、古洞、洞水、紙砧、后廳、葛橋、南山、左邊、右邊、西部面ノ内北門、朴丁、明洞、西門、州司、今溪、長洞、川邊、伏岩面ノ内伏岩洞  
全羅南道羅州郡知良面ノ内榮山浦  
電話加入區域内  
全羅北道全州郡、府内面、府東面、府西面、府南面、府北面  
電話加入區域内  
慶尙南道東萊府釜山面ノ内釜山鎮、西下面ノ内農幕  
慶尙南道東萊府邑内面一圓、西上面ノ内金山洞  
電話加入區域内  
江原道春川郡府内面一圓  
江原道江陵郡江陵邑(上城內、中城內、龍虎亭、蓮堂邊)南一面面ノ内錦鶴前洞、錦鶴後洞、北一面面ノ内玉街、北二一面面ノ内徑方林塘前洞、林塘後洞、上蘆、艾峴  
江原道平昌郡内面ノ内上洞、中洞、川邊里、下洞、鍾阜里、老雲里、耳谷里

上記呼出區域ノ内其ノ位置及距離ニ依リ釜山局若ハ草梁郵便所ニ於テ呼出ヲ爲スモノトス

上記呼出區域ノ内其ノ位置及距離ニ依リ馬山局若ハ舊馬山浦郵便所ニ於テ呼出ヲ爲スモノトス

海州	延安	平壤	平壤	鎮南	義州	新義州	龍岩	元山	元山	咸興
----	----	----	----	----	----	-----	----	----	----	----

黃海道海州郡州內坊ノ内胎封洞、三司洞、羅持洞、玉洞、中營洞、錦屏橋、訓練洞、法首洞、黃海道延安郡東部面ノ内一里(玉洞)、上二里、下二里(體泉)、上三里(校村)、下三里(新堡)、南部面ノ内一里、二里、三里、上四里、下四里、五里、六里(山前)、西部面ノ内一里、二里

電話加入區域内

電話加入區域内

平安北道義州府州内面ノ内南門洞、壽星洞(於積島ヲ除ク)、柳枝洞、西門洞、元化洞、舊城洞、大東外里、東部里、弘北洞、弘南洞、青田里、西部里、西湖洞

電話加入區域内

平安北道龍川府龍岩浦居井町、吉永町、松村町、淺田町、梅津町、安永町、小野町、阿宗町、支那人町、府内面ノ内一里、二里、三里、四里

電話加入區域内

咸鏡南道咸興郡州南社ノ内新昌里、郷校里、東陽里、東平里、鍾閣里、西陽里、上里、中里、中荷里、荷西里、下東里、東興里、豐陽里、豐西里

上記呼出區域ノ内其ノ位置及距離ニ依リ平壤局若ハ平壤大和町取扱所ニ於テ呼出ヲ爲スモノトス

西海	鏡城	羅南	清津	南原	安東	蔚山	軍威	義城	長生	絶影
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

咸鏡南道咸興郡上東溟社ノ内西湖津咸鏡北道鏡城郡梧村社ノ内二里郷、三上洞、二中洞、二下洞、三上洞、三中洞、三下洞、驛坪

咸鏡北道梧村社ノ内羅南洞

咸鏡北道富寧郡、清津松島町、日出町、榮町、曙町、橋立町、自賀田町、朝日町、大和町、敷島町、吉川町、常盤町、祝町、幸町、壽町、巴町、高砂町、寶町、明治町、相生町、北星町、入船町、彌生町、富貴町、福泉町、青下社新岩洞

全羅北道南原郡萬德面ノ内竹隅、上卷、下卷、古井、廟村、西奉面ノ内東村、倉村、場村、四里、長興面、通漢面ノ内忠村

慶尙北道安東郡府内面ノ内安東邑、龍上里、新世里、栗世里、安慕洞、城也里、法尙洞、玉里、安奇、西亭子、泉里、雲興里、龍下里

慶尙南道蔚山郡上府面ノ内内部、城南、外部、下西、江亭、校洞、北内、北亭、路上、路下、路東、路北、路西

慶尙北道軍威郡縣内面一圓

慶尙北道義城郡北部面一圓、内部面ノ内道北、道西、道南、元興、虎尾、者致、仙岩、五老、墨洞、城洞

慶尙南道蔚山郡峴南面ノ内九井洞、長生浦、龍山洞、細竹浦

慶尙南道東萊府沙中面絶影島ノ内州岬、渡場、津頭洞、青鶴洞、城末、岩南

永	河	晉	公	茂	富	會	溫	天	成
興	東	州	州	山	寧	寧	里	安	歡
<p>忠清南道稷山郡三西面ノ内成歡驛、成歡南山店、西便村、宗洞、酒幕巨里、竹里</p> <p>忠清南道天安郡上里面ノ内天安邑、天安驛、北一面ノ内蔚富里</p> <p>忠清南道溫陽郡西面ノ内溫泉里</p> <p>咸鏡北道會寧郡府南社、拱北社</p> <p>咸鏡北道會寧郡下茂山社ノ内富寧邑</p> <p>咸鏡北道茂山郡邑内社一團</p> <p>忠清南道公州郡東部面ノ内官峴、許門、水源洞、山城、將基堡、江景洞、碑立巨里、南部面ノ内古上街、上鳳村、下鳳村、枝村、斑竹里、牛禁峙、金鶴洞、晴谷</p> <p>慶尙南道晉州郡城内面、大安面、中安面ノ内一洞、三洞、鳳谷面ノ内上村、下村</p> <p>慶尙南道河東郡德陽面ノ内廣坪、比巴村、院洞、新場村、豆谷村、古東村、花心村、井洞、仙庄村、新村、栗洞、邑村、枝村、解良村、牛峙村</p> <p>咸鏡南道永興郡洪仁社ノ内永興邑</p>									

**電話料金**

四十二年九月 改正 四一年統告一七二號、一九七號、二〇一號、四二年統告百五十二號 五號、九號、三四號、五〇號、五四號、七五號、八八號

明治四十一年九月統監府令第三十七號電話規則第四十九條第一項第一號乃至第三號甲地乙地ノ區別同第五號以外ノ通話區域及其ノ通話料並同電話規則第十七條第四號ニ該當スル專用電話通話ノ附加使用料左ノ通定メ來十月一日ヨリ之ヲ施行ス

電話規則第四十九條第一項第一號乃至第三號甲地乙地ノ區別

甲地 京城

乙地	仁川	木浦	群山	釜山	平壤	元山	龍山	江景	馬山	大邱	鎮南浦	新義州	開城
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	----

區 域

京城龍山間	京城永登浦間	京城永登浦間	京城永登浦間	京城永登浦間	京城永登浦間	京城永登浦間	京城永登浦間	京城永登浦間	京城永登浦間	京城永登浦間	京城永登浦間	京城永登浦間	京城永登浦間
金五錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢
仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間
金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢
仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間
金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢
仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間	仁川永登浦間
金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢	金二十錢

第十八輯 通信 第四章 電信電話

一〇五三

龍山春川間	金四十錢	金二十錢
長龍山平壤間	金七十錢	金三十錢
長龍山鎮南浦間	金九十錢	金三十錢
龍山天安間	金四十錢	金二十錢
龍山成歡間	金四十錢	金二十錢
龍山溫泉里間	金四十錢	金二十錢
龍山開城間	金三十錢	金十五錢
龍山延安間	金四十錢	金二十錢
龍山海州間	金五十錢	金二十五錢
永登浦麻浦間	金十錢	金五錢
永登浦水原 <small>(梅山里 才含△)</small> 間	金二十錢	金十錢
永登浦天安間	金四十錢	金二十錢
永登浦成歡間	金三十錢	金十五錢
永登浦溫泉里間	金四十錢	金二十錢
永登浦開城間	金四十錢	金二十錢
永登浦延安間	金四十錢	金二十錢
永登浦海州間	金五十錢	金二十五錢
永登浦春川間	金四十錢	金二十錢
水原 <small>(梅山里 才含△)</small> 麻浦間	金二十錢	金十錢
水原 <small>(梅山里 才含△)</small> 天安間	金三十錢	金十五錢
水原 <small>(梅山里 才含△)</small> 成歡間	金二十錢	金十錢

水原 <small>(梅山里 才含△)</small> 溫泉里間	金三十錢	金十五錢
水原 <small>(梅山里 才含△)</small> 開城間	金四十錢	金二十錢
水原 <small>(梅山里 才含△)</small> 延安間	金五十錢	金二十五錢
水原 <small>(梅山里 才含△)</small> 海州間	金六十錢	金三十錢
水原 <small>(梅山里 才含△)</small> 春川間	金四十錢	金二十錢
天安成歡間	金十錢	金五錢
天安溫泉里間	金十錢	金五錢
成歡麻浦間	金四十錢	金二十錢
成歡溫泉里間	金二十錢	金十錢
溫泉里麻浦間	金四十錢	金二十錢
開城延安間	金二十錢	金十錢
開城海州間	金四十錢	金二十錢
開城麻浦間	金三十錢	金十五錢
開城成歡間	金五十錢	金二十五錢
開城天安間	金五十錢	金二十五錢
開城溫泉里間	金六十錢	金三十錢
開城春川間	金五十錢	金二十五錢
海州延安間	金二十錢	金十錢
海州麻浦間	金五十錢	金二十五錢
海州成歡間	金七十錢	金三十錢

一〇五四

海州天安間	金七十錢	金三十錢
海州溫泉里間	金八十錢	金三十錢
海州春川間	金七十錢	金三十錢
延安麻浦間	金四十錢	金二十錢
延安成歡間	金六十錢	金三十錢
延安天安間	金六十錢	金三十錢
延安溫泉里間	金七十錢	金三十錢
忠州堤川間	金十五錢	金十錢
忠州平昌間	金二十錢	金十錢
忠州江陵間	金三十錢	金十五錢
堤川平昌間	金十錢	金五錢
江陵平昌間	金二十錢	金十錢
江陵堤川間	金二十五錢	金十五錢
春川麻浦間	金四十錢	金二十錢
春川成歡間	金五十錢	金二十五錢
春川天安間	金六十錢	金三十錢
春川溫泉里間	金六十錢	金三十錢
春川延安間	金六十錢	金三十錢
木浦羅州間	金三十錢	金十五錢
木浦榮山浦間	金三十錢	金十五錢
木浦光州間	金三十錢	金十五錢

第十八輯 通信 第四章 電信電話

光州羅州間	金二十錢	金十錢
光州榮山浦間	金二十錢	金十錢
光州河東間	金四十錢	金二十錢
光州晉州間	金五十錢	金二十五錢
羅州榮山浦間	金十錢	金五錢
群山 <small>(大井洞 才含△)</small> 江景間	金二十錢	金十錢
群山 <small>(大井洞 才含△)</small> 全州間	金二十錢	金十錢
群山 <small>(大井洞 才含△)</small> 論山間	金三十錢	金十五錢
全州論山間	金三十錢	金十五錢
全州南原間	金三十錢	金十五錢
江景全州間	金二十錢	金十錢
江景論山間	金十錢	金五錢
公州論山間	金二十錢	金十錢
公州江景間	金二十錢	金十錢
公州群山 <small>(大井洞 才含△)</small> 間	金四十錢	金二十錢
公州全州間	金四十錢	金二十錢
釜山 <small>(草梁及絕影 才含△)</small> 釜山鎮間	金十錢	金五錢
釜山 <small>(草梁及絕影 才含△)</small> 東萊間	金十錢	金五錢
釜山 <small>(草梁及絕影 才含△)</small> 馬山 <small>(舊山浦 才含△)</small> 間	金三十錢	金十五錢

一〇五五

釜山(草梁及絶影)	大邱間	金四十錢	釜山(草梁及絶影)	大邱間	金二十錢
釜山(草梁及絶影)	蔚山間	金三十錢	釜山(草梁及絶影)	蔚山間	金十五錢
釜山(草梁及絶影)	長生浦間	金三十錢	釜山(草梁及絶影)	長生浦間	金十五錢
釜山(草梁及絶影)	軍威間	金五十錢	釜山(草梁及絶影)	軍威間	金二十五錢
釜山(草梁及絶影)	義城間	金六十錢	釜山(草梁及絶影)	義城間	金三十錢
釜山(草梁及絶影)	安東間	金六十錢	釜山(草梁及絶影)	安東間	金三十錢
釜山(草梁及絶影)	絶影島間	金五十錢	釜山(草梁及絶影)	絶影島間	金二十五錢
馬山(舊馬山浦)	釜山鎮間	金三十錢	馬山(舊馬山浦)	釜山鎮間	金十五錢
馬山(舊馬山浦)	東萊間	金三十錢	馬山(舊馬山浦)	東萊間	金十五錢
馬山(舊馬山浦)	大邱間	金四十錢	馬山(舊馬山浦)	大邱間	金二十錢
馬山(舊馬山浦)	蔚山間	金四十錢	馬山(舊馬山浦)	蔚山間	金二十錢
馬山(舊馬山浦)	長生浦間	金五十錢	馬山(舊馬山浦)	長生浦間	金二十五錢
馬山(舊馬山浦)	軍威間	金五十錢	馬山(舊馬山浦)	軍威間	金二十五錢
馬山(舊馬山浦)	義城間	金五十錢	馬山(舊馬山浦)	義城間	金二十五錢
馬山(舊馬山浦)	安東間	金六十錢	馬山(舊馬山浦)	安東間	金三十錢
釜山鎮東萊間		金十錢	釜山鎮東萊間		金五錢
釜山鎮長生浦間		金三十錢	釜山鎮長生浦間		金十五錢
蔚山釜山鎮間		金三十錢	蔚山釜山鎮間		金十五錢
蔚山長生浦間		金十錢	蔚山長生浦間		金五錢
蔚山東萊間		金三十錢	蔚山東萊間		金十五錢
東萊長生浦間		金三十錢	東萊長生浦間		金十五錢
蔚山河東間		金二十錢	蔚山河東間		金十錢
大邱軍威間		金三十錢	大邱軍威間		金十五錢
大邱義城間		金三十錢	大邱義城間		金十五錢
大邱安東間		金四十錢	大邱安東間		金二十錢
大邱釜山鎮間		金四十錢	大邱釜山鎮間		金二十錢
大邱東萊間		金四十錢	大邱東萊間		金二十錢
大邱長生浦間		金五十錢	大邱長生浦間		金二十五錢
軍威釜山鎮間		金二十錢	軍威釜山鎮間		金十錢
軍威東萊間		金五十錢	軍威東萊間		金二十五錢
義城釜山鎮間		金六十錢	義城釜山鎮間		金三十錢
義城東萊間		金六十錢	義城東萊間		金三十錢
安東軍威間		金三十錢	安東軍威間		金十五錢
安東釜山鎮間		金六十錢	安東釜山鎮間		金三十錢
安東東萊間		金六十錢	安東東萊間		金三十錢
平壤鎮南浦間		金三十錢	平壤鎮南浦間		金十五錢
平壤開城間		金六十錢	平壤開城間		金三十錢

一〇五六

長平壤延安間	金六十錢	元山(元山里)	咸興間	金四十錢	元山(元山里)	咸興間	金二十錢
長平壤海州間	金五十錢	元山(元山里)	西湖津間	金四十錢	元山(元山里)	西湖津間	金二十錢
長平壤麻浦間	金七十錢	元山(元山里)	永興間	金三十錢	元山(元山里)	永興間	金十五錢
長平壤永登浦間	金八十錢	咸興西湖南間		金十錢	咸興西湖南間		金五錢
長平壤水原(梅山里)間	金九十錢	咸興永興間		金三十錢	咸興永興間		金十五錢
長平壤春川間	金六十錢	鏡城羅南間		金十錢	鏡城羅南間		金五錢
長鎮南浦開城間	金五十錢	清津鏡城間		金二十錢	清津鏡城間		金十錢
長鎮南浦海州間	金四十錢	清津羅南間		金二十錢	清津羅南間		金十錢
義州新義州間	金二十錢	會寧富寧間		金三十錢	會寧富寧間		金十五錢
義州龍岩浦間	金三十錢	會寧茂山間		金三十錢	會寧茂山間		金十五錢
新義州龍岩浦間	金二十錢	富寧茂山間		金三十錢	富寧茂山間		金十五錢

●特設電話規則 四十二年九月 改正 四十二年 統令一七號

特設電話規則左ノ通定ム

特設電話規則

第一條 特設電話交換ヲ取扱フ郵便局所ノ電話交換ニ加入セムトスル者ハ本規則ノ定ムル所ニ依リ加入ヲ爲ス

第二條 特設電話交換ニ加入セムトスル者ハ一加入毎ニ加入申請書(第一號)ヲ當該郵便局所ヲ經テ統監府通信管理局長(以下單ニ通信管理局長トス)ニ差出シ認可ヲ受クヘシ

第三條 加入申請者又ハ加入者左記各號ノ場合ニ於テハ各其ノ申請書(第二號及第三號書式)ヲ當該郵便局所ヲ經テ通信管理局長ニ差出シ認可ヲ受クヘシ

- 一 電話機、附屬物品ノ種類又ハ設置場所ヲ變更セムトスルトキ
- 二 電話機設置場所ト同一邸宅構内ニ在ル自己ノ施設ニ係ル電話機ヲ交換線ニ接續シ又ハ之ヲ廢止セムトスルトキ

前項第二號ノ場合ニ於テ其ノ施設ノ方法、物件及其ノ維持並交換取扱方ニ關シテハ通信管理局長ノ指示スル所ニ從フヘシ

第四條 加入者ハ一加入毎ニ電話線路ヲ架設シ且加入ニ必要ナル電話機及附屬物品ヲ設備シ之カ保守其ノ他必要ナル維持ヲ爲スヘシ其ノ設備、方法、物件及維持ニ關シテハ通信管理局長ノ指示スル所ニ從フヘシ前項ノ場合ニ於テ加入者ハ明治四十一年統監府令第四十號官廳用、軍用及私設電信電話並特設電話維持規程ニ依リ其ノ維持ヲ統監府通信管理局(以下單ニ通信管理局長トス)ニ依託スルコトヲ得

第五條 特設電話交換ニ要スル郵便局所内ノ設備及其ノ維持ハ通信管理局ニ於テ之ヲ負擔ス

第六條 特設電話ニ關スル料金左ノ如シ

- 一 加入登記料 一加入申請毎ニ 金五圓
- 二 名義書換料 一名義毎ニ 金二圓
- 三 電話交換料 一加入毎ニ 年額金二十四圓
- 四 附加交換料 一第三條第一項第二號ニ依ル接續電話機 一箇毎ニ 年額金六圓  
一増設電話機 一箇毎ニ 年額金六圓

第七條 左ノ特設電話ニ關スル既納ノ料金ハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ通貨ヲ以テ納メタルモノハ通貨、郵便切手ヲ以テ納メタルモノハ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付シ未納ノ料金ハ之ヲ徵收セス

一 特設電話ノ加入ヲ認可セザリシトキハ其ノ加入登記料

二 加入者ノ設備シタル線路及機械等ニ原因シタルニ非スシテ電話不通ニ至リ其ノ日數十五日以上ニ涉リタルトキハ年額金ノ日割ニ依ル其ノ不通期間ノ電話交換料及附加交換料

三 第十六條第一項ノ場合ニ於テハ電話規則ニ依ル電話開始以後ニ屬スル電話交換料及附加交換料前項第三號ノ不通ノ日數ハ當該郵便局所ニ於テ其ノ事故ヲ認めタル日ヨリ之ヲ起算ス

第八條 前條ニ依ル料金還付ノ請求ハ左ノ期間内ニ其ノ料金を納付シタル郵便局所ニ之ヲ爲スヘシ

一 第一項第一號ノ場合ハ其ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ六十日間

二 第一項第二號ノ場合ハ料金納付ノ日ヨリ同第三號ノ場合ハ電話規則ニ依ル電話開始ノ日ヨリ五箇月間第九條 所屬郵便局所ノ位置ヲ變更スルトキハ加入者ニ對シ電話線路ノ變更ヲ爲サシムヘシ

第十條 電話交換方式又ハ取扱方法ヲ變更スルノ必要アルトキハ加入者ニ對シ線路及機械ノ變更ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十一條 所屬郵便局所在地又ハ其ノ附近ニ新ニ特設電話交換ヲ取扱フ郵便局所ヲ開設シタルトキハ加入者ニ對シ其ノ郵便局所ニ電話線路ノ接續變更ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十二條 加入者前二條ノ場合ニ於テ現狀維持ヲ望ムトキハ其ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ一箇月以内ニ其ノ事由ヲ具シ通信管理局長ニ申出ツヘシ

第十三條 第九條乃至第十一條ノ場合ニ於テ必要ナル費用ハ加入者ノ負擔トス

第十四條 加入申請者加入ノ認可ヲ受ケ其ノ認可ノ日ヨリ六箇月以内ニ工事其ノ他ノ設備ニ著手セザルトキハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第十五條 加入者本規則又ハ當該郵便局所ノ指示ニ從ハサルトキハ加入ヲ取消スコトアルヘシ



第十六條 所屬郵便局所在地又ハ其ノ附近ニ明治四十一年統監府令第三十七號電話規則ニ依ルノ電話ヲ開始シタルトキハ認可ノ效力ヲ失フ該電話ノ開始期日ハ其ノ開始前ニ加入者ニ通知スヘシ  
前項ノ場合ニ於テ其ノ電話交換ニ加入セムトスル者ハ開始ノ通知ヲ受ケタル後十日以内ニ其ノ加入ノ申込ヲ爲スヘシ但シ加入者ニ於テ既設ノ電話線路、電話機及附屬物品ノ全部ヲ政府ニ無償提供ヲ爲ストキハ其ノ儘加入ヲ繼續スルコトヲ得

前項ニ依リ電話規則ニ依ル電話ニ加入シタル者ノ電話交換料及附加交換料ハ之ヲ電話使用料及附加使用料ニ充用スルコトヲ得

第十七條 加入者其ノ加入ヲ取消シ又ハ取消サレタルトキ若ハ認可ノ效力ヲ失ヒタルトキハ通信管理局長ノ指示スル所ニ從ビ線路及機器ヲ撤去スヘシ

第十八條 加入者ハ其ノ架設シタル電話線路ニ他ノ特設電話加入者ノ電話線ヲ併架スルコトアルモ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十九條 明治四十一年統監府令第三十七號電話規則第二條、第四條、第五條、第六條第一項、第十一條乃至第十三條、第十五條、第十六條、第十七條第三號、第十八條乃至第二十一條、第二十三條、第二十五條第二號乃至第四號、第二十六條、第二十七條、第二十九條乃至第四十一條、第四十二條第三號、第四十六條乃至第四十八條、第四十九條第一項第五號、第五十條乃至第五十五條、第五十七條、第五十八條第一項第二號第五號乃至第九號、第五十九條第一號第三號、第六十條乃至第六十二條、條六十四條乃至第六十九條ノ規定ハ本規則ニ之ヲ準用ス但シ同規則中加入申込者トアルハ加入申請者、請求書トアルハ申請書、電話使用料トアルハ電話交換料、附加使用料トアルハ附加交換料、各書式宛名郵便局所トアルハ逓信管理局長ニ該當ス

附則

第二十條 本規則ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十一條 本規則施行前ニ於ケル加入申請ハ明治四十一年十月末日迄ニ之ヲ取消スコトヲ得此ノ場合ニ於

テハ加入登記料ハ之ヲ還付ス

第二十二條 本規則施行前ニ於テ加入申請又ハ加入ヲ爲シタル者ニシテ明治四十一年十月末日迄ニ其ノ加入申請又ハ加入ノ取消ノ請求ヲ爲ササル者ハ本規則ニ依リ認可シタルモノト看做ス

(第一號書式)

特設電話加入申請書

特設電話規則ニ從ヒ何地電話交換ニ加入致度左ニ電話機設置場所及電話機設置場所ト郵便局所トノ距離ヲ記載シ(別紙承諾書相添ヘ)此段申請候也

年 月 日

住所職業

何 某團

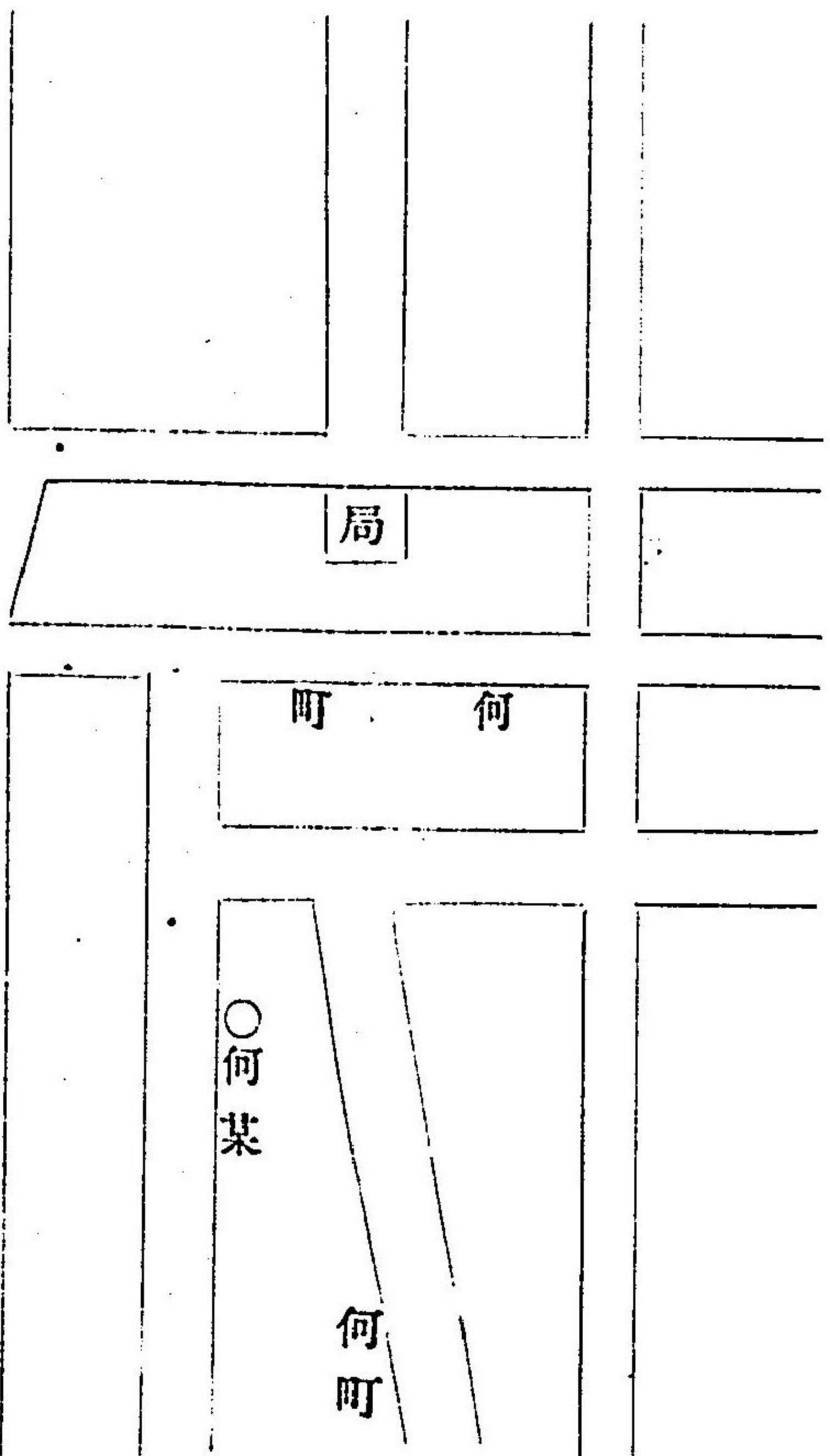
統監府通信管理局長宛

一 電話機設置場所 何民團地區(何府郡)何町(何坊面社)何番地(何洞里村何統何戸) 何 謹

一 郵便局所ト電話機設置場所トノ距離何何 何

注 意 申請書ニハ當該局所及電話機設置場所ノ位置及其ノ關係町村名ヲ詳記セル圖面ヲ左ノ様式ニ依

リ調製添附スヘシ



(第二號書式)

電話機(又ハ附屬物品)變更申請書

電話番號(加入申請中ノモノハ附屬物品ヲ記載スルヲ要セス)

右電話加入ノ(又ハ加入申請書ニ依リ設置ノ)普通電話機(又ハ甲號(又ハ乙號)卓上電話機若シテ附屬物品ナルトキハ其ノ機械名)ヲ甲號(又ハ乙號)卓上電話機(品ナルトキハ其ノ機械名)ニ變更致度此段及申請候也

年月日

住所職業

何

某團

統監府通信管理局御中

(第三號書式)

官應用(私設)電話機電話交換線接続申請書

電話機設置場所

何 何(何番室又ハ何掛等ノ名稱ヲ以テ其ノ位置ヲ示シ得ルモノハ其ノ名稱)

右私(又ハ官廳名)施設ノ電話機ヲ何地電話交換線ニ接続通話致度此段及申請候也

追テ施設機械、附屬物品、線條ノ種類、線路ノ種別、回線方式及維持方法等ハ左ノ通ニ有之候  
一施設機械、附屬物品ノ種類及箇數(電話交換機ニ依リ接続スル場合ハ該交換機ノ容員及其ノ現ニ收容セル電話機數ヲモ記載スヘシ) 何 何

一施設線路ノ種別、線條ノ種類及回線方式 何 何

一維持ノ方法 何 何

年月日

住所職業

何

某團

統監府通信管理局御中

(注 意) 本申請書ニハ各機械ノ位置、接続及回線方法ヲ詳記シタル圖面ヲ添附スヘシ

●別使及舢船配達料

四十一年九月 統令第四十二號

電信電話ニ關スル別使配達料及舢船配達料左ノ通定メ來十月一日ヨリ之ヲ施行ス明治三十九年十月十二日統監府告示第百五十三號ハ本府令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

配達局名	艦船碇泊ノ港灣名	船	配	達	料
釜山局	釜山港				二〇〇〇
馬山局	馬山港				二〇〇〇
仁川局	仁川港				一〇〇〇
鎮南浦局	鎮南浦港				三〇〇〇
元山局	元山港				四〇〇〇
龍岩浦局	龍岩浦錨地多獅島				六〇〇〇
	斗流浦				一〇〇〇
	サントウロウ				二〇〇〇

別紙配達料及前記以外ノ各地ニ宛テタルモノノ解船配達料ハ金五十錢トシ配達實費之ニ超過シタルトキハ其ノ實費額ヲ受信人ヨリ徴收ス

●郵便、電信、電話ニ關スル滞納料金徴收規則

四十二年四月  
統令第五號

郵便、電信、電話ニ關スル滞納料金徴收規則左ノ通改ム

郵便電信電話ニ關スル滞納料金徴收規則

第一條 郵便法第二十七條及電信法第二十一條ニ依ル郵便、電信及電話ニ關スル滞納料金ノ徴收ニ關シテハ本規則ニ定ムルモノノ外國稅ノ滞納處分ニ關スル規定ヲ準用ス

第二條 滞納料金納付ノ督促ヲ爲サントスルトキハ統監府通信官署ハ別記第一號様式ノ督促狀ヲ發スヘシ

第三條 滞納者前條ノ督促ヲ受ケタルトキハ滞納料金ハ法令ノ定ムル區分ニ從ヒ通貨又ハ郵便切手ヲ以テ、督促手數料ハ通貨ヲ以テ指定ノ通信官署ニ納付スヘシ

郵便切手ヲ以テ滞納料金ヲ納付スル場合ニ於テハ之ニ相當スル郵便切手ヲ督促狀ノ裏面ニ貼附シ指定ノ通信官署ニ差出スヘシ

第四條 滞納者ノ財産差押ヲ命シタル吏員ニハ統監府通信管理局長ニ於テ別記第二號様式ノ證票ヲ交付スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)

第一號様式

第「何」號「居」所「何」某	滞納料金
督	一金「何程」 但「何何」(滞納料金ノ種別等ヲ記載ス) 一金拾錢
促	督促手數料
狀	右「何」月「何」日限リ「何」郵便局(又ハ「郵便及電信取扱所」「郵便所」)ニ納付スヘシ 若其ノ期限ヲ過キ完納セサルトキハ直ニ財産差押ノ處分ヲ爲スヘシ 明治「何」年「何」月「何」日 「何」郵便局(又ハ「郵便及電信取扱所」「郵便所」)長 官氏 名圖

第二號様式

三寸

第 號

(何局所)

(官氏名)

郵便電信電話料金滞納者財産差押官吏之證

明治 年 月 日

統監府  
通信管  
理局印

●電信電話建築官吏及料金滞納者財産差押官吏證票

三十九年七月  
統令第六十五號

電信線電話線建設條例第二條及明治二十三年遞信省令第六十七號滞納料金徵收規程第三條ニ依ル證票左ノ通定ム  
電信電話建築官吏證票雛形  
〔郵便電信電話料金滞納者財産差押官吏證票雛形〕  
(雛形ハ略ス)

三寸

第 號

(官氏名)

電信電話建築官吏之證

明治 年 月 日

統監府  
通信管  
理局印

寸

●豫約新聞電話規則ハ韓國ニ準用セス

四十年九月  
統令第三十六號

明治四十年八月遞信省令第三十八號豫約新聞電話規則ハ之ヲ韓國ニ準用セス

●電話加入者電話機修理請求方

三十九年八月  
統令第二十七號

電話加入者ハ自己使用ニ係ル電話機ノ不良又ハ不通其ノ他障碍ノ場合ニ際シ自働電話機又ハ通話取扱局所ノ電話機ニ依リ其ノ修理方ヲ所屬電話交換取扱局所ニ無料ニテ請求スルコトヲ得

●官廳用、軍用及私設電信電話並特設電話維持規程

四十一年九月  
統令第四十號

改正 四二年府令一  
八號、五五號

官廳用、軍用及私設電信電話並特設電話維持規程左ノ通定ム

官廳用、軍用及私設電信電話並特設電話維持規程

第一條 官廳用、軍用及私設電信電話並特設電話ニシテ統監府通信管理局(以下單ニ通信)ニ其ノ維持ヲ依託スルモノハ本規程ニ依ルヘシ

第二條 官廳用、軍用及私設電信電話並特設電話ノ施設者ニシテ其ノ維持ヲ通信管理局ニ依託スルモノハ左ノ維持料ヲ納ムヘシ但シ電話機及附屬物品並電信機及電池ノ維持ハ電線維持ノ依託ヲ爲シタルモノニ限ル

一 電信電話線ノ維持料  
一 電信電話維持料ハ通信管理局線路ニ併架シタル場合ト否トヲ問ハス線條一條里程一丁毎ニ單線式ニ在リテハ年額金一圓五十錢複線式ニ在リテハ年額金一圓二十錢トス其ノ一丁未滿ノ端數亦同シ

二 電話機、附屬物品及電池ノ維持料  
一 電話機(電池及附屬品ヲ含ム)  
一箇毎ニ年額金八圓

- 二 卓上電話機(同) 一箇毎二年額金十二圓
- 三 電鈴 一箇毎二年額金一圓二十錢
- 四 受話器筒形又ハ時計形 一箇毎二年額金一圓二十錢
- 五 電池裝置場所一箇所ニ付 一箇毎二年額金三圓五十錢
- 一箇毎二年額金一圓五十錢

三 電信機及電池ノ維持料

一箇毎二年額金二十四圓

二 電池 裝置場所一箇所ニ付

十箇以内 年額金十五圓  
十一箇以上ハ一箇迄ヲ増ス毎二年額金十二圓

電信電話線路ノ土地使用料、受託ノ維持上ニ直接ノ原因ヲ有セサル線路機械、移轉變更等ニ要スル費用ハ前項維持料金中ニ之ヲ包含セス

第三條 私設電信規則第二十條第二項ノ維持料左ノ如シ但シ電信機又ハ電話機ニ報時機ノ裝置ヲ爲シタルモノハ其ノ報時機ノ維持料ハ之ヲ要セス

一 電信機 (屋内電線電池及附屬品共) 一箇ニ付 年額金二百圓

二 電話機 (同) 一箇ニ付 年額金百圓

三 報時機 (同) 一箇ニ付 年額金十五圓

軍用電信線ヲ連接セル通信官署内ニ裝置スル機械及電線其ノ他附屬物品ノ維持料亦前項ニ同シ

第四條 第二條及第三條ノ維持料ハ通信管理局ノ指定スル通信官署ニ之ヲ納付スヘシ但シ郵便局ニ電線ノ連接スル場合ニ在リテハ該郵便局ニ之ヲ納付スヘシ

第五條 維持料ハ年額ヲ四分シ左ニ掲クル四期ノ別ニ從ヒ每期ノ初月十日迄ニ之ヲ納付スヘシ但シ官廳ニ限リ特ニ後納ト爲スコトヲ得

- 第一期 自四月一日 至六月三十日
- 第二期 自七月一日 至九月三十日

第三期 自十月一日 至十二月三十一日

第四期 自一月一日 至三月三十一日

前項料金ハ當該會計年度内ニ於テ一時ニ其ノ年度ニ屬スル二期分以上ヲ前納スルコトヲ得

第六條 一期ノ中途ニ於テ電信法第二條第四號ニ依ル私設電信ノ通報(以下單ニ通報トス)ヲ開始シタルトキ又ハ維持料ニ應シ年額金ノ日割ヲ以テ其ノ開始又ハ依託ノ日ヨリ十五日以内ニ之ヲ納付スヘシ

第七條 一期ノ中途ニ於テ通報又ハ維持依託ヲ廢止若ハ中止シタル場合ト雖其ノ期ノ維持料ハ之ヲ減免セス

一期ノ初日ヨリ通報又ハ維持依託ヲ廢止若ハ中止スル場合ニ於テモ其ノ施設者又ハ依託者ヨリ前期ノ末日ヨリ十五日以前ニ維持料納付ノ通信官署ニ其ノ旨届出ヲ爲ササルトキハ其ノ期ノ維持料ハ之ヲ徵收ス

第七條ノ二 特設電話規則第十六條第一項ノ場合ニ於テハ特設電話ノ維持依託ハ之ヲ廢止シタルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テハ電話規則ニ依ル電話開始以後ニ屬スル維持料ハ納付人ノ請求ニ依リ之ヲ還付シ未納ノ料金ハ之ヲ徵收セス其ノ請求期間ハ該電話開始ノ日ヨリ五箇月間トス

第八條 維持依託中線路ノ開廢、變更、機械種別又ハ電池數ノ變更等ニ依リ維持料ノ低減スルコトアルモ其ノ期ノ維持料ハ之ヲ變更セス其ノ増額シタルトキハ年額金ノ日割ヲ以テ其ノ差額ヲ徵收ス

第九條 維持依託者ノ過失、懈怠又ハ故意ニ因リ其ノ使用スル電信電話線機器其ノ他附屬物品ヲ亡失、毀損シタルトキハ其ノ補充又ハ修繕ニ要スル費用ハ依託者ノ負擔トス

不可抗力ニ因リ電信電話線ノ復舊工事ニ著シキ費用ヲ要シタルトキハ依託者ヲシテ其ノ費用ヲ支辨セシムルコトアルヘシ

第十條 通信管理局ハ維持依託ヨリ生スル事項ニ付テハ損害賠償ノ責ニ任セス

附則

第十八輯 通信 第四章 電信電話

一〇六九

第十一條 本規程ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年九月統監府令第三十九號官廳用、軍用及私設電信電話維持規程ハ之ヲ廢止ス

第十二條 本規程施行前從來ノ契約又ハ命令ニ依リタルモノハ本年度内ニ限リ本規程ニ依ラス從前ノ契約又ハ命令ニ依ル

●官廳用電信電話ニ關スル制 三十三年八月 勅令第三百五十六號

股官廳用ノ電信及電話ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官廳ノ事務執行ノ爲電信電話ヲ施設スルトキハ軍用電信法ニ依ルモノヲ除クノ外總テ逓信大臣ノ定ムル規程ニ依ルコトヲ要ス

前項ニ依リ施設シタル電信電話ニシテ鐵道所屬ノモノ及公衆通信ノ用ニ供スル電信電話ナキ地ニ施設シタルモノ並當該官廳ノ事務執行ニ差支ナキモノハ逓信大臣之ヲ公衆通信ノ用ニ供スルコトヲ得

●電信電話施設ニ關シ寄附ヲ受クルノ制 四十二年四月 勅令第二百二十三號

政府ハ電信電話施設ノ費用ニ充ツル目的ヲ以テスル金錢ノ寄附ヲ受クルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 本規程ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年九月 統監府令第三十九號官應用、軍用及私設電話維持規程ハ之ヲ廢止ス

第十二條 本規程施行前從來ノ契約又ハ命令ニ依リタルモノハ、本年度内ニ限り本規程ニ依ラス從前ノ契約又ハ命令ニ依ル

●官應用電信電話ニ關スル制 三十二年八月 勅令第百五十六號

朕官應用ノ電信及電話ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官應カ事務執行ノ爲電信電話ヲ施設スルトキハ軍用電信法ニ依リテ之ヲ除クノ外總ノ逓信大臣ノ定ムル規程ニ依ルコトヲ要ス

前項ニ依リ施設シタル電信電話ニシテ鐵道所屬ノモノ及公衆通信ノ用ニ供スル電信電話ナキ地ニ施設シタルモノ並當該官應カ事務執行ニ差支ナキモノハ逓信大臣之ヲ公衆通信ノ用ニ供スルコトヲ得

●電信電話施設ニ關シ寄附ヲ受クルノ制 四十二年四月 勅令第百十三號

政府ハ電信電話施設ノ費用ニ充ツル目的ヲ以テスル金錢ノ寄附ヲ受クルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十九輯 土地、建物

## 第十九輯 土地、建物

### ●土地建物證明規則

三十九年十二月  
統令第四十二號

土地建物證明規則左ノ通定ム

#### 土地建物證明規則

第一條 土地又ハ建物ヲ買賣、贈與、交換シ又ハ典當ト爲シタル場合ニ於テ其ノ當事者ノ一方カ韓國臣民ニ非スシテ韓國勅令土地家屋證明規則ニ依リ郡守又ハ府尹ノ證明ヲ受ケタルモノハ更ニ理事官ノ查證ヲ受クヘシ

當事者ノ雙方カ韓國臣民ニ非サルトキハ理事官ノ證明ヲ受クルコトヲ得

第二條 前條ノ查證及證明ニ付テハ別ニ定ムルモノノ外韓國勅令土地家屋證明規則及法部令土地家屋證明規則施行細則ノ規定ニ從フ但シ認證及手数料納付書ニ關スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條 查證手数料ハ五十錢トス

第四條 理事官カ查證ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ郡守又ハ府尹ニ通知スヘシ

理事官カ證明ヲ爲ス場合ニ於テハ土地建物證明臺帳ニ記載スヘキ要項ヲ先ツ郡守又ハ府尹ニ通知スヘシ

#### 附 則

本規則ハ明治三十九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

(參 照)

韓國勅令土地家屋證明規則及法部令土地家屋證明規則施行細則ハ附錄ニ收ム

### ●證明又ハ查證ヲ受ケタル典當ノ執行ニ關スル制

四十年二月  
統令第三號

土地建物證明規則ニ依リ證明又ハ查證ヲ受ケタル典當ノ執行ニ付テハ韓國勅令土地家屋典當執行規則及同法



部令土地家屋典當執行規則施行細則ノ規定ニ從フ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

韓國勅令土地家屋典當執行規則及同國法部令土地家屋典當執行規則施行細則ハ附錄ニ收ム

●土地建物所有權證明規則

四十一年七月  
統令第二十四號

土地建物所有權證明規則左ノ通定ム

土地建物所有權證明規則

第一條 韓國臣民ニ非スシテ左記各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ所有權ノ證明ヲ理事官ニ申請スルコトヲ得

一 土地建物證明規則施行前ニ土地又ハ建物ノ所有權ヲ取得シタル者

二 土地建物證明規則施行後ニ賣買、贈與又ハ交換ニ依ラスシテ土地又ハ建物ノ所有權ヲ取得シタル者

第二條 前條ノ證明ニ付テハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外韓國勅令土地家屋所有權證明規則及法部令土地家屋

所有權證明規則施行細則ノ規定ニ從フ

第三條 理事官カ證明ヲ爲シタルトキハ土地建物所有權證明簿ニ記載セル要項ヲ府尹又ハ郡守ニ通知スヘシ

附則

本令ハ明治四十一年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●韓國國有未墾地利用法施行細則ニ依リ願書等提出方

四十年八月  
統告第七號

韓國政府ノ發布シタル國有未墾地利用法施行細則第二十二條ニ依リ提出スル願書、申請書、屆書其ノ他ノ書類及圖面ハ提出者ノ住所又ハ假住所ヲ管轄スル理事廳若ハ「理事廳支廳」ニ差出スヘシ

部令土地家屋典當執行規則施行細則ノ規定ニ從フ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

参照

韓國勅令土地家屋典當執行規則及施行細則ノ規定ニ從フ

●土地建物所有權證明規則

四十一年七月  
統制法第二十四號

土地建物所有權證明規則左ノ通定ス

土地建物所有權證明規則

第一條 韓國臣民ニ非スシテ左記各條ノ一ニ該當スル者ハ其ノ所有權ノ證明ヲ理事官ニ申請スルトシテ得

一 土地建物證明規則施行後ニ土地ノ所有權ヲ取得シタリシ者

二 土地建物證明規則施行後ニ賣買、贈與又ハ交換ニ依ラズシテ土地又ハ建物ノ所有權ヲ取得シタル者

第三條 前條ノ證明ニ付ラハ別ニ定ムルモノヲ除ク外韓國勅令土地家屋所有權證明規則及法部令土地家屋

所有權證明規則施行細則ノ規定ニ從フ

第三條 理事官カ證明ヲ爲シタルトキハ土地建物所有權證明規則ニ記載セル要項ヲ履行又ハ郡守ニ通知スヘシ

附則

本令ハ明治四十一年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●韓國國有未墾地利用法施行細則ニ依リ願書等提出方

四十年八月  
統制法百七號

韓國政府ノ發布シタル國有未墾地利用法施行細則第二十二條ニ依リ提出スル願書、申請書、届書其ノ他ノ書類及圖面ハ提出者ノ住所又ハ假住所ヲ管轄スル理事廳若ハ理事廳支廳ニ差出スハシ

第二十二輯 軍事

## 第二十輯 軍事

### ●韓國ニ在ル者ノ徵兵身體検査ニ關スル制

三十九年十二月  
勅令第三百十八號

朕臺灣、樺太、韓國、清國等ニ在ル者ノ徵兵身體検査ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 臺灣、樺太、韓國、露國領沿海州、露國領薩哈噠、清國香港、澳門ニ在ル者ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ所在地附近ノ軍隊又ハ領事館ニ於テ徵兵身體検査ヲ受クルコトヲ得但シ検査ヲ受クル爲要スル旅費ハ自辨トス

第二條 徵兵身體検査ハ陸軍佐官又ハ大尉一名ヲ検査員ト爲シ之ニ軍醫及下士ヲ附屬シテ之ヲ行フ

第三條 領事館ニ於テ施行スル徵兵身體検査ニ關シテハ當該領事館員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ擔任セシムルコトヲ得

第四條 検査員ノ任命其ノ他検査施行ニ關スル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附則

明治三十六年勅令第五百五十二號ハ之ヲ廢止ス

### ●韓國ニ在ル者ノ徵兵身體検査ニ關スル規程

三十九年十二月  
陸令第十六號

改正

四一年陸令四號  
四一年二七號

明治三十九年勅令第三百十八號ニ依ル徵兵身體検査ニ關スル規程左ノ通定ム

第一條 臺灣、樺太、韓國、露國領沿海州、露國領薩哈噠、清國、香港、澳門ニ在ル者ハ左ノ區分ニ依リ徵兵身體検査ヲ受クルコトヲ得

臺灣ニ在ル者ハ臺灣守備隊

樺太ニ在ル者ハ樺太守備隊

軍隊ヲ統率スル最高級ノ團隊長ハ地方ノ狀況ニ依リ第一項及第二項ノ規定ニ拘ラス陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ適當ノ地ニ検査場ヲ設ケ最近ノ軍隊ヨリ検査員及附屬員ヲ派遣シ徵兵身體検査ヲ施行スルコトヲ得

韓國及其ノ附近ノ地ニ在ル者ハ韓國ニ在ル軍隊  
清國、香港及澳門ニ在ル者ハ關東州若ハ其ノ附近ノ地ニ在ル軍隊、清國駐屯軍又ハ芝罘、上海、厦門ニ在ル帝國領事館

露國領薩哈噠、露國領沿海州及其ノ附近ノ地ニ在ル者ハ樺太守備隊又ハ韓國、清國ニ在ル軍隊  
徵兵身體検査ハ中隊以下ノ軍隊ニ於テハ之ヲ施行セス

同一ノ地又ハ其ノ附近ニ數箇ノ軍隊駐在スル場合ニ於テハ之ヲ統率スル最高級ノ團隊長ニ於テ徵兵身體検査ヲ施行スル軍隊ヲ指定シ豫メ之ヲ公示スヘシ

樺太守備隊ハ検査員及附屬員ヲ「マウカ」ニ派遣シ徵兵身體検査ヲ施行スルコトヲ得  
領事館ニ於テ施行スル徵兵身體検査ハ受檢者僅少ナル場合ニ於テハ附近ノ検査場ニ合併シテ之ヲ施行スルコトアルヘシ

第二條 軍隊ニ於テ施行スル徵兵身體検査ハ其ノ軍隊ヲ統率スル最高級ノ團隊長蓋海ニ在リテハ守備隊司令官之ヲ統轄シ該隊所屬ノ將校ニ検査員ヲ命シ之ニ軍醫及下士ヲ附屬シテ行ハシム

領事館ニ於テ施行スル徵兵身體検査ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ検査員及附屬員ヲ派遣シテ行ハシム

第三條 徵兵身體検査ヲ施行スル時期左ノ如シ

四月一日ヨリ同月五日迄

樺太守備隊 韓國駐劄隊 關東州又ハ其ノ附近ニ在ル軍隊、清國駐屯軍

五月一日ヨリ同月五日迄

厦門帝國領事館

四月一日ヨリ同月五日迄

上海帝國領事館

四月二十日ヨリ同月二十五日迄

芝罘帝國領事館

四月一日ヨリ同月五日迄

第四條 徵兵身體検査ヲ受ケムトスル者ハ検査開始ノ日ヨリ五十日前迄ニ到著スル如ク本籍地府縣都市町村番地及生年月日ヲ記シタル書面ヲ以テ検査ヲ受ケムトスル軍隊又ハ領事館ニ願出ヘシ

前項ノ願ヲ許可シタルトキハ直ニ之ヲ本人本籍地ノ島司郡長又ハ市長ニ通知スヘシ但シ領事館ニ在リテハ許可前豫メ出願人員ヲ陸軍省ニ通報シ指揮ヲ受クルモノトス

第六條 島司郡長又ハ市長第四條ノ通知ヲ受ケタルトキハ壯丁名簿前年假決ノ者ニ在リテハ假決名簿ヲ徵兵身體検査開始前五日迄ニ到著スル如ク検査ヲ施行スル軍隊又ハ領事館ニ送付スヘシ

島司又ハ郡長前項ニ依リ名簿ヲ送付シタルトキハ其ノ旨ヲ當該町村長ニ傳達スヘシ

第七條 第四條第一項ノ願出ヲ爲シタル者傷疾疾病犯罪等ノ爲徵兵身體検査ヲ受ケ難キトキハ當該軍隊又ハ領事館ニ届出ヘシ

第八條 徵兵身體検査終リタルトキハ徵兵検査員ハ壯丁名簿又ハ假決名簿ニ検査ノ結果ヲ記入シ徵兵身體検査ヲ受ケサル者アルトキハ其ノ事由ヲ附記シ直ニ之ヲ本籍地ノ島司郡長又ハ市長ニ送付スヘシ

第九條 本籍地徵募區ノ徵兵署閉鎖後壯丁名簿又ハ假決名簿到著シ抽籤ヲ要スル者ニ在リテハ徵兵事務條例第五十三條該當者ノ例ニ依リ同聯隊區、警備隊區又ハ同師管內便宜ノ徵兵署ニ於テ抽籤ヲ施行シ其ノ徵集順序ヲ定ムヘシ

第十條 第四條第一項ノ願出ヲ爲シタル者當該軍隊又ハ領事館ニ於テ徵兵身體検査ヲ受ケサルトキハ徵兵事務條例ノ規定ニ依リ其ノ年更ニ徵兵身體検査ヲ受ケヘキモノトス

第十一條 第一條ニ掲クル各地方ニ在リテ徵兵令第十二條ニ依リ内地部隊ニ於テ現役ニ服スルコトヲ出願スル者又ハ一年志願兵ヲ志願セムトスル者ニシテ學術試驗ヲ要セサル者身體検査ヲ受ケムトスルトキハ第二條ノ徵兵身體検査期日迄ニ軍隊又ハ領事館ニ願出テ身體検査ヲ受クルコトヲ得

前項ニ依リ身體検査ヲ受ケタル者ノ中合格者ニハ陸軍身體検査手續樣式體格検査表ニ準シ合格證書ヲ付與スヘシ